



群馬大学医学部附属病院
医療統計
2018年度

*Gunma University Hospital
Clinical Statistics 2018*

— 目 次 —

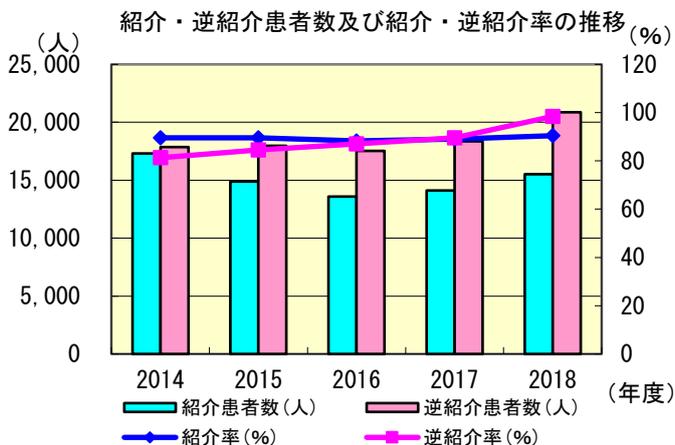
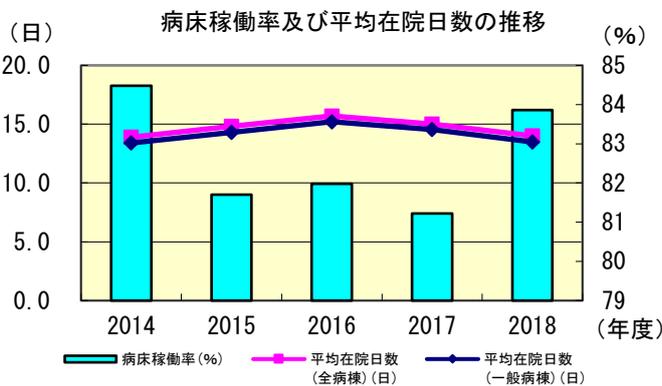
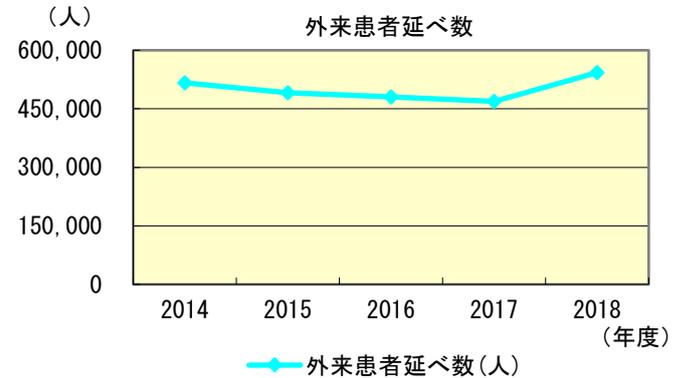
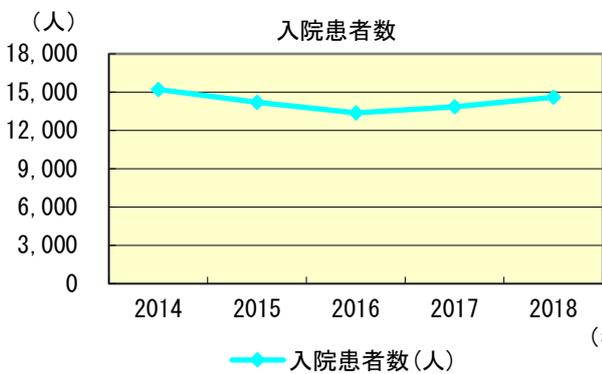
1	医療概要	1
2	先進医療実績	5
3	疾病統計（ICD-10に準拠）（入院患者で医療資源を最も投入した疾患名を基準にした統計）	
	大分類による性別統計	9
	大分類による年齢別・性別統計	10～12
	大分類による入院日数期間別統計	13
	大分類による転帰別統計	14
	大分類別統計	15
	大分類別患者数年度別推移	16
	診療科別主要疾患比率	17～23
4	院内がん登録統計	27～30
5	医療の質管理統計	
	インシデント・アクシデント報告	33
	再入院指標	34
	MRSA検出状況（入院患者）	35
	緩和ケア実施件数	35
	リハビリテーション実施報告	36
6	国立大学病院機能指標	
1	高度医療評価制度・先進医療診療実施数	39
2	手術室内での手術件数	40
3	緊急時間外手術件数	41
4	手術技術度DとEの手術件数	42
5	手術全身麻酔件数	43
6	重症入院患者の手術全身麻酔件数	44
7	臓器移植件数（骨髄）	45
8	脳梗塞の早期リハビリテーション実施率	46
9	急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率	47
10	新生児のうち、出生児体重が1,500g未満の数	48
11	新生児特定集中治療室（NICU）実患者数	49
12	緊急帝王切開数	50
13	直線加速器による定位放射線治療患者数	51
14	放射線科医がCT・MRIの読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合	52
15	放射線科医が核医学検査の読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合	53
16	病理組織診断件数	54

17 術中迅速病理組織診断件数	55
18 薬剤管理指導料算定件数	56
19 外来でがん化学療法を行った延べ患者数	57
20 無菌製剤処理料算定件数	58
21 褥瘡発生率	59
22 手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率	60
23 手術あり患者の肺塞栓症の発生率	61
24 多剤耐性緑膿菌（MDRP）による院内感染症発生患者数	62
25 CPC（臨床病理検討会）の検討症例率	63
26 新規外来患者数	64
27 初回入院患者数	65
28 10例以上適用したクリニカルパス（クリティカルパス）の数	66
29 在院日数の指標	67
30 患者構成の指標	68
31 指定難病患者数	69
32 初期研修医採用人数（医科）	70
33 他大学卒業の初期研修医の採用割合（医科）	71
34 専門医、認定医の新規資格取得者数	72
35 指導医数	73
36 専門研修コース（後期研修コース）の新規採用人数（医科）	74
37 看護職員の研修受入数（外部の医療機関などから）	75
38 看護学生の受入実習学生数（自大学から）	76
39 看護学生の受入実習学生数（自大学以外の養成教育機関から）	77
40 薬剤師の研修受入人数（外部の医療機関などから）	78
41 薬学生の受入実習学生数（自大学以外の養成教育機関から）	79
42 その他医療専門職の研修受入数（外部の医療機関などから）	80
43 その他医療専門職学生の受入実習学生数（自大学から）	81
44 その他医療専門職学生の受入実習学生数（自大学以外の養成教育機関から）	82
45 全医療従事者向け研修・講習会開催数	83
46 初期臨床研修指導医講習会の新規修了者	84
47 基本19診療領域別後期研修新規登録者数	85
48 治験の実施症例件数	86
49 治験審査委員会・倫理委員会で審査された自主臨床試験の件数	87
50 医師主導治験件数	88
51 研究推進を担当する専任教員数	89
52 救命救急患者数	90
53 二次医療圏外からの外来患者の割合	91
54 公開講座等（セミナー）の主催数	92

55 地域への医師派遣数	93
56 地域の行政機関の委員会・協議会等へ参画している件数	94
57 自病院で総合案内での患者対応が可能な言語数（日本語を除く）	95
58 院内案内の表示言語数（日本語を除く）	96
59 病院ホームページの対応言語数（日本語を除く）	97
60 海外大学病院及び医学部との交流協定締結数	98
61 病床稼働率（一般病床）	99
62 病床稼働率（精神病床）	100
63 病床稼働率（結核病床）	101
64 平均在院日数（一般病床）	102
65 平均在院日数（精神病床）	103
66 平均在院日数（結核病床）	104
67 病床回転数（一般病床）	105
68 病床回転数（精神病床）	106
69 病床回転数（結核病床）	107
70 紹介率（医科）	108
71 逆紹介率（医科）	109
72 一般病棟の重症度、医療・看護必要度	110
73 後発医薬品使用率（数量ベース）	111
74 現金収入率（病院セグメント）	112
75 業務損益収支率（病院セグメント）	113
76 債務償還経費占有率	114
77 院外処方せん発行率	115
78 研修指導歯科医数	116
79 専門医、認定医の新規資格取得者数（歯科）	117
80 初期研修歯科医採用人数	118
81 歯科衛生士の受入実習学生数	119
82 年間延べ外来患者数（歯科）	120
83 周術期口腔機能管理料算定数	121
84 歯科領域の特定疾患患者数	122
85 紹介率（歯科）	123
86 逆紹介率（歯科）	124

1 医療概要

項目		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
全体指標	入院患者	入院患者数(人)	15,210	14,193	13,378	13,855	14,611
		退院患者数(人)	15,232	14,156	13,621	14,152	14,952
		入院患者延べ数(人)	224,430	217,915	218,738	216,716	222,953
		平均在院日数(全病棟)(日)	13.89	14.81	15.70	15.02	14.00
		平均在院日数(一般病棟)(日)	13.40	14.27	15.21	14.55	13.50
		1日平均患者数(人)	615.66	595.40	599.28	593.74	610.80
		病床稼働率(%)	84.48	81.45	81.98	81.22	83.86
		院内死亡患者数(人)	318	315	323	323	315
		死亡率(%)	2.09	2.23	2.41	2.33	2.11
	外来患者	外来患者延べ数(人)	516,576	491,107	480,214	468,980	542,910
		初診患者数(人)	23,801	21,435	20,137	20,486	26,150
		紹介患者数(人)	17,297	14,881	13,595	14,123	15,514
		救急車搬入数(初診)(人)	2,177	2,430	2,500	2,466	2,720
		救急車搬入数(再診)(人)	476	467	691	790	792
		逆紹介患者数(人)	17,860	18,108	17,536	18,345	20,866
		紹介率(%)	89.61	89.36	88.29	89.00	90.45
		逆紹介率(%)	81.32	84.48	87.08	89.55	98.42
		1日平均患者数(人)	2,117.11	2,021.02	1,976.19	1,922.05	2,225.04
		病床数		725 2014.8月~ 731	731	731	731

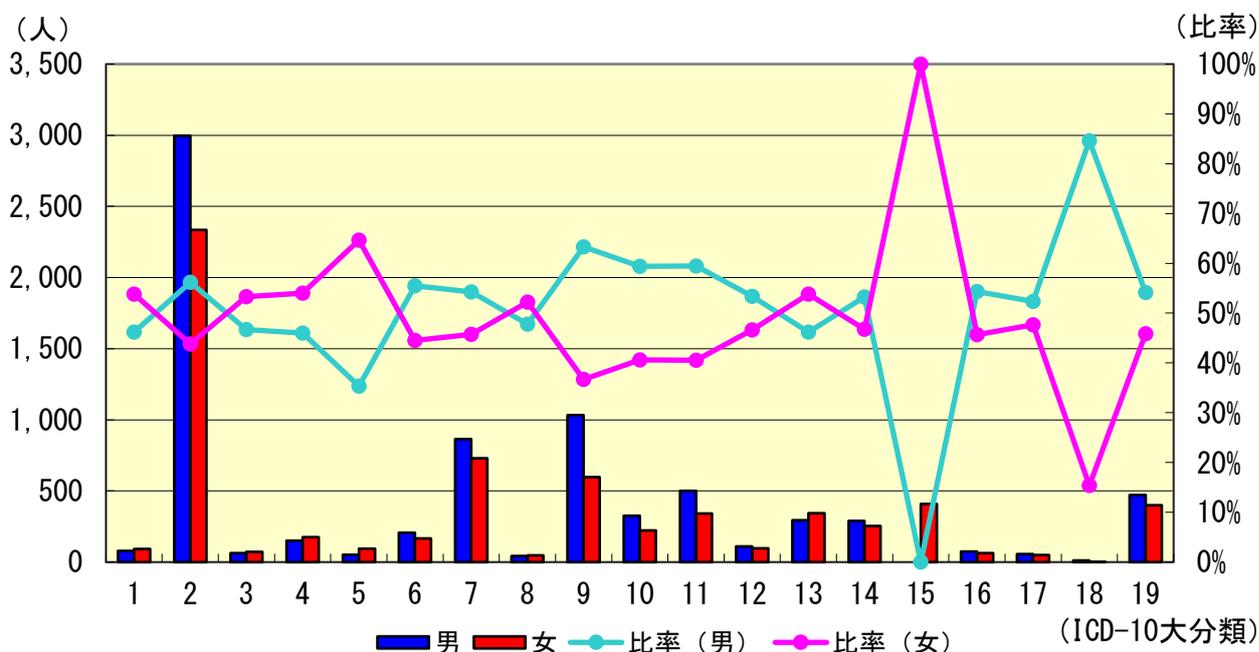


2 先進医療実績

3 疾病統計（ICD-10に準拠）

（入院患者で医療資源を最も投入した疾患名を基準にした統計）

1 ICD-10大分類による性別統計



単位：件

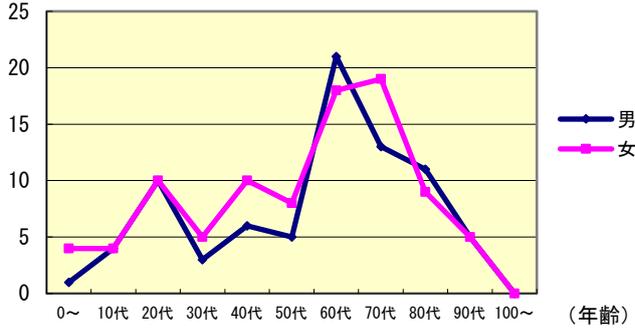
大分類		男	女	総計	比率(男)	比率(女)
1	感染症および寄生虫症 (A00-B99)	79	92	171	46.2%	53.8%
2	新生物 (C00-D48)	2,997	2,335	5,332	56.2%	43.8%
3	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50-D89)	64	73	137	46.7%	53.3%
4	内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	150	176	326	46.0%	54.0%
5	精神および行動の障害 (F00-F99)	52	95	147	35.4%	64.6%
6	神経系の疾患 (G00-G99)	207	166	373	55.5%	44.5%
7	眼および付属器の疾患 (H00-H59)	865	729	1,594	54.3%	45.7%
8	耳および乳様突起の疾患 (H60-H95)	43	47	90	47.8%	52.2%
9	循環器系の疾患 (I00-I99)	1,032	598	1,630	63.3%	36.7%
10	呼吸器系の疾患 (J00-J99)	326	223	549	59.4%	40.6%
11	消化器系の疾患 (K00-K93)	502	342	844	59.5%	40.5%
12	皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	111	97	208	53.4%	46.6%
13	筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	294	343	637	46.2%	53.8%
14	腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	290	255	545	53.2%	46.8%
15	妊娠分娩および産じょく<褥> (O00-O99)	0	408	408	0.0%	100.0%
16	周産期に発生した病態 (P00-P96)	75	63	138	54.3%	45.7%
17	先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	56	51	107	52.3%	47.7%
18	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	11	2	13	84.6%	15.4%
19	損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	472	400	872	54.1%	45.9%
総計		7,626	6,495	14,121	54.0%	46.0%

(入院患者で医療資源を最も投入した疾患名を基準にした統計)

2 ICD-10大分類による年齢別・性別統計

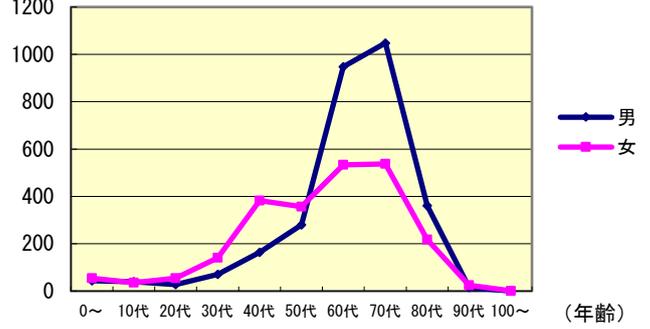
1 感染症および寄生虫症 (A00-B99)

(患者数)



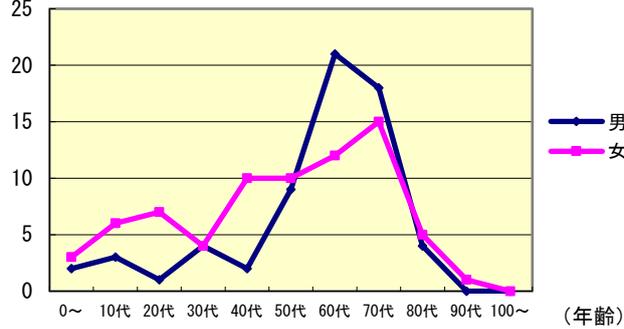
2 新生物 (C00-D48)

(患者数)



3 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50-D89)

(患者数)



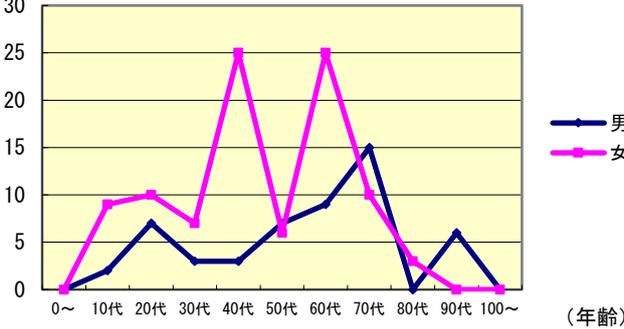
4 内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)

(患者数)



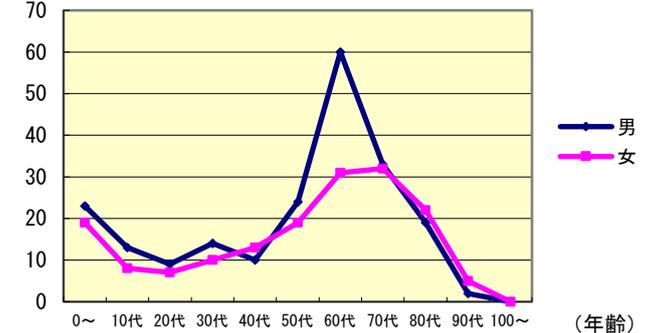
5 精神および行動の障害 (F00-F99)

(患者数)



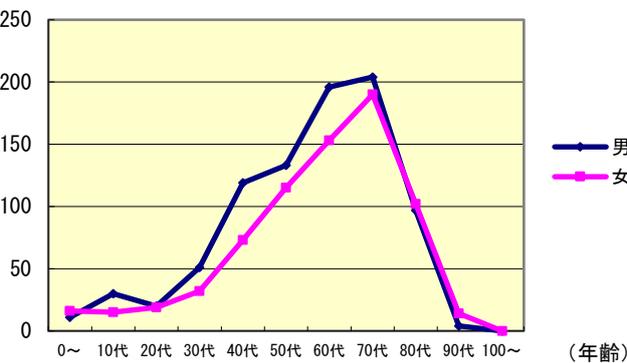
6 神経系の疾患 (G00-G99)

(患者数)



7 眼および付属器の疾患 (H00-H59)

(患者数)

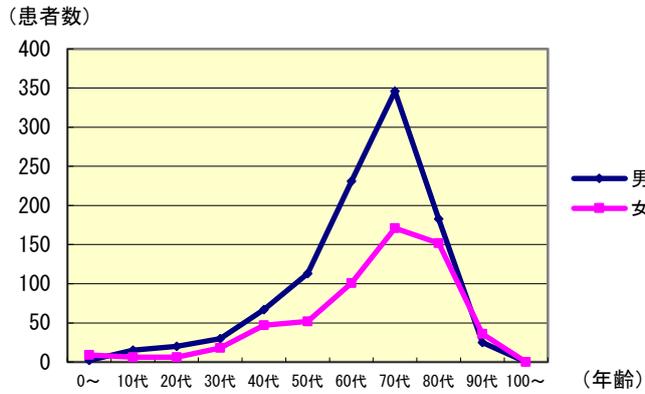


8 耳および乳様突起の疾患 (H60-H95)

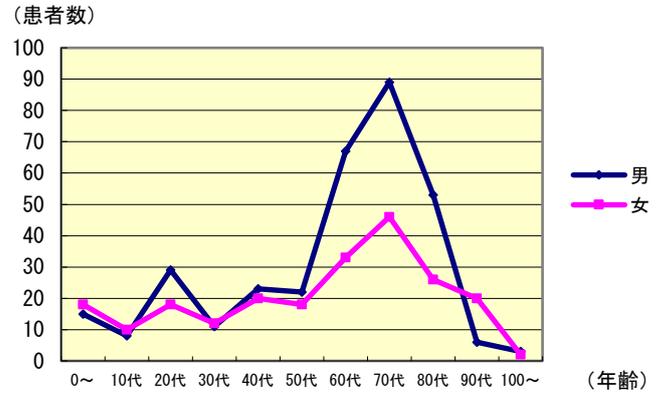
(患者数)



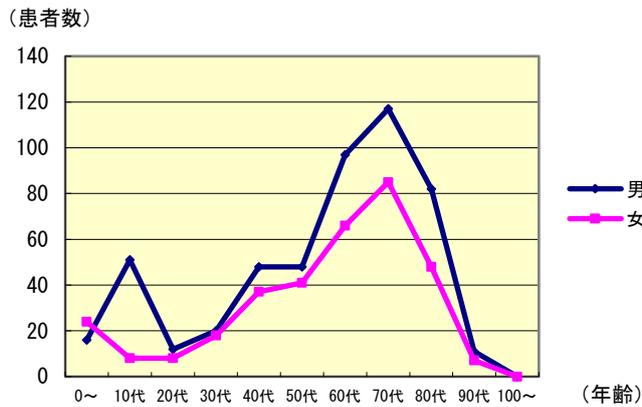
9 循環器系の疾患 (I00-I99)



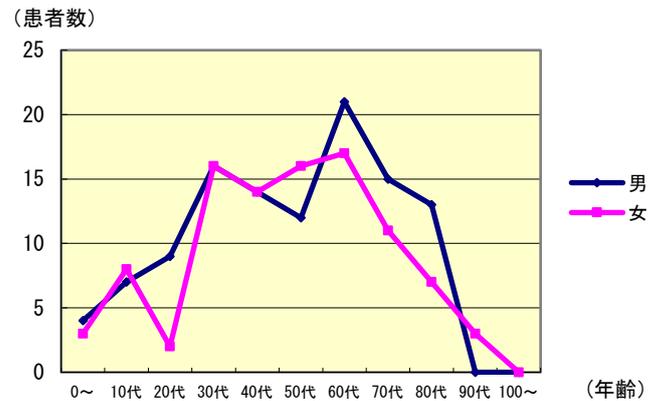
10 呼吸器系の疾患 (J00-J99)



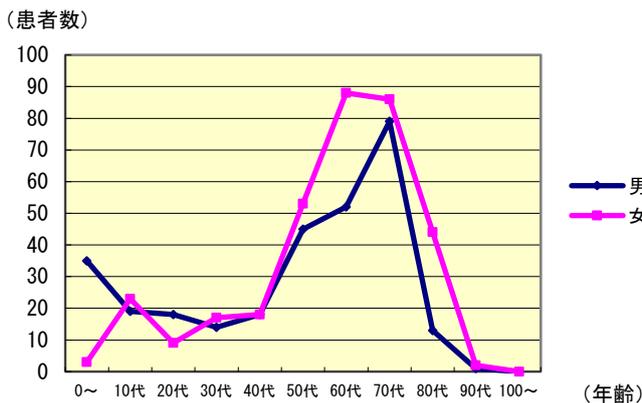
11 消化器系の疾患 (K00-K93)



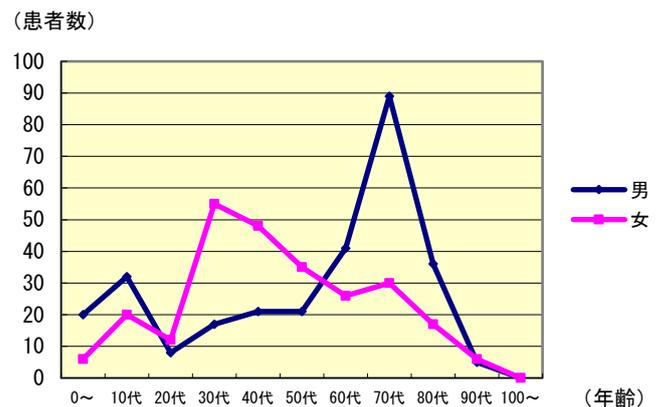
12 皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)



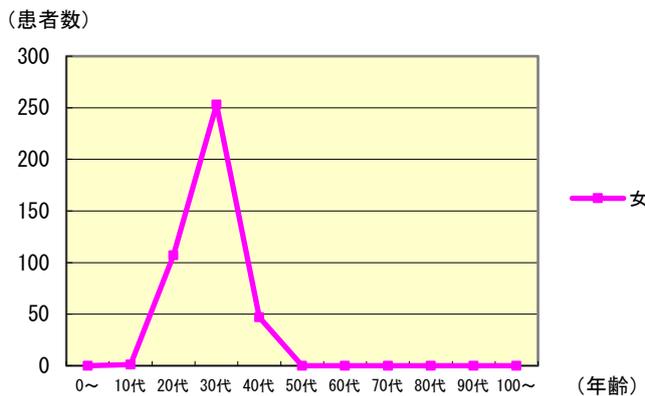
13 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)



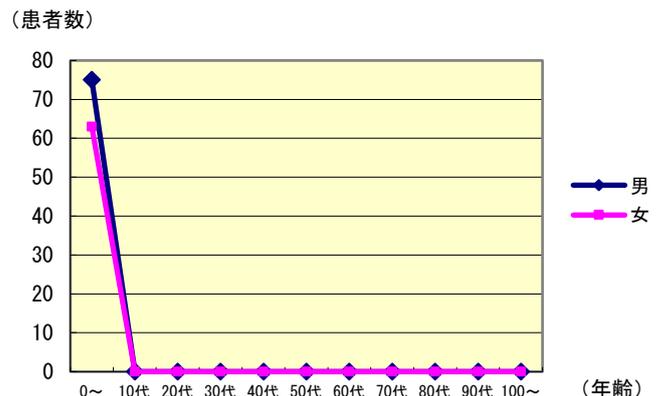
14 腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)



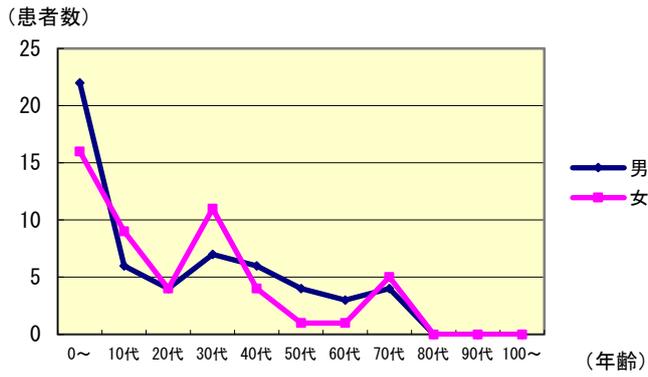
15 妊娠分娩および産じょく<褥> (O00-O99)



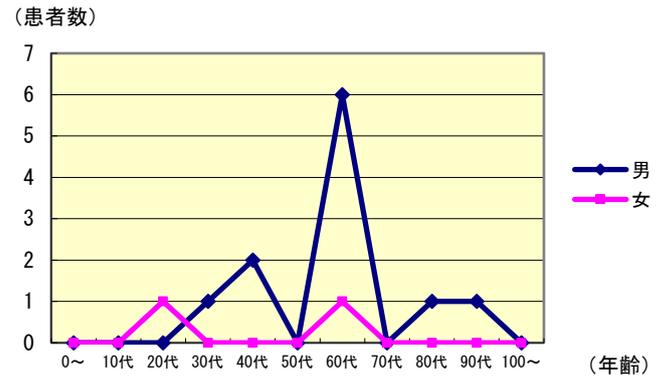
16 周産期に発生した病態 (P00-P96)



17 先天奇形、変形および染色体異常
(Q00-Q99)



18 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
(R00-R99)



19 損傷、中毒およびその他の外因の影響
(S00-T98)



(入院患者で医療資源を最も投入した疾患名を基準にした統計)

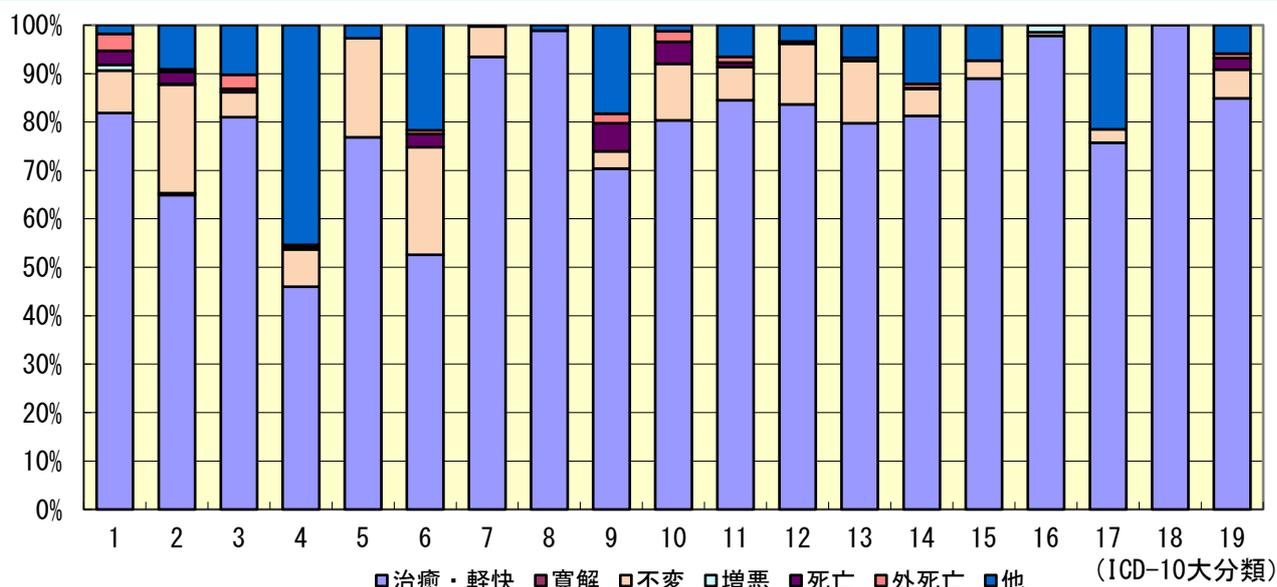
3 ICD-10大分類による入院日数期間別統計

単位：件

大分類／日数		1日 7日	8日 14日	15日 30日	31日 60日	61日 90日	91日 180日	181日 365日	366日 	平均入 院日数	総計
1	感染症および寄生虫症 (A00-B99)	55	49	40	15	4	7	1		19.8	191
2	新生物(C00-D48)	2,068	1,496	1,048	466	178	60	15	1	16.7	5,349
3	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50-D89)	37	33	29	33	1	4			23.7	161
4	内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	121	84	96	15	4	5	1		15.3	341
5	精神および行動の障害 (F00-F99)	40	12	23	20	21	27	1	3	56.0	203
6	神経系の疾患 (G00-G99)	122	104	97	39	5	6			16.6	390
7	眼および付属器の疾患 (H00-H59)	1,377	158	55	3		1			6.4	1,594
8	耳および乳様突起の疾患 (H60-H95)	45	38	6	1					7.8	90
9	循環器系の疾患 (I00-I99)	839	305	306	136	30	11	3		13.6	1,630
10	呼吸器系の疾患 (J00-J99)	198	166	112	59	7	6	1		16.5	549
11	消化器系の疾患 (K00-K93)	393	209	156	63	13	9	1		13.9	844
12	皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	97	58	29	9	9	6			16.0	208
13	筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	152	123	259	76	20	6		1	20.6	637
14	腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	353	85	66	31	8	1	1		10.5	545
15	妊娠分娩および産じょく <褥>(O00-O99)	116	222	47	15	8				12.0	408
16	周産期に発生した病態 (P00-P96)	45	31	22	15	12	12	1		29.8	138
17	先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	73	17	11	4	2				9.2	107
18	症状、徴候および異常臨床 所見・異常検査所見で他に 分類されないもの (R00-R99)	9	3	1						7.1	13
19	損傷、中毒およびその他の 外因の影響 (S00-T98)	471	166	187	36	6	3	2	1	11.8	872
総計		6,611	3,359	2,590	1,036	328	164	27	6	14.9	14,121

(入院患者で医療資源を最も投入した疾患名を基準にした統計)

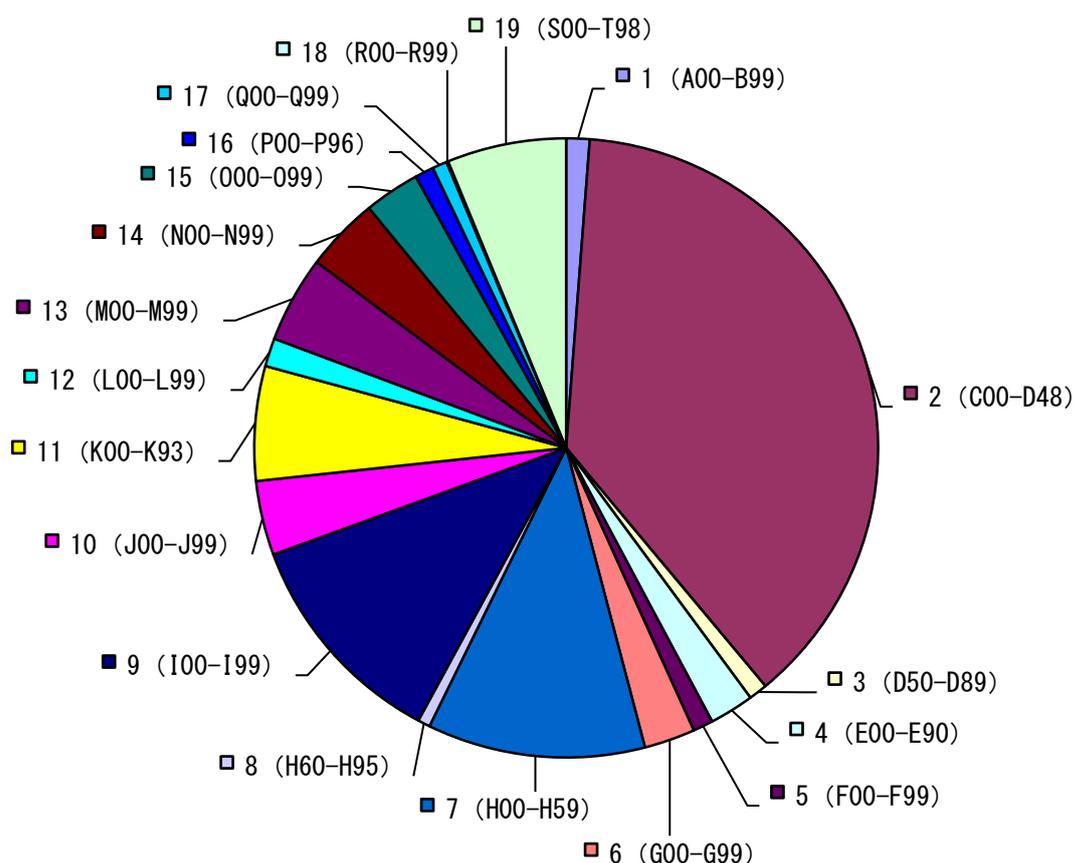
4 ICD-10大分類による転帰別統計



大分類	治癒・軽快	寛解	不変	増悪	死亡	外死亡	他	総計
1 感染症および寄生虫症 (A00-B99)	140		15	2	5	6	3	171
2 新生物 (C00-D48)	3,460	21	1,196	9	132	27	487	5,332
3 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50-D89)	111		7		1	4	14	137
4 内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	150		25		2	1	148	326
5 精神および行動の障害 (F00-F99)	113		30				4	147
6 神経系の疾患 (G00-G99)	196		83		10	3	81	373
7 眼および付属器の疾患 (H00-H59)	1,490		100				4	1,594
8 耳および乳様突起の疾患 (H60-H95)	89						1	90
9 循環器系の疾患 (I00-I99)	1,147		58		95	32	298	1,630
10 呼吸器系の疾患 (J00-J99)	441		64		25	12	7	549
11 消化器系の疾患 (K00-K93)	713		58		8	10	55	844
12 皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	174		26			1	7	208
13 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	508		82			4	43	637
14 腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	443		30		1	5	66	545
15 妊娠分娩および産じょく<褥> (O00-O99)	363		15				30	408
16 周産期に発生した病態 (P00-P96)	135		1	2				138
17 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	81		3				23	107
18 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	13							13
19 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	740		52		21	8	51	872
総計	10,507	21	1,845	13	300	113	1,322	14,121

※外死亡…医療資源を最も投入した疾患以外の死亡
(入院患者で医療資源を最も投入した疾患名を基準にした統計)

5 ICD-10大分類別統計

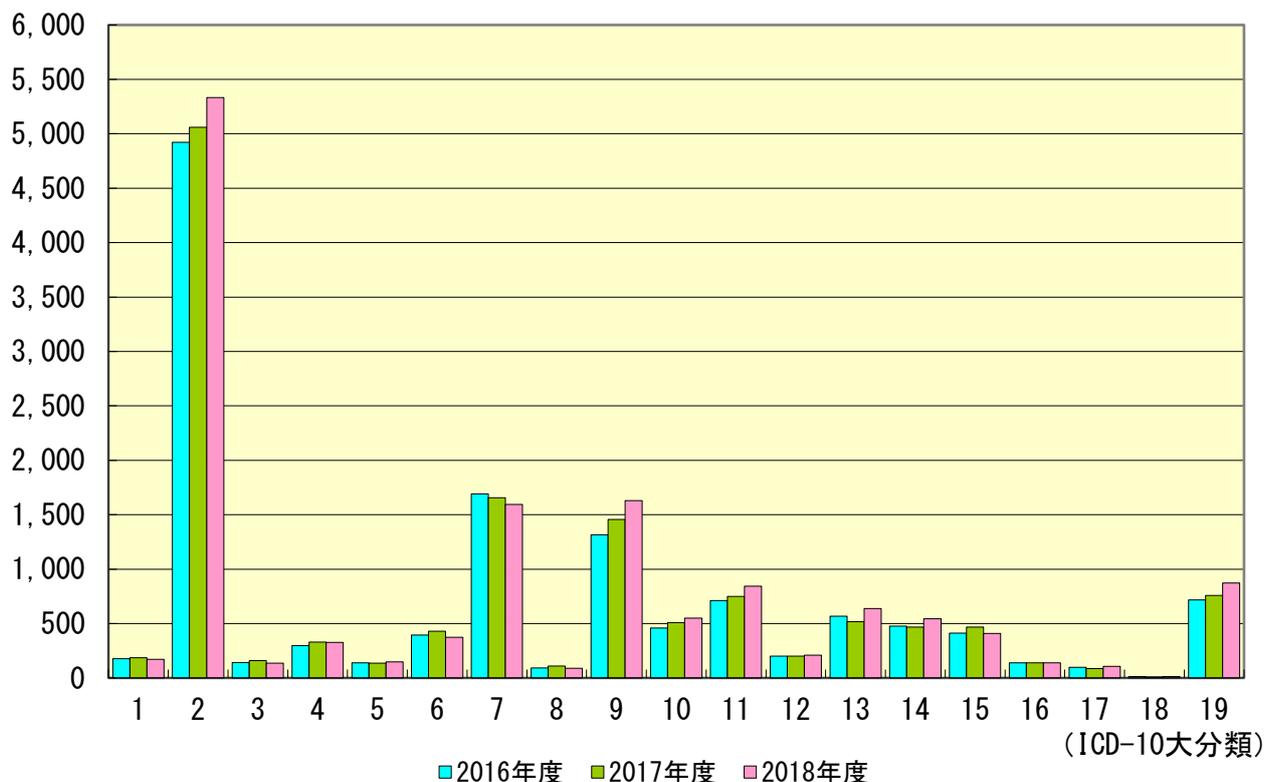


大分類	集計	比率
1 感染症および寄生虫症 (A00-B99)	171	1.2%
2 新生物 (C00-D48)	5,332	37.8%
3 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50-D89)	137	1.0%
4 内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	326	2.3%
5 精神および行動の障害 (F00-F99)	147	1.0%
6 神経系の疾患 (G00-G99)	373	2.6%
7 眼および付属器の疾患 (H00-H59)	1,594	11.3%
8 耳および乳様突起の疾患 (H60-H95)	90	0.6%
9 循環器系の疾患 (I00-I99)	1,630	11.5%
10 呼吸器系の疾患 (J00-J99)	549	3.9%
11 消化器系の疾患 (K00-K93)	844	6.0%
12 皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	208	1.5%
13 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	637	4.5%
14 腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	545	3.9%
15 妊娠分娩および産じょく<褥> (O00-O99)	408	2.9%
16 周産期に発生した病態 (P00-P96)	138	1.0%
17 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	107	0.8%
18 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	13	0.1%
19 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	872	6.2%
総計	14,121	

(入院患者で医療資源を最も投入した疾患名を基準にした統計)

6 ICD-10大分類別患者数 年度別推移

(患者数)



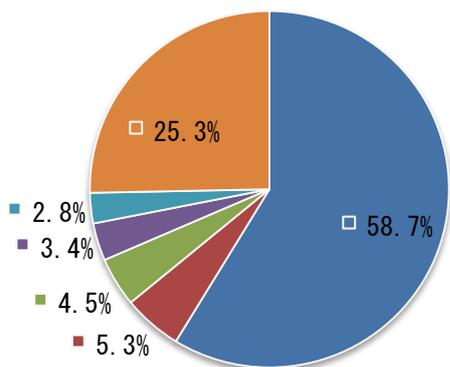
単位：件

大分類		2016年度	2017年度	2018年度
1	感染症および寄生虫症 (A00-B99)	176	186	171
2	新生物 (C00-D48)	4,922	5,061	5,332
3	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50-D89)	143	158	137
4	内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	297	329	326
5	精神および行動の障害 (F00-F99)	140	135	147
6	神経系の疾患 (G00-G99)	394	429	373
7	眼および付属器の疾患 (H00-H59)	1,691	1,655	1,594
8	耳および乳様突起の疾患 (H60-H95)	91	108	90
9	循環器系の疾患 (I00-I99)	1,317	1,455	1,630
10	呼吸器系の疾患 (J00-J99)	458	510	549
11	消化器系の疾患 (K00-K93)	712	750	844
12	皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	201	200	208
13	筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	568	517	637
14	腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	476	466	545
15	妊娠分娩および産じょく<褥> (O00-O99)	412	467	408
16	周産期に発生した病態 (P00-P96)	139	140	138
17	先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	98	85	107
18	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	13	11	13
19	損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	717	758	872
集計		12,965	13,420	14,121

(入院患者で医療資源を最も投入した疾患名を基準にした統計)

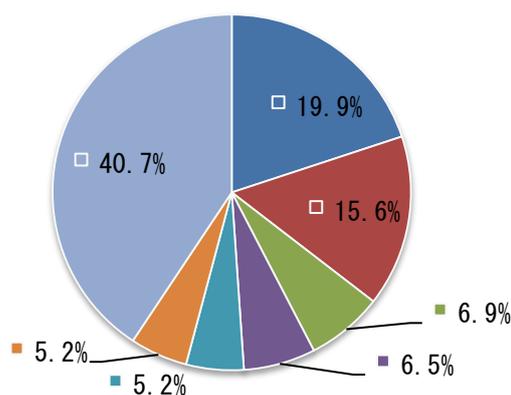
7 診療科別 主要疾患比率

■呼吸器・アレルギー内科



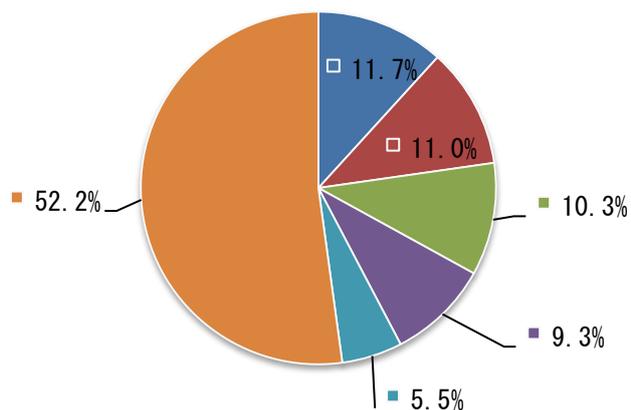
- C34 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>
- J84 その他の間質性肺疾患
- J15 細菌性肺炎, 他に分類されないもの
- J99 他に分類される疾患における呼吸器障害
- J93 気胸
- その他

■内分泌糖尿病内科



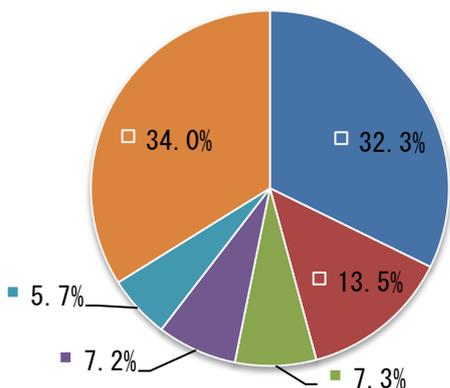
- E11 2型<インスリン非依存性>糖尿病<NIDDM>
- E23 下垂体機能低下症及びその他の下垂体障害
- O24 妊娠中の糖尿病
- E24 クッシング<Cushing>症候群
- E10 1型<インスリン依存性>糖尿病<IDDM>
- C75 その他の内分泌腺及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>
- その他

■消化器・肝臓内科



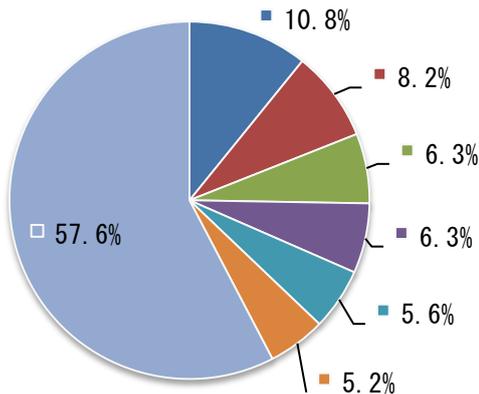
- C22 肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>
- C16 胃の悪性新生物<腫瘍>
- C18 結腸の悪性新生物<腫瘍>
- K63 腸のその他の疾患
- D37 口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>
- その他

■循環器内科



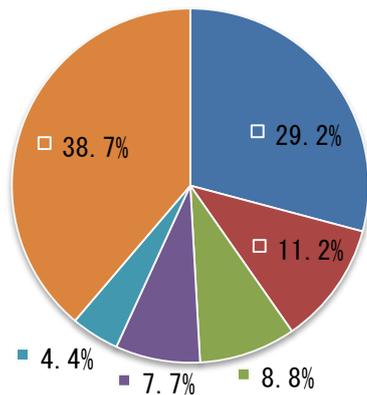
- I20 狭心症
- I50 心不全
- I48 心房細動及び粗動
- I47 発作性頻拍(症)
- I21 急性心筋梗塞
- その他

■腎臓・リウマチ内科



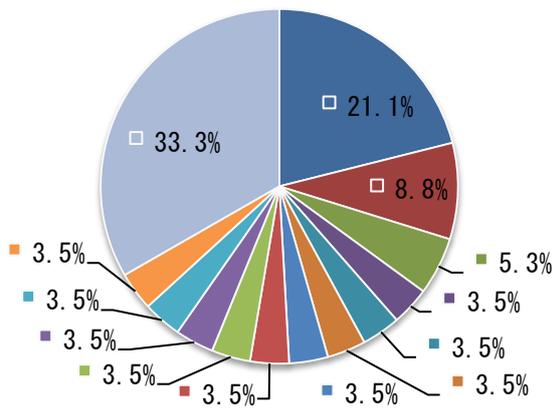
- M32 全身性エリテマトーデス<紅斑性狼瘡><SLE>
- M31 その他のえく壊>死性血管障害
- N02 反復性及び持続性血尿
- M35 その他の全身性結合組織疾患
- N04 ネフローゼ症候群
- M33 皮膚(多発性)筋炎
- その他

■血液内科



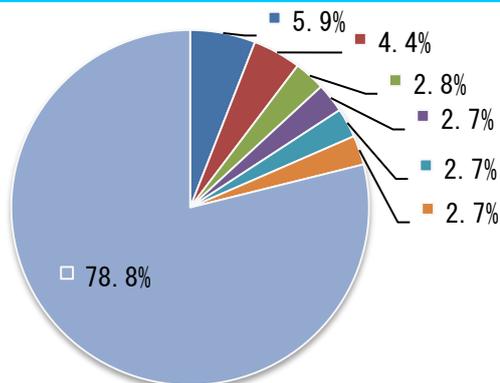
- C83 非ろく濾>胞性リンパ腫
- C92 骨髄性白血病
- C90 多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物<腫瘍>
- C91 リンパ性白血病
- C85 非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫のその他及び詳細不明の型
- その他

■小児外科



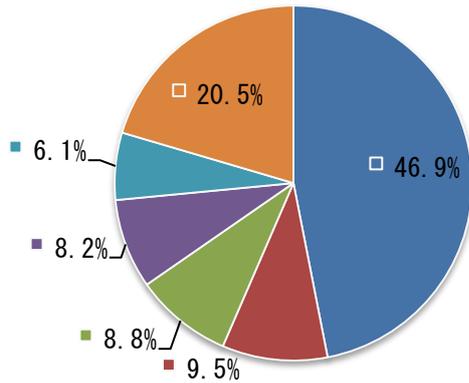
- K40 そけい<鼠径>ヘルニア
- K51 潰瘍性大腸炎
- Q53 停留精巣<睾丸>
- N13 閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患
- Q40 上部消化管のその他の先天奇形
- K21 胃食道逆流症
- Q33 肺の先天奇形
- K35 急性虫垂炎
- Q44 胆のう<嚢>, 胆管及び肝の先天奇形
- Q62 腎盂の先天性閉塞性欠損及び尿管の先天奇形
- K83 胆道のその他の疾患
- Q64 尿路系のその他の先天奇形
- その他

■救急科



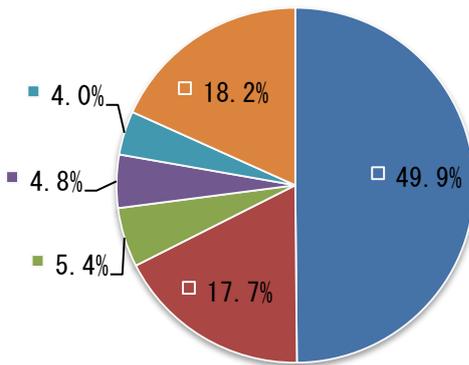
- S06 頭蓋内損傷
- I51 心疾患の合併症及び診断名不明確な心疾患の記載
- J15 細菌性肺炎, 他に分類されないもの
- J69 固形物及び液状物による肺臓炎
- H81 前庭機能障害
- T67 熱及び光線の作用
- その他

■循環器外科



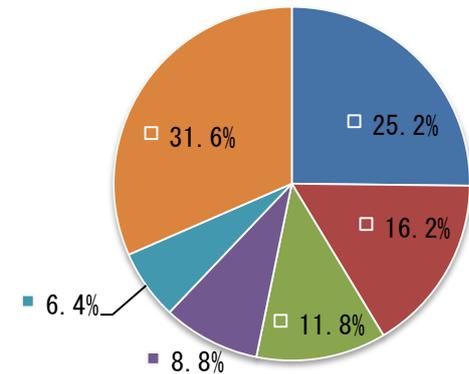
- 171 大動脈瘤及び解離
- 135 非リウマチ性大動脈弁障害
- 172 その他の動脈瘤及び解離
- 120 狭心症
- 134 非リウマチ性僧帽弁障害
- その他

■呼吸器外科



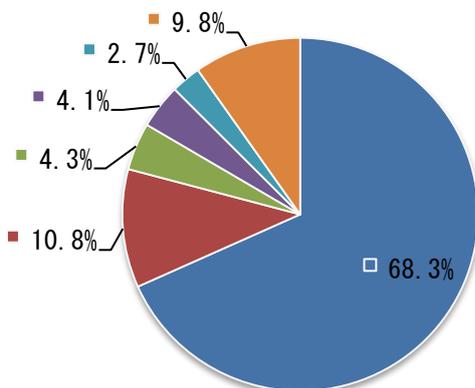
- C34 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>
- C78 呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物<腫瘍>
- C37 胸腺の悪性新生物<腫瘍>
- J93 気胸
- D38 中耳, 呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>
- その他

■消化管外科



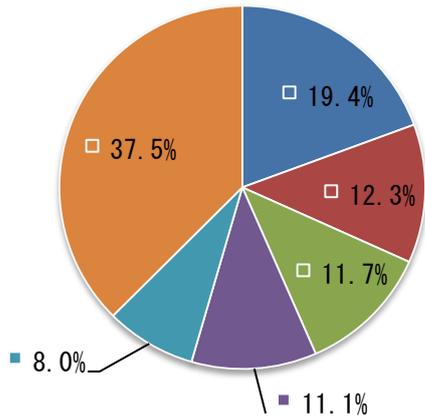
- C15 食道の悪性新生物<腫瘍>
- C16 胃の悪性新生物<腫瘍>
- C18 結腸の悪性新生物<腫瘍>
- C20 直腸の悪性新生物<腫瘍>
- K56 麻痺性イレウス及び腸閉塞, ヘルニアを伴わないもの
- その他

■乳腺・内分泌外科



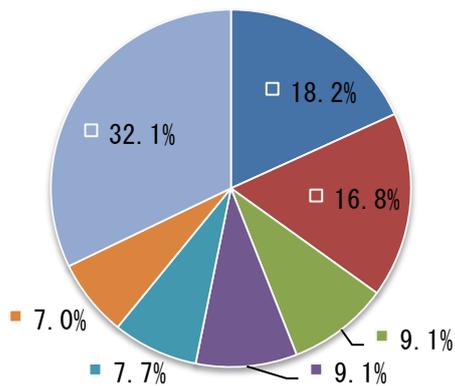
- C50 乳房の悪性新生物<腫瘍>
- C73 甲状腺の悪性新生物<腫瘍>
- E04 その他の非中毒性甲状腺腫
- E05 甲状腺中毒症 [甲状腺機能亢進症]
- C77 リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>
- その他

■肝胆臓外科



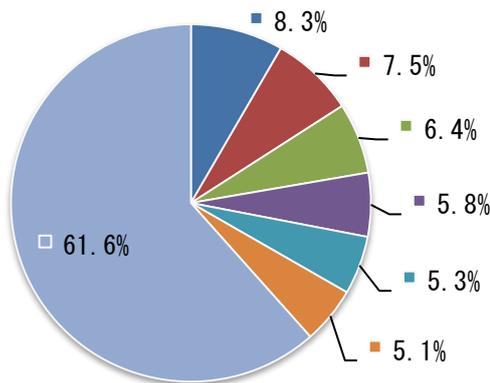
- C25 脾の悪性新生物<腫瘍>
- C22 肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>
- K80 胆石症
- C78 呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物<腫瘍>
- D37 口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>
- その他

■精神科神経科



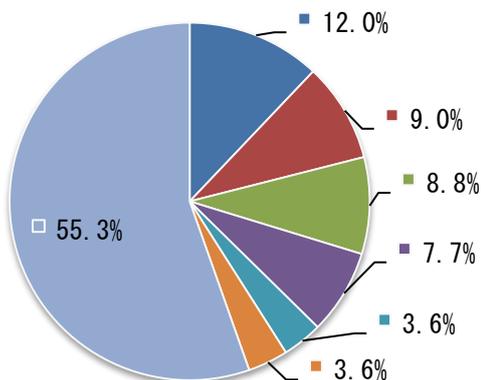
- F20 統合失調症
- F32 うつ病エピソード
- F50 摂食障害
- F31 双極性感情障害<躁うつ病>
- F06 脳の損傷及び機能不全並びに身体疾患によるその他の精神障害
- F33 反復性うつ病性障害
- その他

■小児科



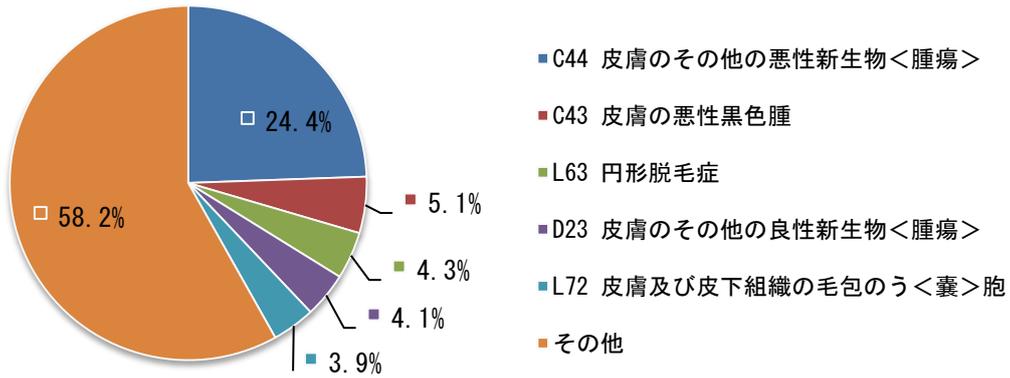
- P07 妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害, 他に分類されないもの
- C91 リンパ性白血病
- M08 若年性関節炎
- T78 有害作用, 他に分類されないもの
- G47 睡眠障害
- P59 その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸
- その他

■整形外科

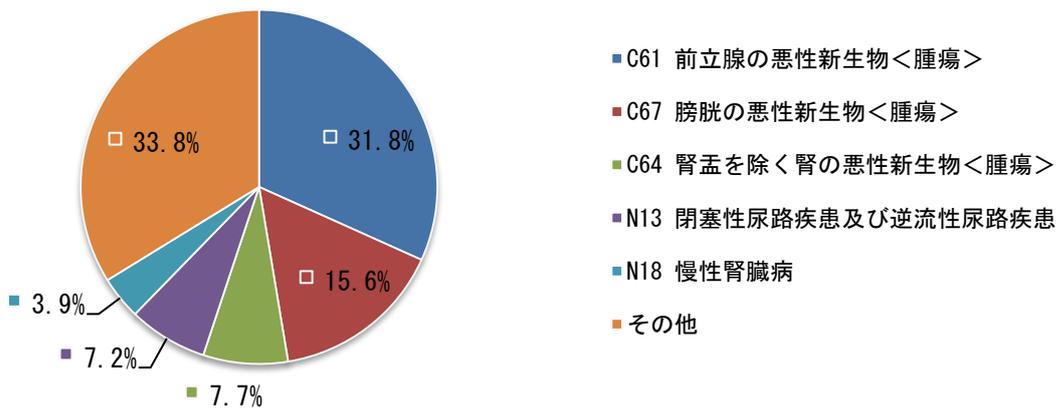


- S46 肩及び上腕の筋及び腱の損傷
- C49 その他の結合組織及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>
- M48 その他の脊椎障害
- D48 その他及び部位不明の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>
- M17 膝関節症 [膝の関節症]
- M06 その他の関節リウマチ
- その他

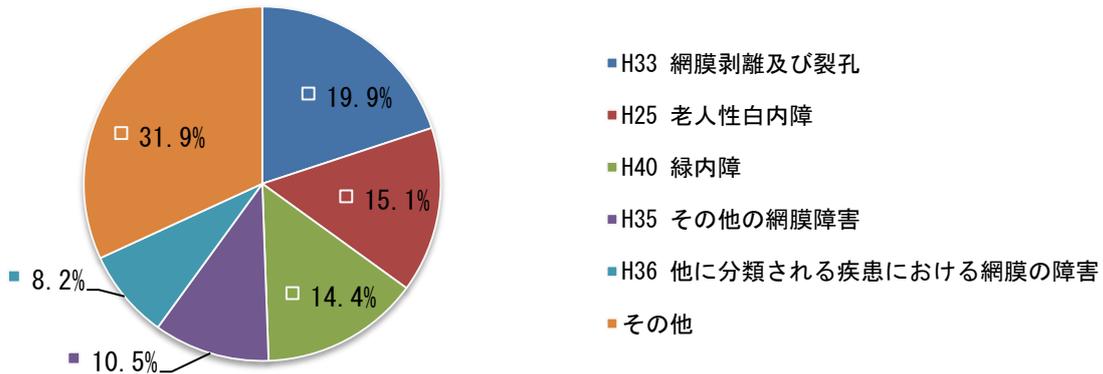
■皮膚科



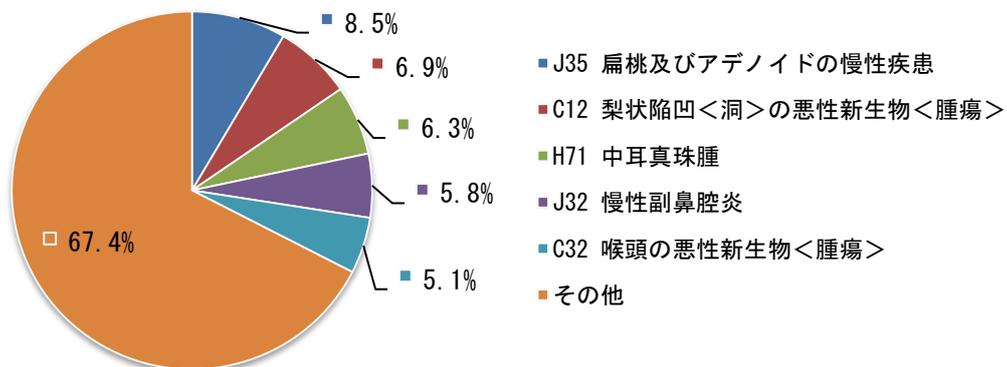
■泌尿器科



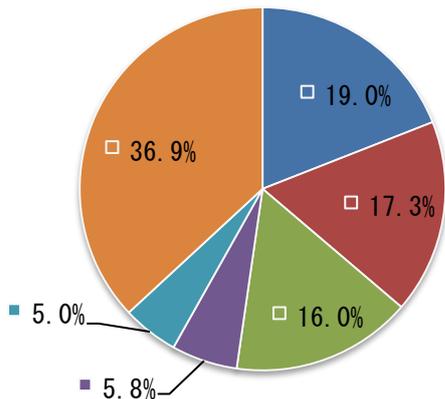
■眼科



■耳鼻咽喉科

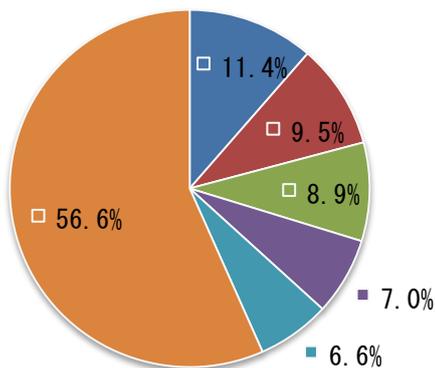


■放射線科



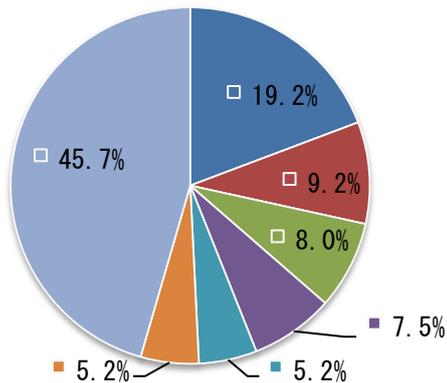
- C22 肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>
- C53 子宮頸部の悪性新生物<腫瘍>
- C25 膵の悪性新生物<腫瘍>
- C34 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>
- C41 その他及び部位不明の骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>
- その他

■産科婦人科



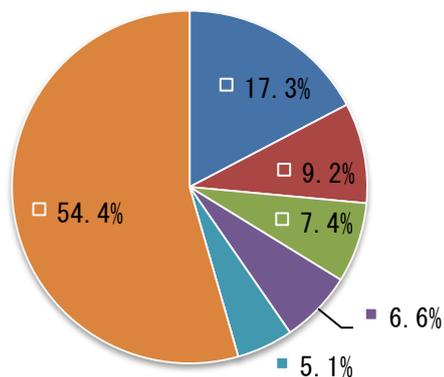
- O24 妊娠中の糖尿病
- C56 卵巣の悪性新生物<腫瘍>
- C54 子宮体部の悪性新生物<腫瘍>
- C53 子宮頸部の悪性新生物<腫瘍>
- D25 子宮平滑筋腫
- その他

■脳神経外科



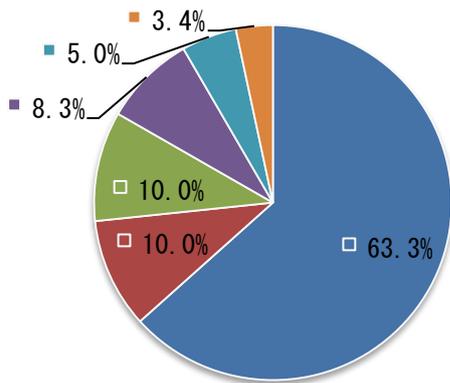
- I63 脳梗塞
- C71 脳の悪性新生物<腫瘍>
- I61 脳内出血
- S06 頭蓋内損傷
- D35 その他及び部位不明の内分泌腺の良性新生物<腫瘍>
- I67 その他の脳血管疾患
- その他

■脳神経内科



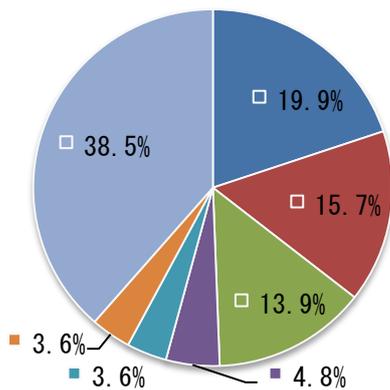
- G12 脊髄性筋萎縮症及び関連症候群
- I63 脳梗塞
- G61 炎症性多発（性）ニューロパチ<シ>
- G70 重症筋無力症及びその他の神経筋障害
- G23 基底核のその他の変性疾患
- その他

■核医学科



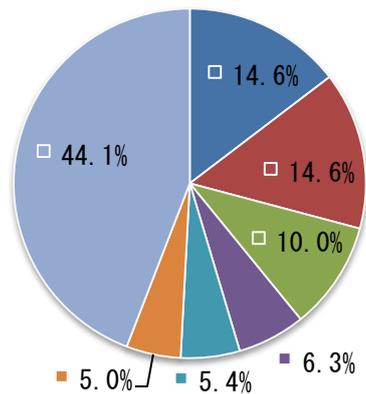
- C73 甲状腺の悪性新生物<腫瘍>
- C64 腎盂を除く腎の悪性新生物<腫瘍>
- C74 副腎の悪性新生物<腫瘍>
- C22 肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>
- E05 甲状腺中毒症 [甲状腺機能亢進症]
- その他

■形成外科



- C50 乳房の悪性新生物<腫瘍>
- T88 外科的及び内科的ケアのその他の合併症,他に分類されないもの
- S02 頭蓋骨及び顔面骨の骨折
- D17 良性脂肪腫性新生物<腫瘍> (脂肪腫を含む)
- L91 皮膚の肥厚性障害
- D48 その他及び部位不明の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>
- その他

■歯科口腔・顎顔面外科



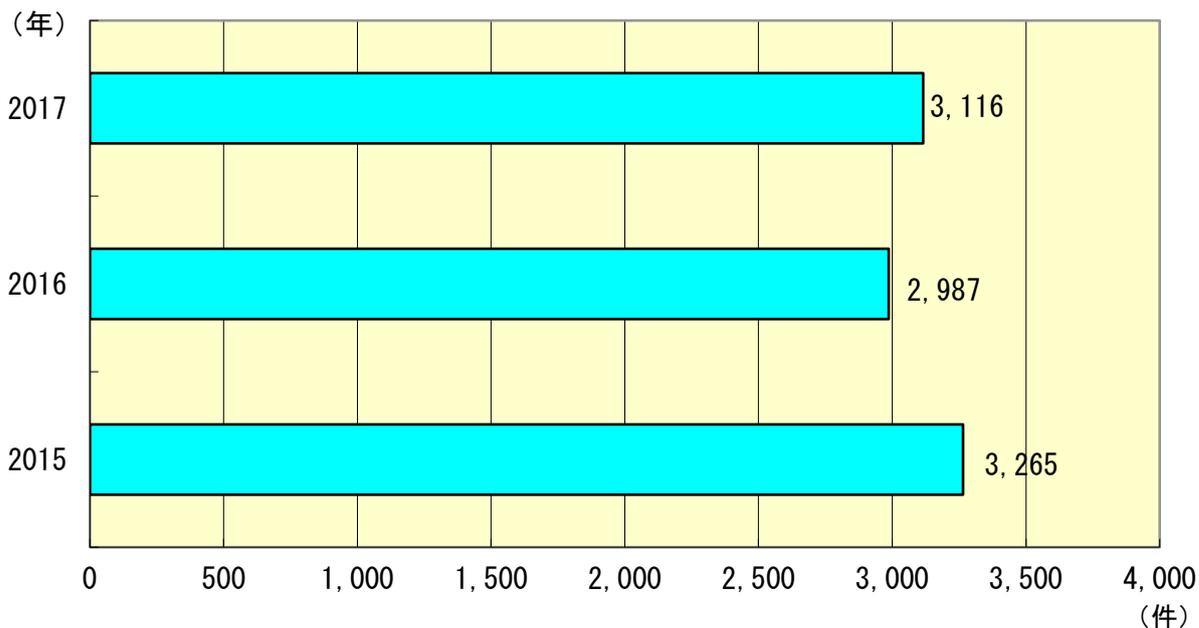
- C02 舌のその他及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>
- C03 歯肉の悪性新生物<腫瘍>
- K04 歯髄及び根尖部歯周組織の疾患
- K07 歯顎顔面 (先天) 異常 [不正咬合を含む]
- C06 その他及び部位不明の口腔の悪性新生物<腫瘍>
- J32 慢性副鼻腔炎
- その他

(入院患者で医療資源を最も投入した疾患名を基準にした統計)

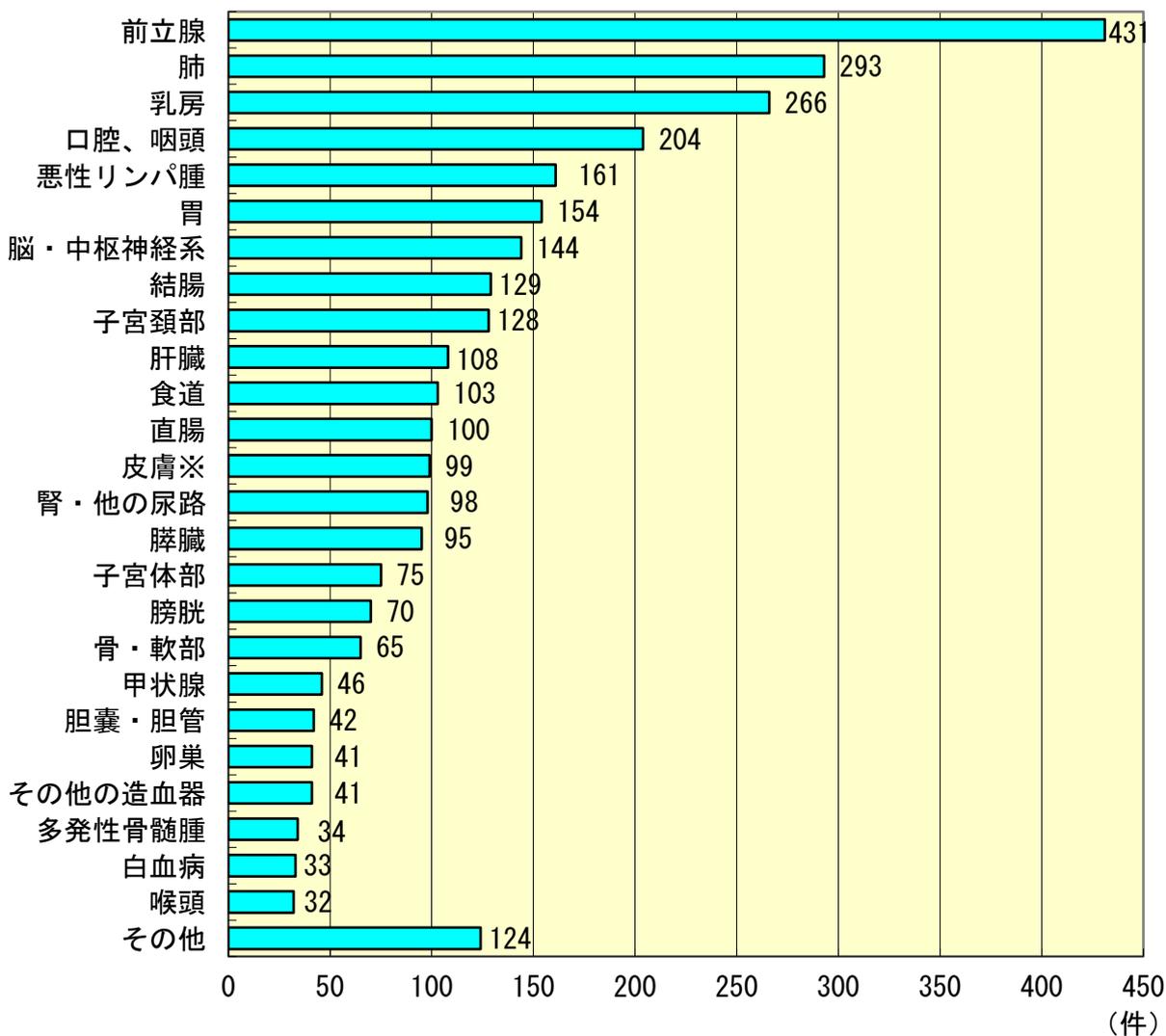
4 院内がん登録統計

1 院内がん登録 登録件数 (2015年1月～2017年12月)

院内がん登録 登録件数



院内がん登録 部位別件数 (2017年)

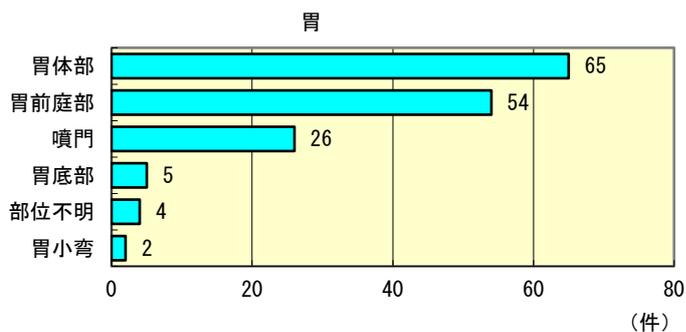


※黒色腫を含む

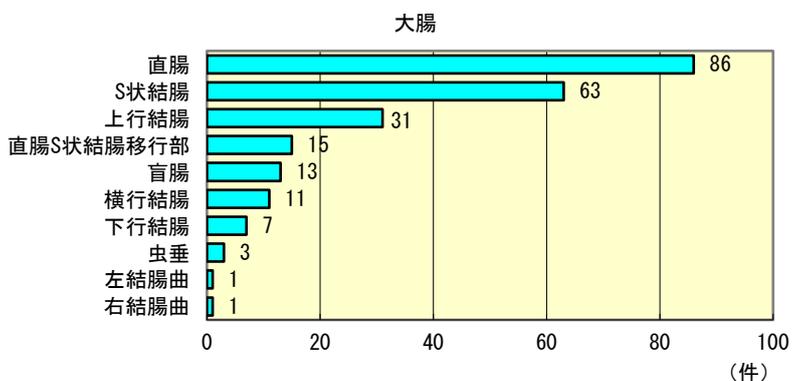
(院内がん登録を基準にした統計/集計項目はがん診療連携拠点病院等院内がん登録全国集計に準ずる)

2 院内がん登録主要部位 局在部位別件数（2017年）

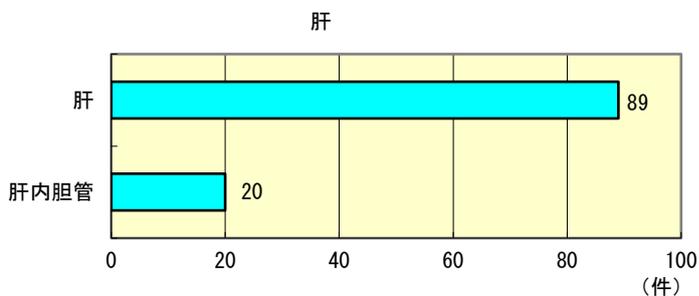
胃	C160	噴門	26
	C161	胃底部	5
	C162	胃体部	65
	C163	胃前庭部	54
	C165	胃小弯	2
	C169	部位不明	4



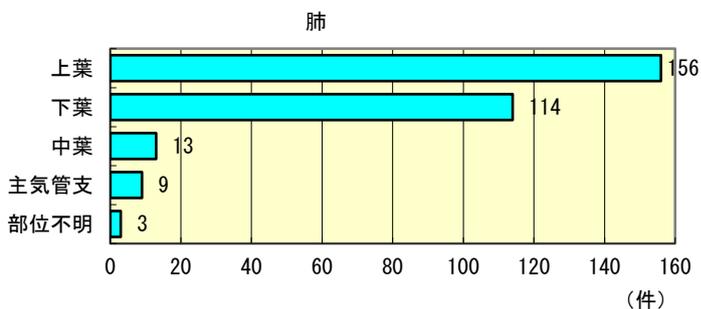
大腸	C180	盲腸	13
	C181	虫垂	3
	C182	上行結腸	31
	C183	右結腸曲	1
	C184	横行結腸	11
	C185	左結腸曲	1
	C186	下行結腸	7
	C187	S状結腸	63
	C199	直腸S状結腸移行部	15
	C209	直腸	86



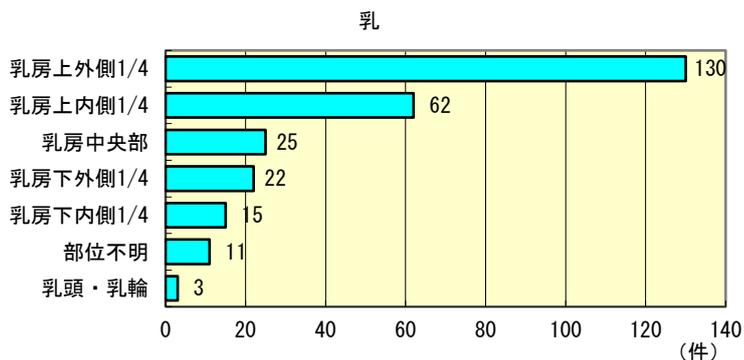
肝	C220	肝	89
	C221	肝内胆管	20



肺	C340	主気管支	9
	C341	上葉	156
	C342	中葉	13
	C343	下葉	114
	C349	部位不明	3



乳	C500	乳頭・乳輪	3
	C501	乳房中央部	25
	C502	乳房上内側1/4	62
	C503	乳房下内側1/4	15
	C504	乳房上外側1/4	130
	C505	乳房下外側1/4	22
	C509	部位不明	11

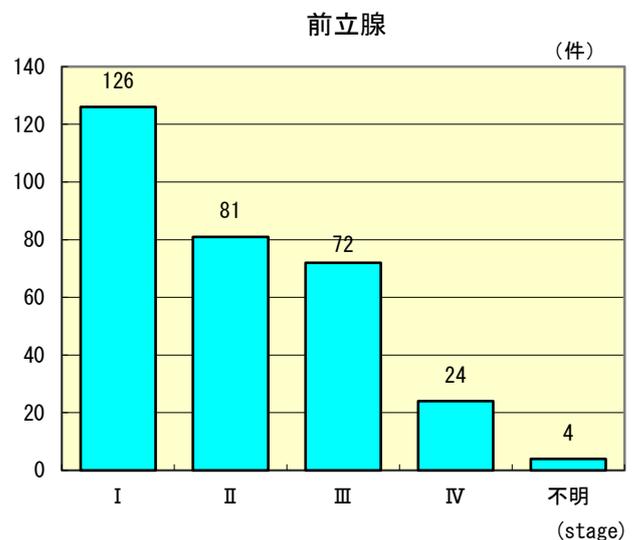
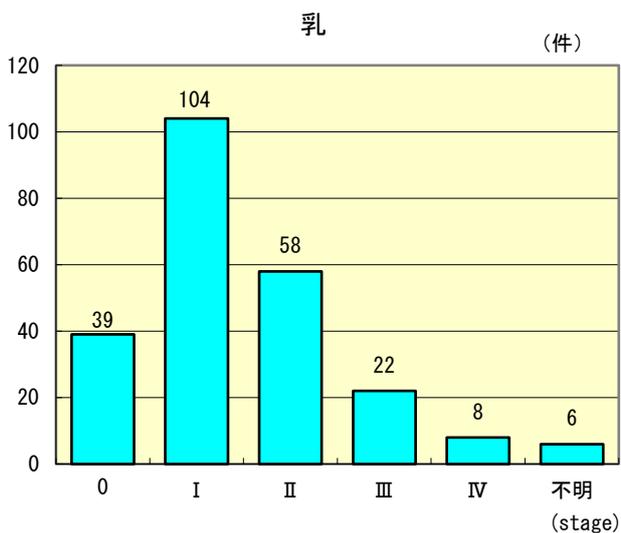
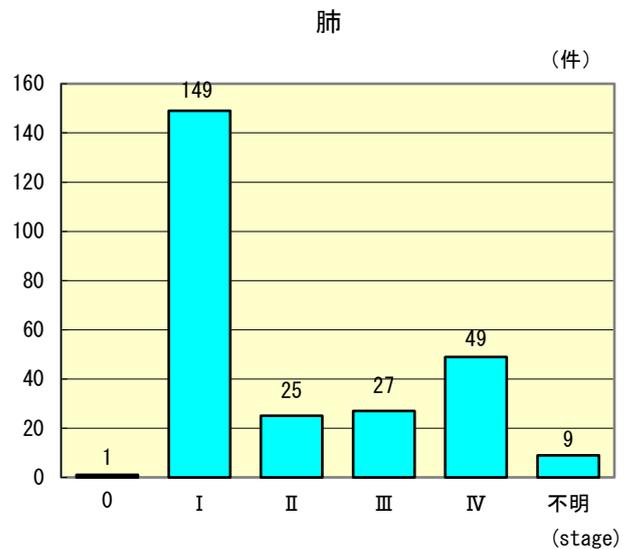
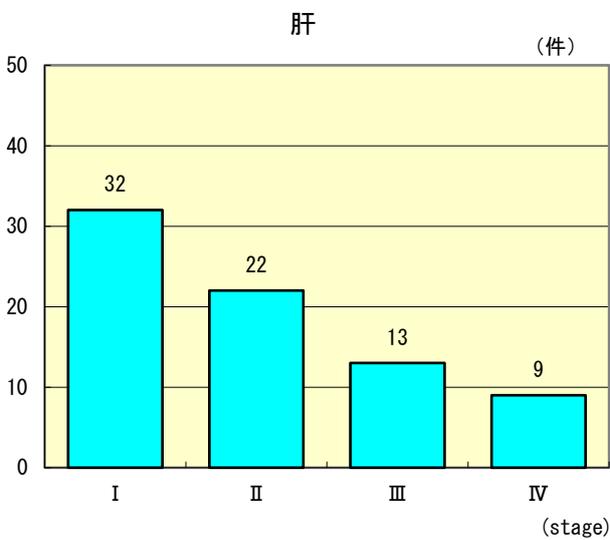
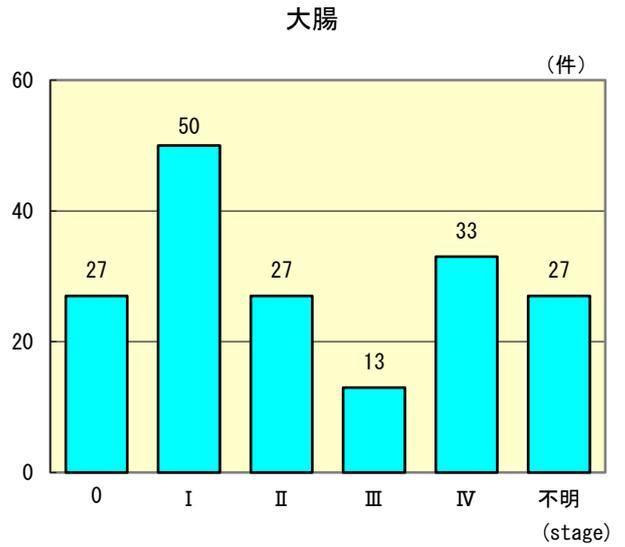
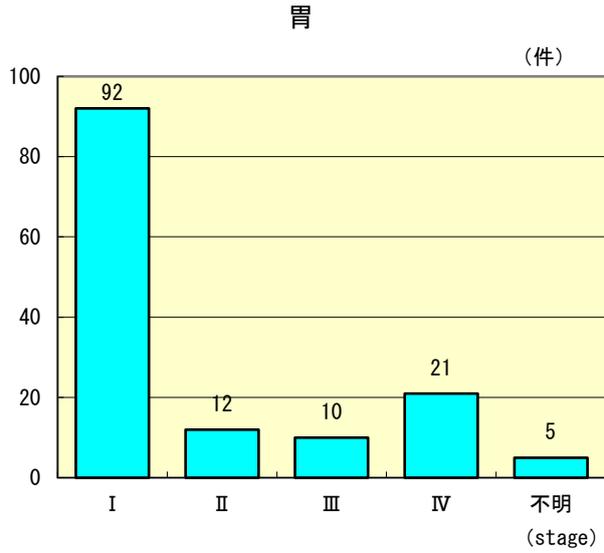


（院内がん登録を基準にした統計/集計項目はがん診療連携拠点病院等院内がん登録全国集計に準ずる）

3 院内がん登録主要部位 治療前ステージ別集計 (2017年)

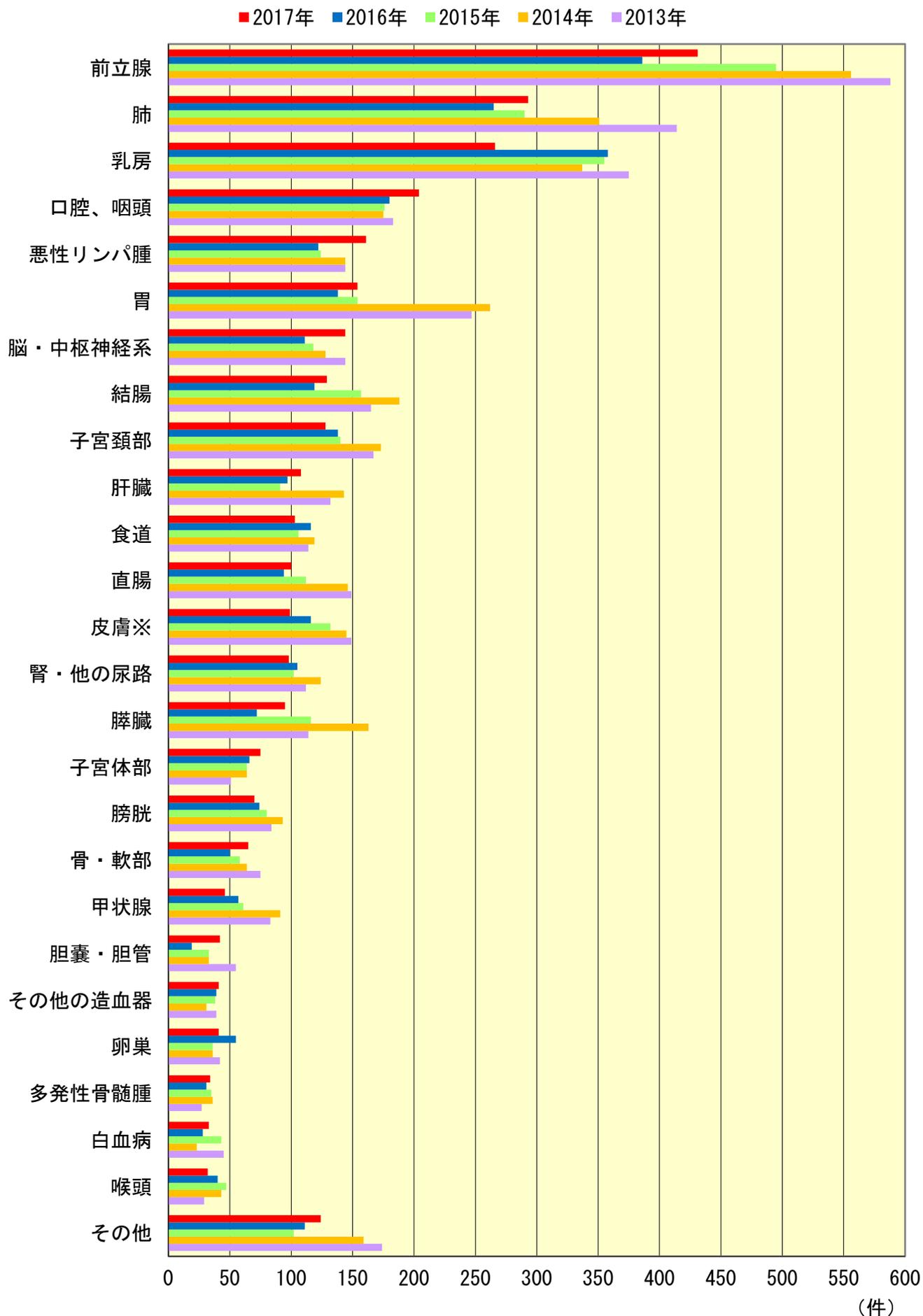
集計対象

- ・ 自施設診断・自施設初回治療開始または継続、他施設診断・自施設初回治療開始または継続の症例
- ・ 院内がん登録標準登録様式 (2016年版) 症例区分20、21、30、31の症例



(院内がん登録を基準にした統計/集計項目はがん診療連携拠点病院等院内がん登録全国集計に準ずる)

4 院内がん登録 2013年～2017年部位別登録件数



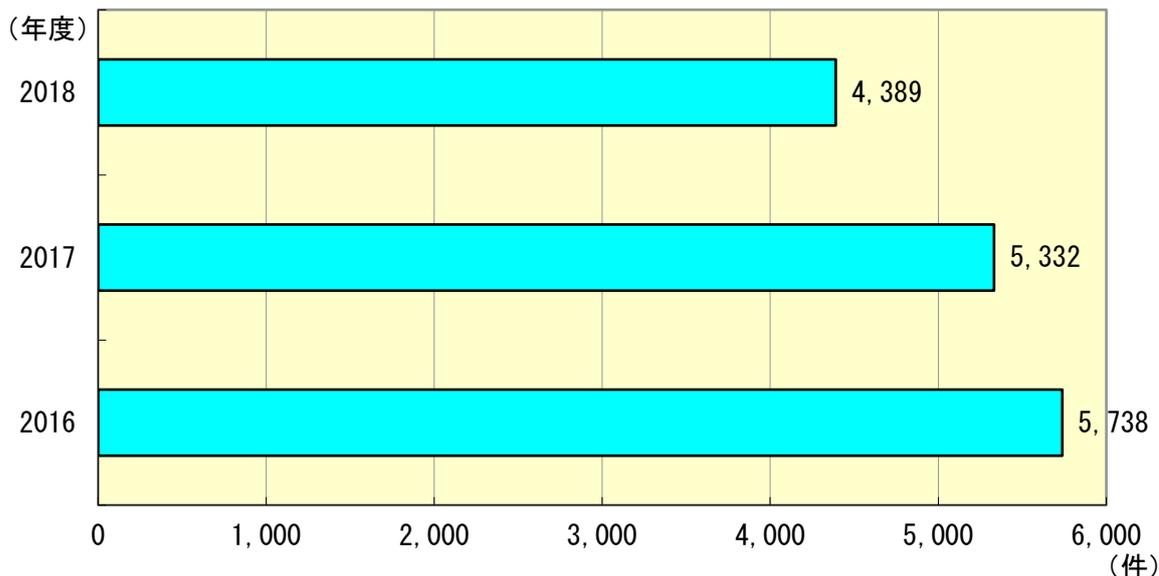
※黒色腫を含む

(院内がん登録を基準にした統計/集計項目はがん診療連携拠点病院等院内がん登録全国集計に準ずる)

5 医療の質管理統計

1 インシデント・アクシデント報告

報告数

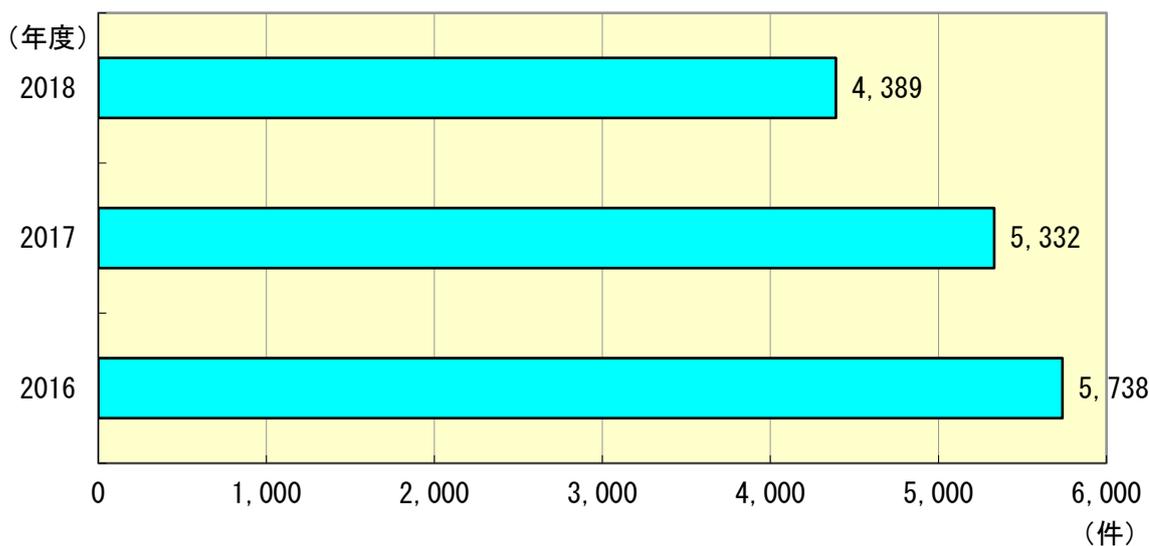


2018年度 当事者の職種

看護師/看護 助手/助産師	医師/ 歯科医師	診療放射線 技師	薬剤師	研修医	ME/その他 の技師
3,085	741	236	142	26	32

検査技師	事務職員	栄養士	PT/OT/ ST	その他	合計
27	19	31	7	43	4,389

事象数



2018年度 事象の概要

薬剤	ドレーン チューブ	転倒・転落	検査	治療 処置	医療用具
1,355	783	589	488	436	154

療養上の 世話	指示出し	輸血	その他	合計
133	115	17	319	4,389

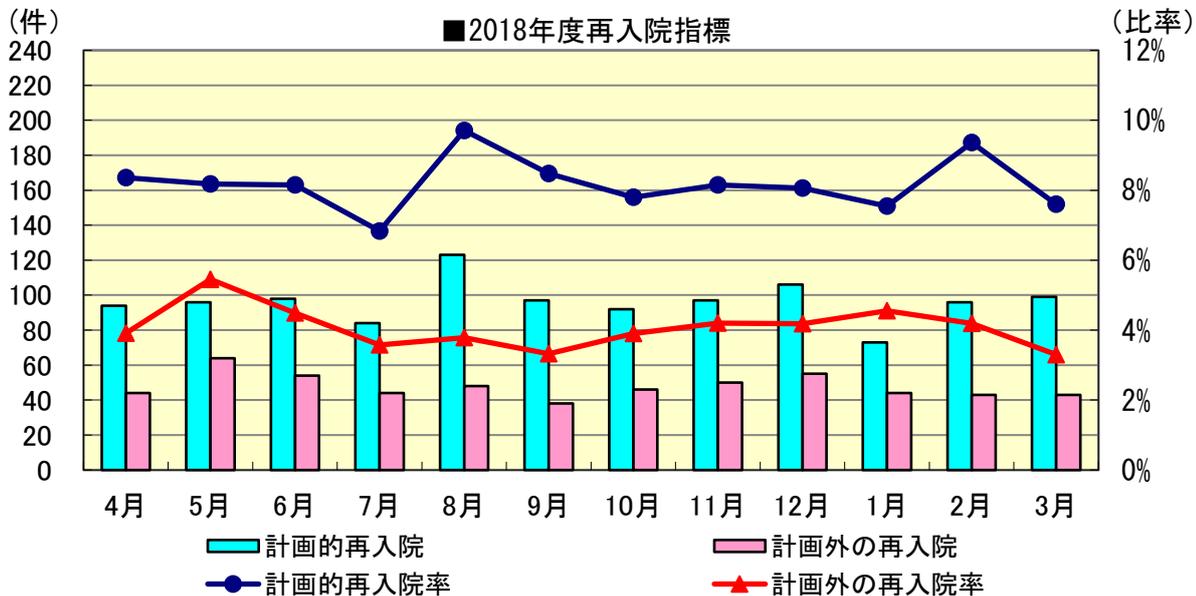
2018年度 事象の程度

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル 4+5	不明	合計
271	1,670	1,154	1,206	38	50	4,389

2 再入院指標

(一般病棟グループ間で4週間以内に再入院があった場合。7日以内同一疾患の再入院の場合も含む)

	2016年度	2017年度	2018年度
再入院件数(a)	1,560	1,591	1,728
(うち 計画外の再入院件数(c))	(525)	(554)	(573)
退院件数(b)	12,965	13,420	14,121
再入院率(a/b×100)	12.03%	11.86%	12.24%
(うち 計画外の再入院率(c/b×100))	(4.05%)	(4.13%)	(4.06%)



計画的再入院率 8.18%(1,155件)

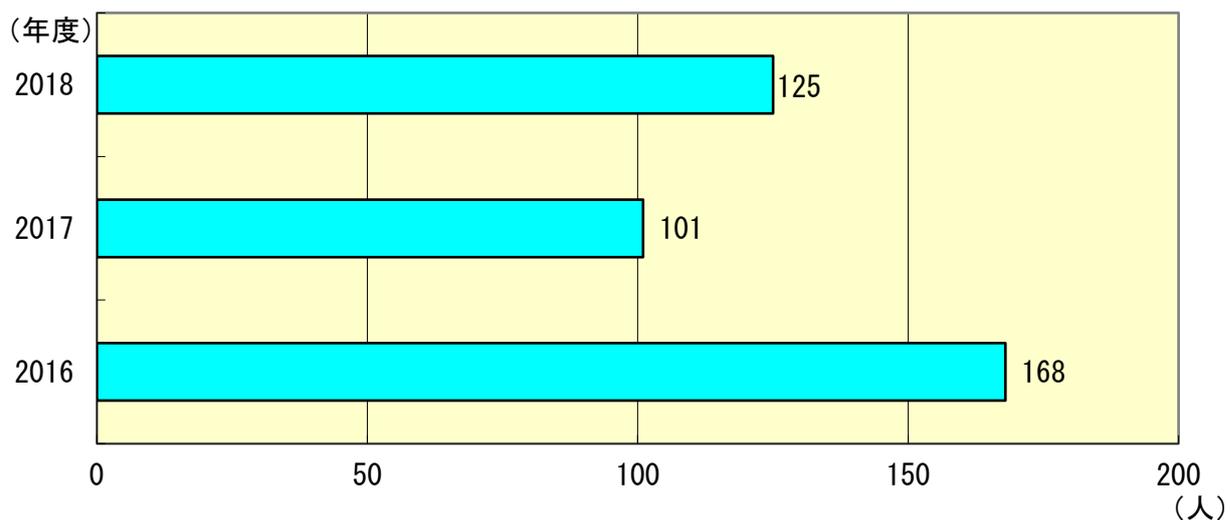
計 画 的 再 入 院	1	①前回入院で術前検査等を行い、今回入院で手術を行うため	145
	2	②前回入院以前に手術を行い、今回入院で計画的に術後の手術・処置・検査を行うため	35
	3	③計画的な化学療法のため	453
	4	④計画的な放射線療法のため	94
	5	⑤前回入院時、予定された手術・検査等が実施できなかったため	28
	6	⑥患者のQOL向上のため一時帰宅したため	11
	7	⑦その他	389

計画外の再入院率 4.06%(573件)

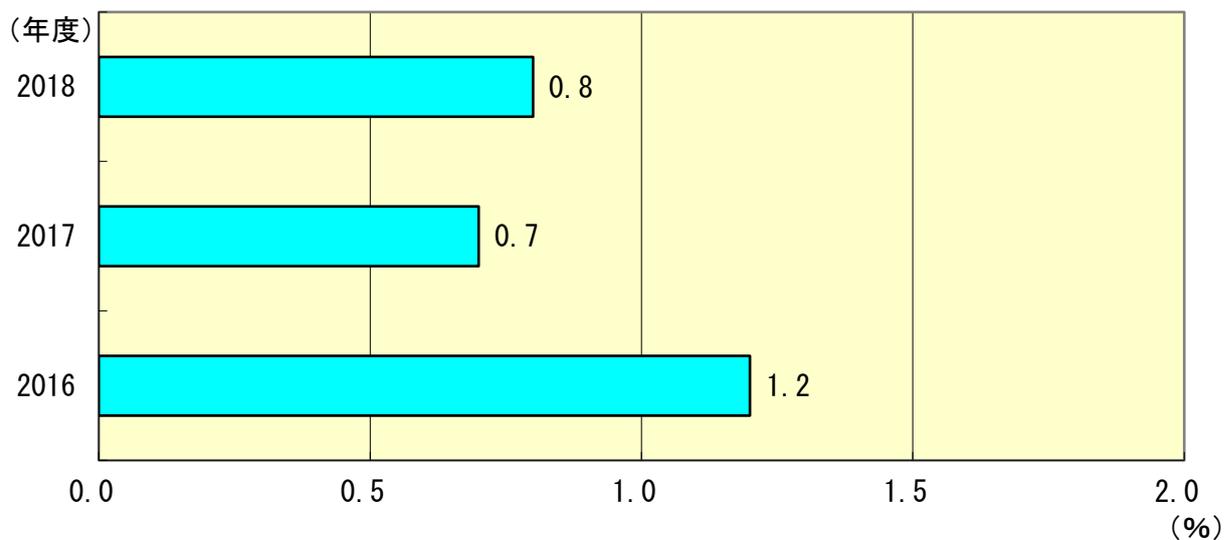
計 画 外 の 再 入 院	8	①原疾患の悪化、再発のため	241
	9	②原疾患の合併症発症のため	119
	10	③前回入院時の入院時併存症の悪化のため	13
	11	④前回入院時の入院後発症疾患の悪化のため	8
	12	⑤前回入院時の手術・処置や治療の合併症が退院後に発症したため	32
	13	⑥新たな他疾患発症のため	124
	14	⑦その他	36

3 M R S A 検出状況（入院患者）

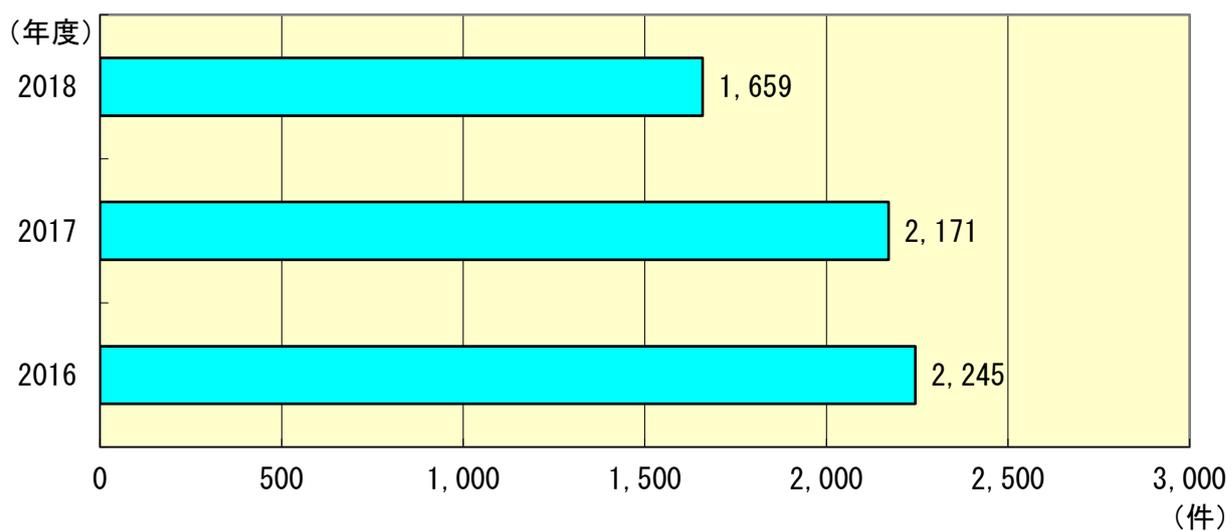
M R S A 検出患者数



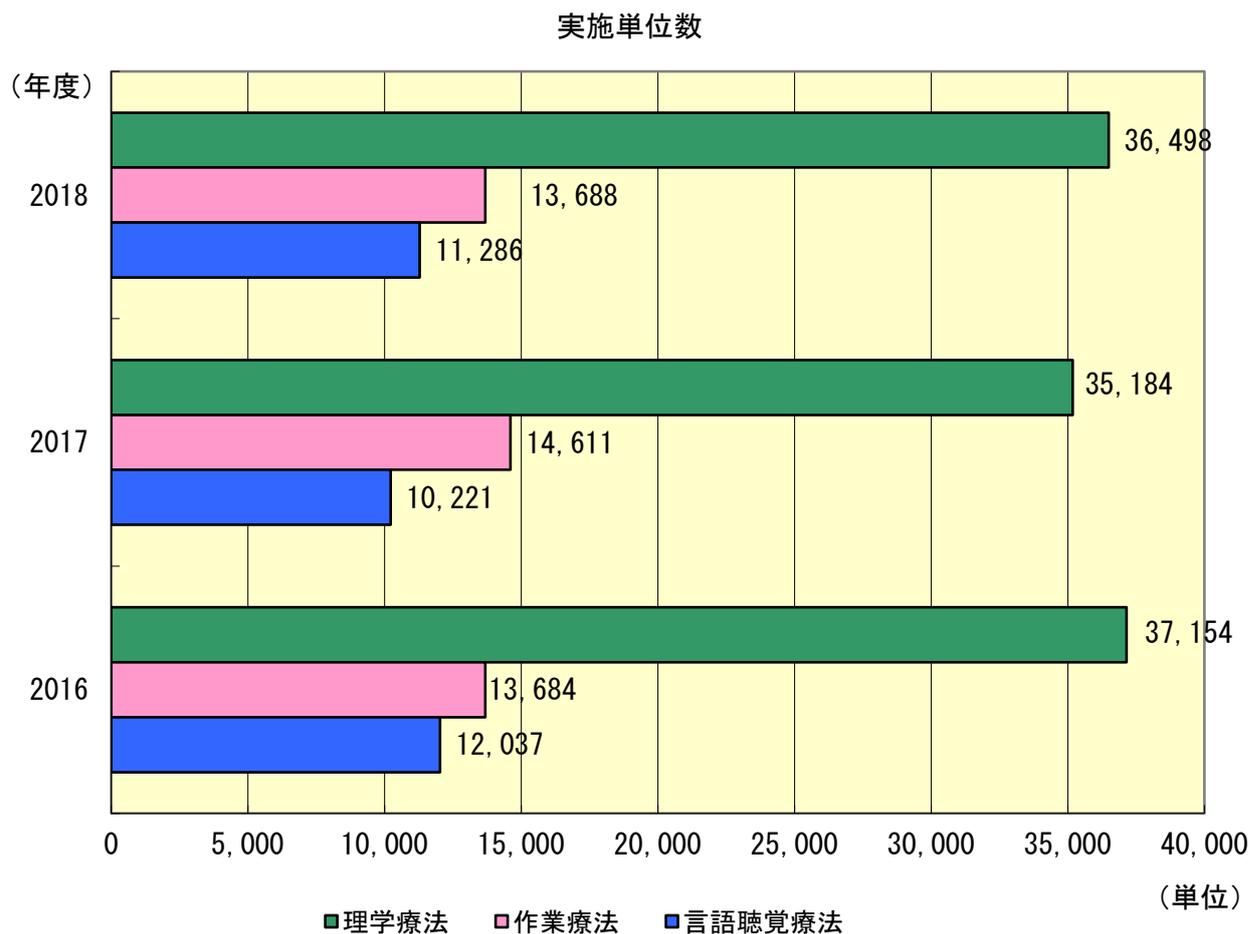
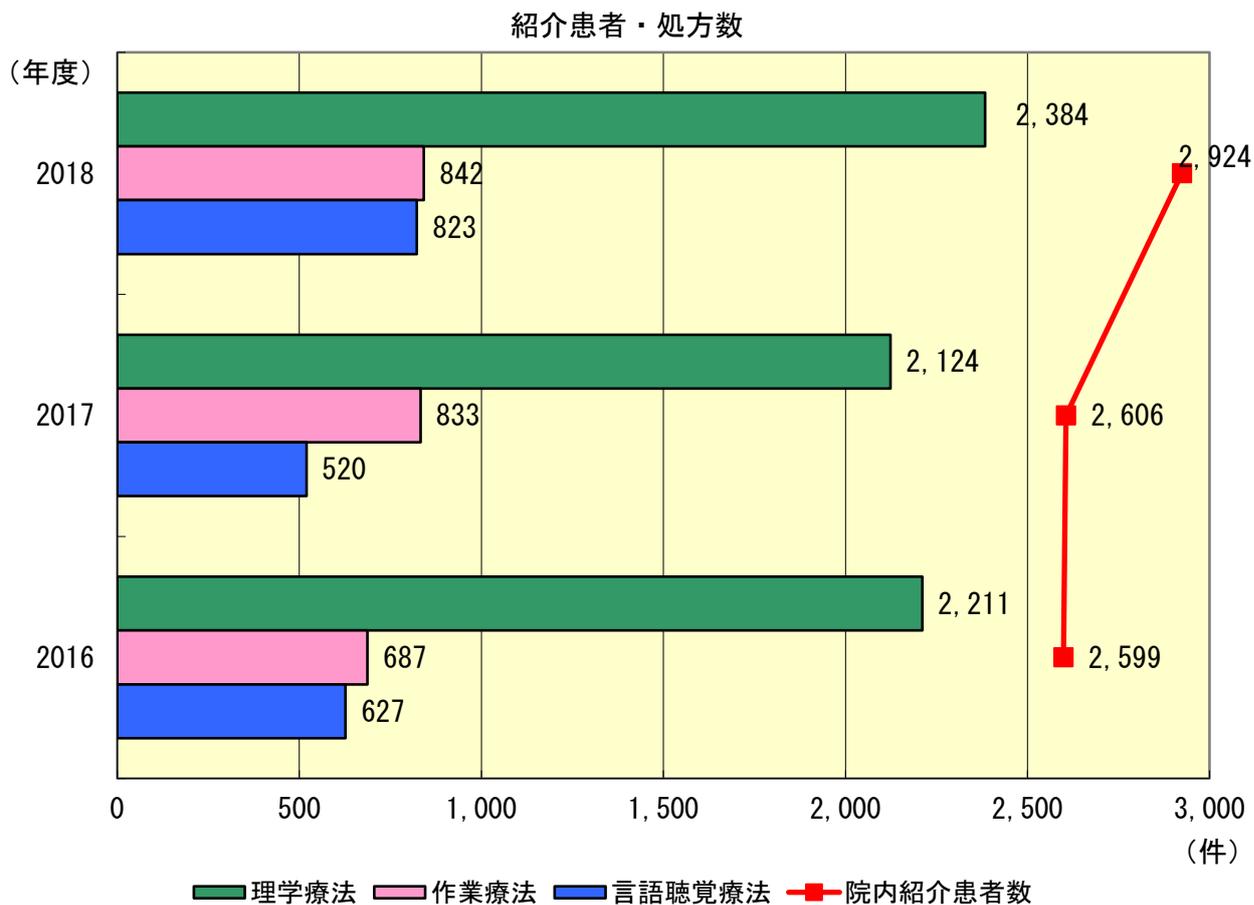
M R S A 検出率



4 緩和ケア実施件数

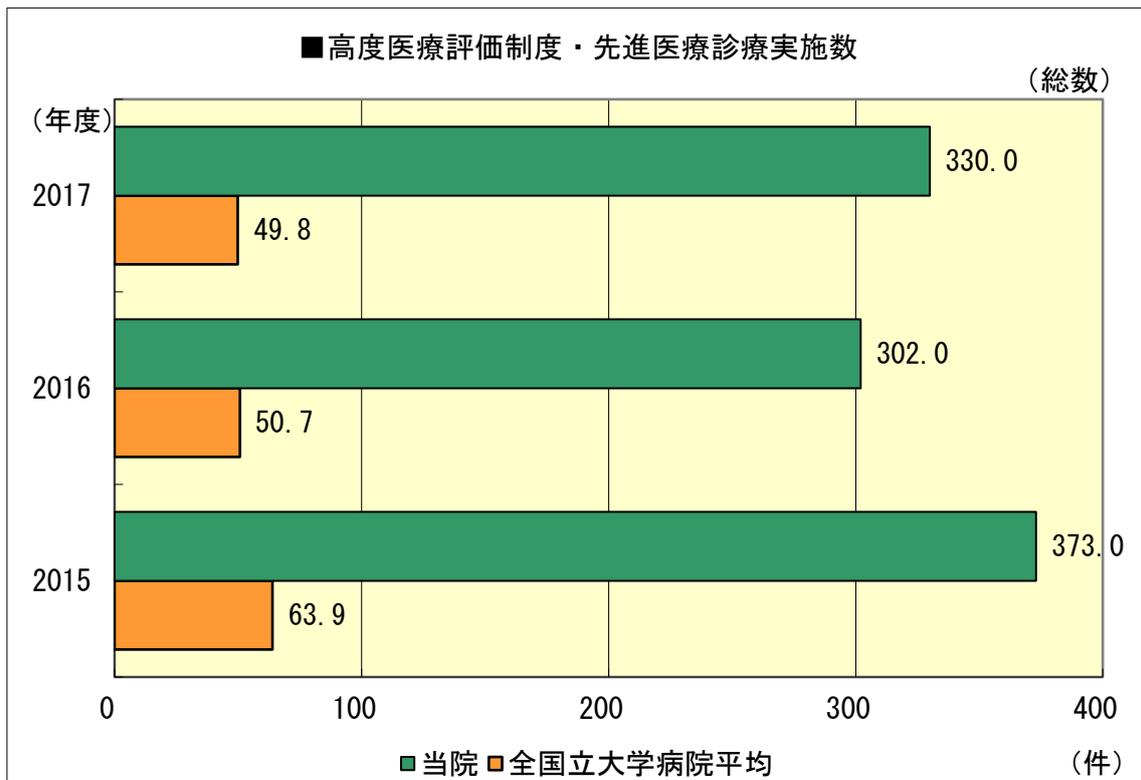


5 リハビリテーション実施報告



6 国立大学病院機能指標

1 高度医療評価制度・先進医療診療実施数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
373件	302件	330件

解 説

国立大学附属病院が教育・研究・診療の社会的責任に応えるためには新しい治療法や検査法を研究・開発する必要がある。しかし我が国ではそれらの新しい治療法や検査法に効果が認められるまでは公的医療保険の適用がなされない。そのため開発された新しい治療法や検査法は公的医療保険が適用されるまで、厚生労働省が認定する医療施設において、高度医療評価制度・先進医療診療として公的医療保険との併用により提供される。高度な医療に積極的に取り組む姿勢、高い技術を持つ医療スタッフ、十分な設備などが必要になることから、本項目は先進的な診療能力を示す指標といえる。

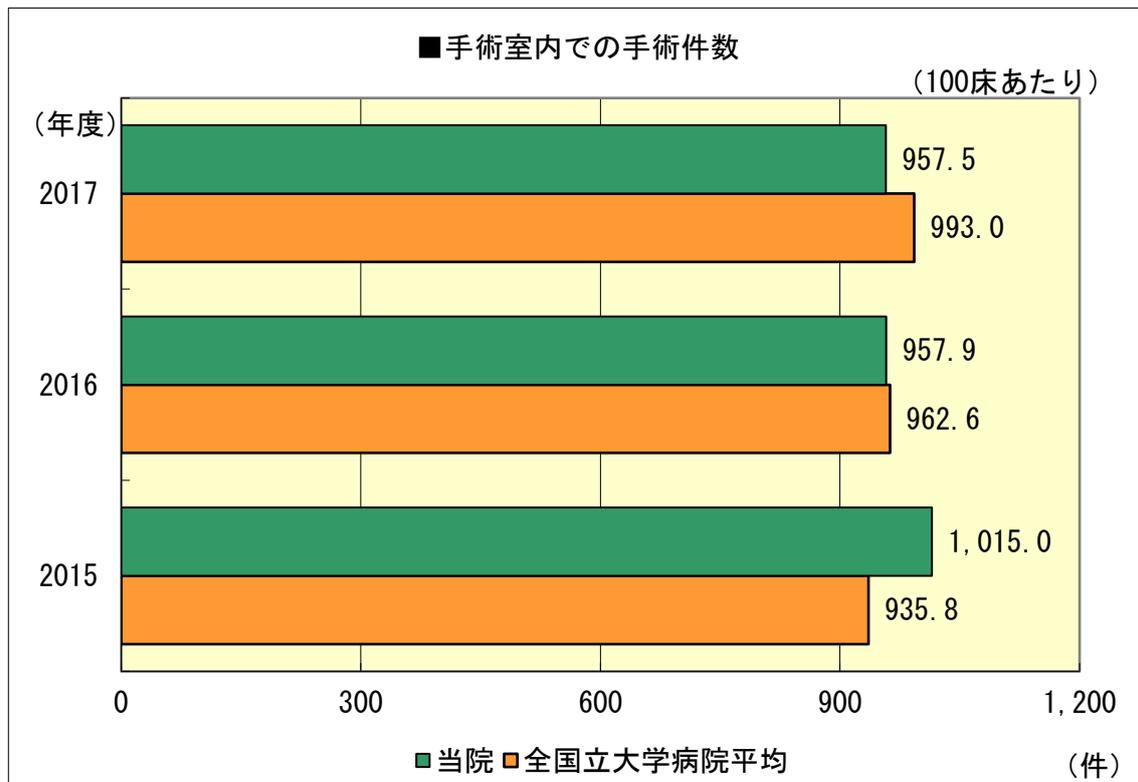
なお、2012年10月1日より、高度医療と先進医療が先進医療として一本化された。

国立大学病院機能指標 1

定 義

1年間の高度医療評価制度及び、先進医療診療の実施数一連のものについては一連の診療をもって1件とする。

2 手術室内での手術件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
6,902件	6,514件	6,511件

解 説

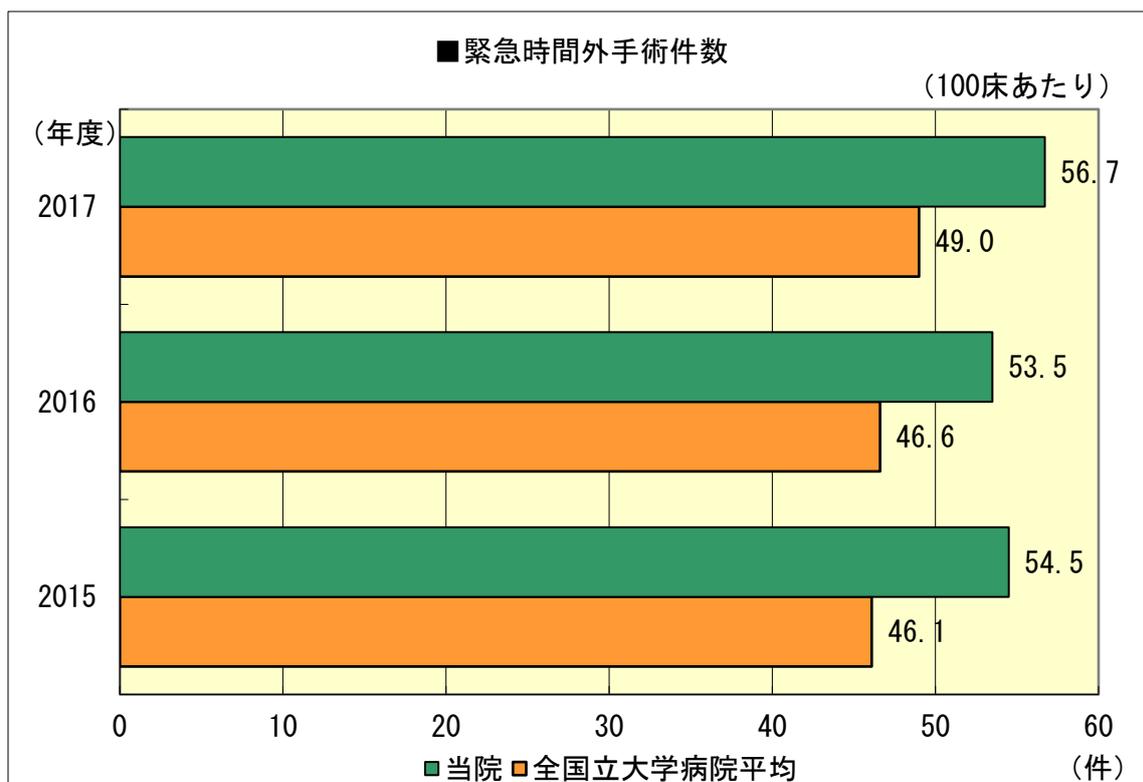
国立大学附属病院は高度急性期・急性期の要である。外科手術の提供だけでなく、その技術の普及を図ることは、診療と教育という国立大学附属病院の社会的責任を果たすことになる。外科医、麻酔科医、看護師などの医療チームが手術室を効率的に活用し、どれだけの手術に対応することができているかを表現する指標である。

国立大学病院機能指標 2

定 義

手術室で行われた医科診療報酬点数表区分番号K920、K923、K924（輸血関連）以外の手術（医科診療報酬点数表2章第10部手術に記載された項目）の件数ただし複数術野の手術等、1手術で複数手術を行った場合は、合わせて1件とする。

3 緊急時間外手術件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
371件	364件	386件

解 説

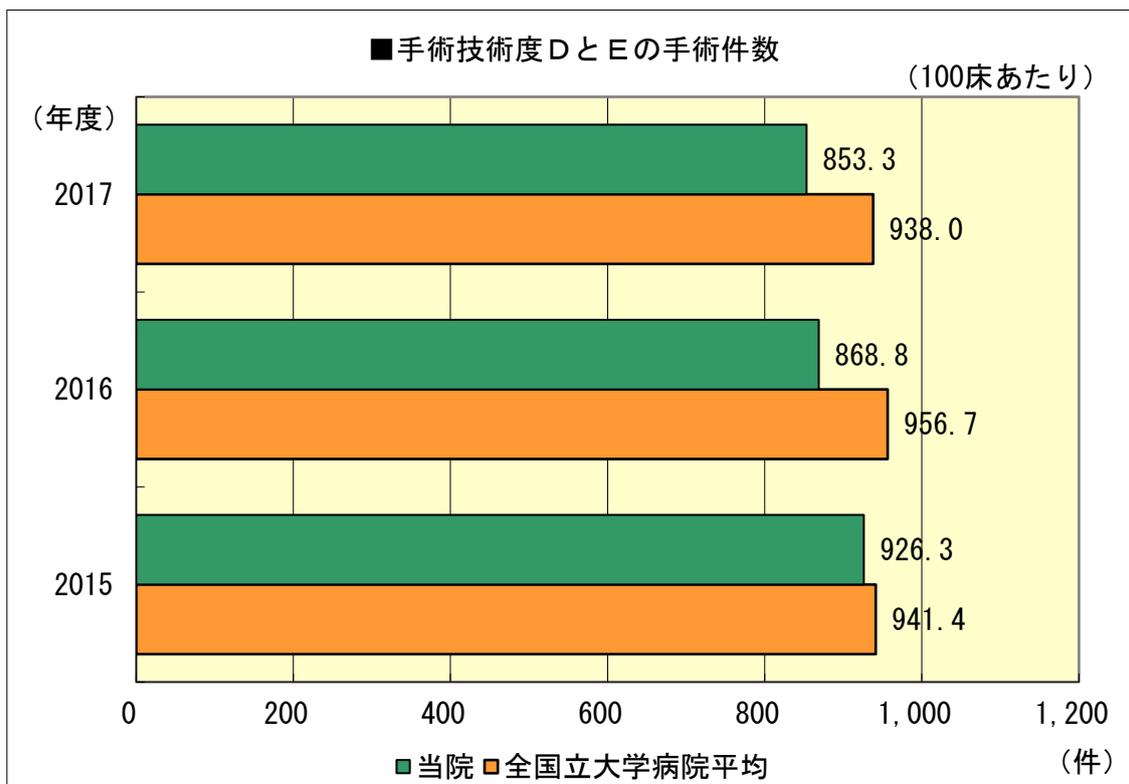
夕方以降から深夜、日曜日祝祭日など通常時間帯以外の手術に対応できる力を示す指標である。予定外の緊急時間外手術に常に備えるには、十分なベッド数や検査・画像診断機器などの設備、麻酔や執刀を行うスタッフが必要となる。

国立大学病院機能指標 3

定 義

緊急に行われた手術（医科診療報酬点数表区分番号K920、K923、K924（輸血関連）以外の手術）で、かつ時間外加算、深夜加算、休日加算を算定した手術件数
あらかじめ計画された時間外手術は除く。複数術野の手術等、1手術で複数手術を行った場合でも、同一日の複数手術は合わせて1件とする。

4 手術技術度DとEの手術件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
6,299件	5,908件	5,803件

解 説

単に手術件数だけでなく、どの程度難しい手術に対応できるのかを表現する指標である。手術の難しさと必要な医師数を勘案した総合的な手術難度を技術度というが、外科系学会社会保険委員会連合の試案では、2,000種類余りの手術をそれぞれ技術度AからEまでの5段階に分類している。技術度D及びEには熟練した外科経験を持つ医師・看護師や器具が必要なので、難易度の高い手術といえる。

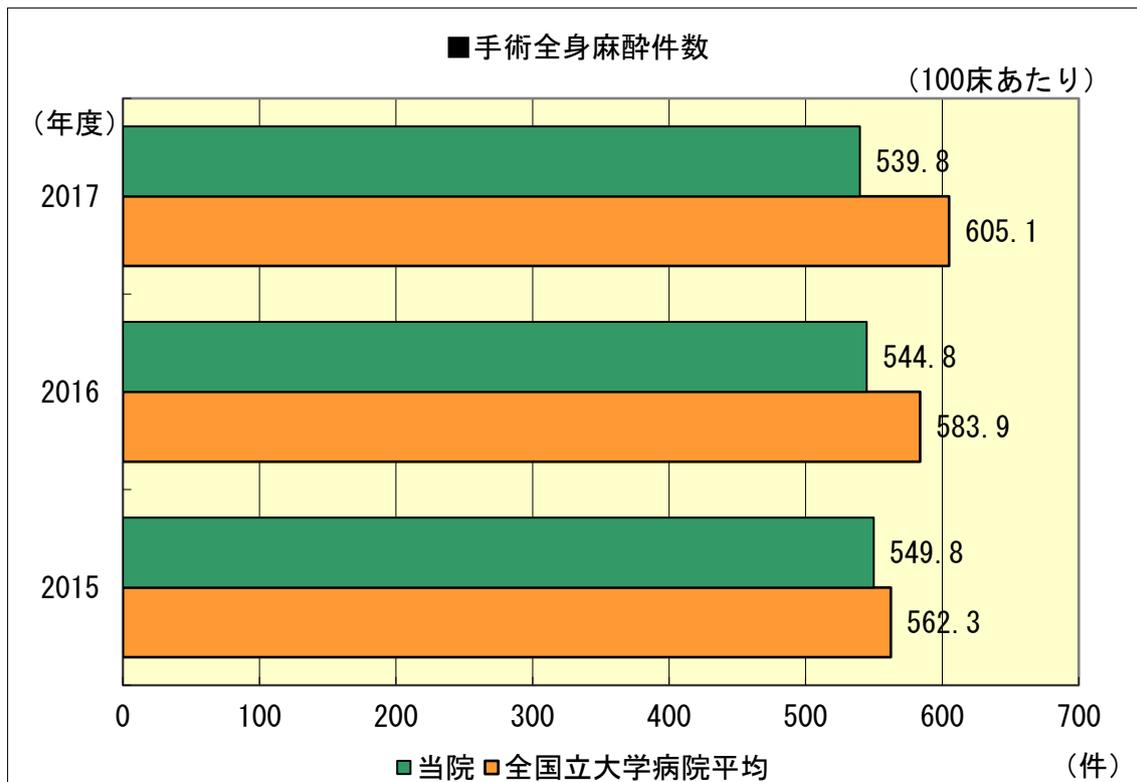
国立大学病院機能指標 4

定 義

外科系学会社会保険委員会連合（外保連）「手術報酬に関する外保連試案（第9.1版）」「内視鏡手術試案（第1.2版）」において技術度D、Eに指定されている手術の件数

1手術で複数のKコードがある場合は、主たる手術のみの件数とする。

5 手術全身麻酔件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
3,739件	3,705件	3,671件

解 説

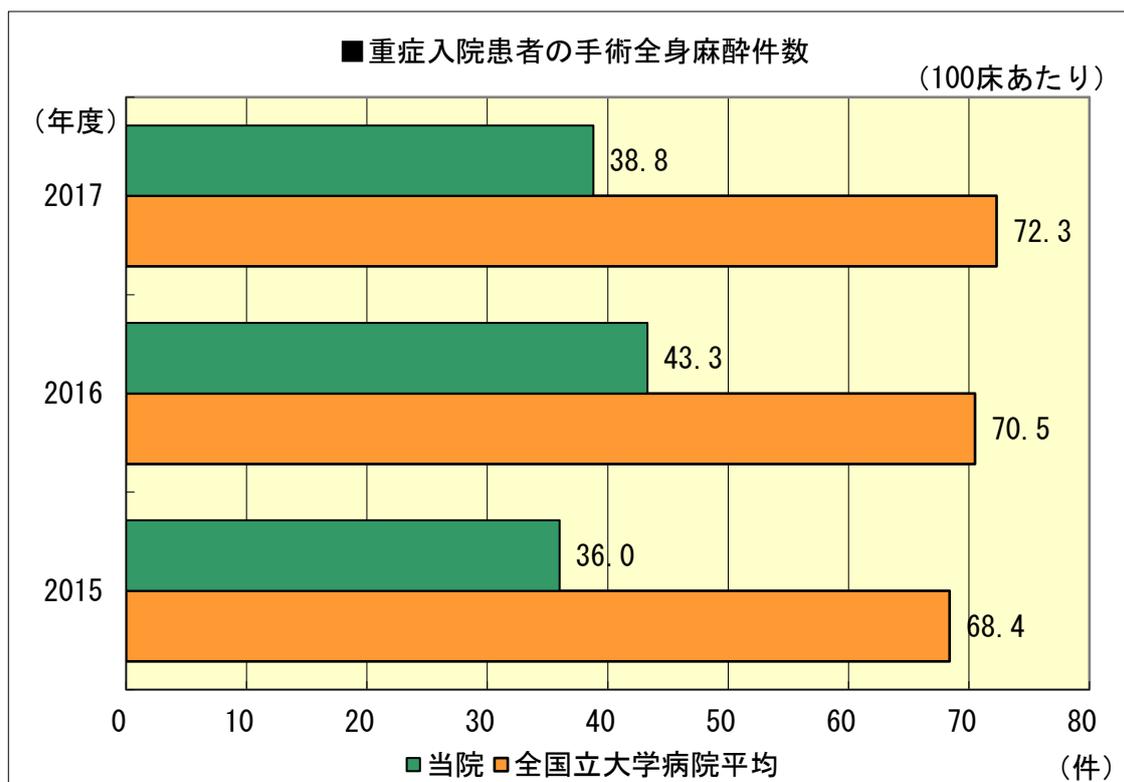
麻酔には、意識はあるが痛みを感じない状態にする局所麻酔と、呼吸管理のもと完全に意識のない状態で痛みを感じない状態にする全身麻酔がある。全身麻酔では、局所麻酔に比べて、麻酔医や手術看護師などの負担は大きくなる。このため、全身麻酔件数は、手術部門の業務量を反映する指標となる。

国立大学病院機能指標 5

定 義

手術目的の全身麻酔の件数
検査等における全身麻酔件数は除く。

6 重症入院患者の手術全身麻酔件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
245件	295件	264件

解 説

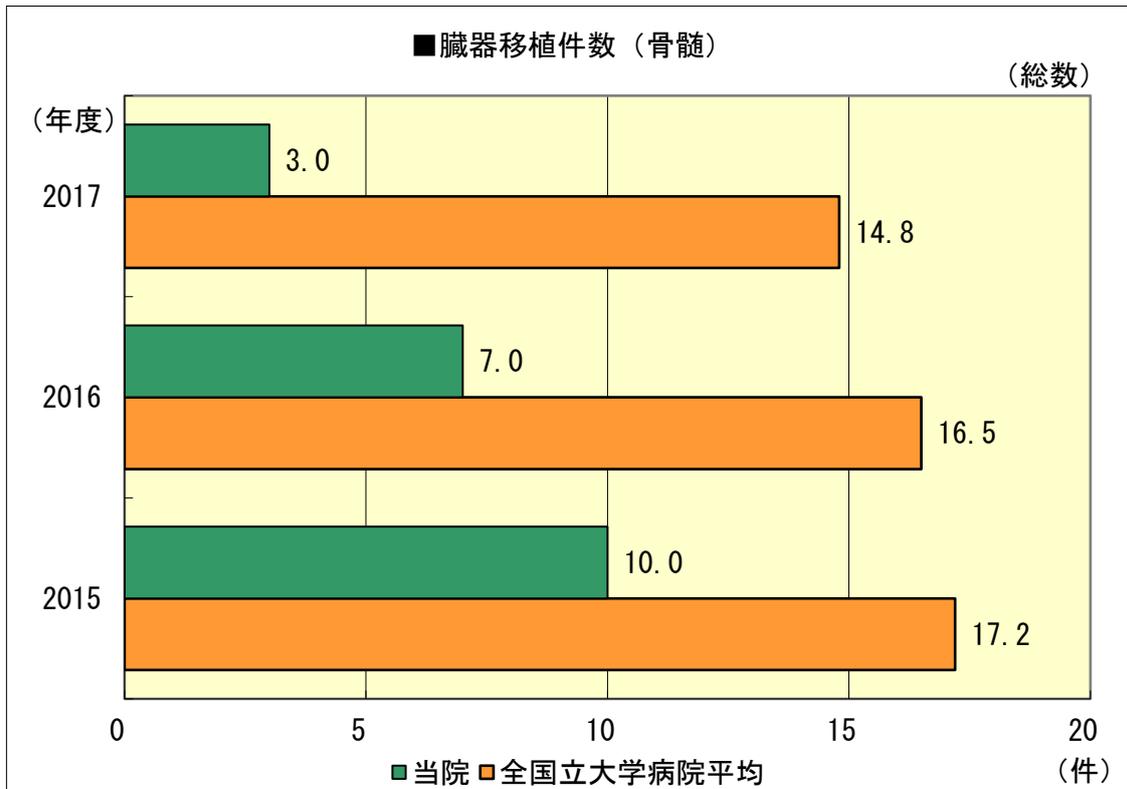
項目2の手術件数や項目4の難しい手術と同様、心臓の働きが悪くなる心不全という疾患をもつ患者など、重症な患者の手術を行うことも国立大学附属病院の社会的責任の一つといえる。重症な患者に全身麻酔をかけて手術をする場合は、生命の危険をはじめ様々な危険が伴う。従って、手術中のみならず手術前後で十分に患者を観察し、慎重な麻酔を行える体制が必要になる。この指標は麻酔管理の難しい重症患者の手術ができる麻酔能力の高さともいえる。

国立大学病院機能指標 6

定 義

医科診療報酬点数表における、「L008 マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔（麻酔困難な患者）」の算定件数

7 臓器移植件数（骨髄）



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
10件	7件	3件

解 説

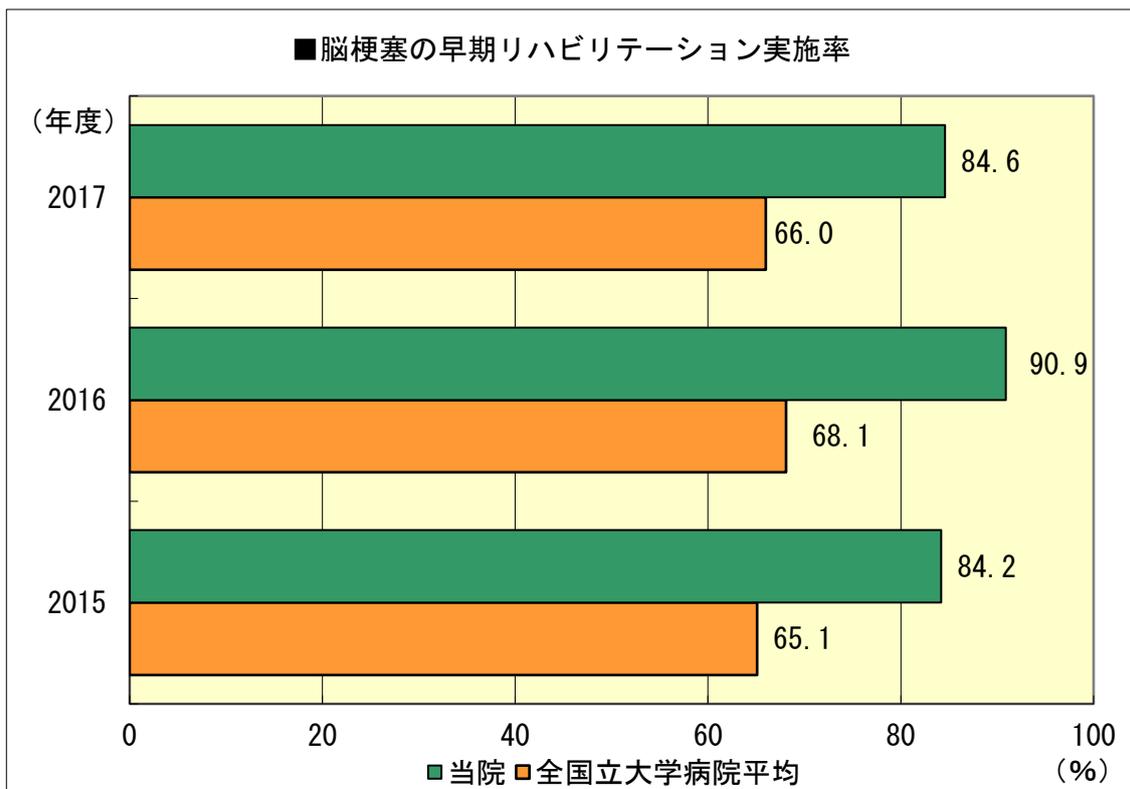
白血病などの血液悪性腫瘍の診療は高度な知識、技術、設備のある病院で行われる必要がある。その治療方法の一つに骨髄移植がある。これは心臓・肝臓・肺・脾臓・小腸の移植と比較すると、世の中に普及しつつあるため、国立大学附属病院以外でも行われるようになったが、高度な医療を提供している証左であるといえる。

国立大学病院機能指標 8

定 義

1年間の骨髄移植の件数
自家移植を含む。

8 脳梗塞の早期リハビリテーション実施率



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
84.2%	90.9%	84.6%

解 説

早期のリハビリテーションは運動機能の回復を促進することが明らかにされており、脳梗塞の診療の指針を示す診療ガイドラインでも推奨されている。脳梗塞患者の社会的復帰のためには、脳梗塞発症後速やかにリハビリテーションを行うことが重要である。早期のリハビリテーション開始が入院期間の短縮や生活の質の改善につながる可能性があることから、脳梗塞患者への適切な治療の一つとして評価される。

国立大学病院機能指標 9

定 義

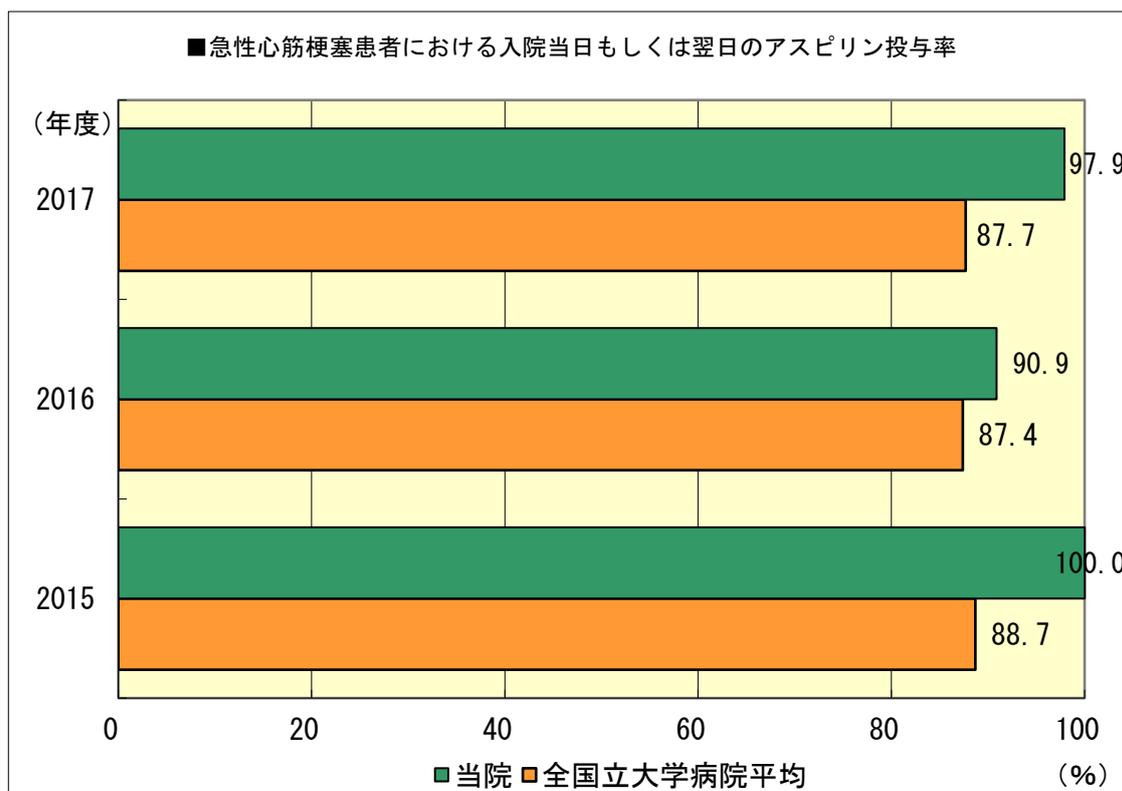
緊急入院した脳梗塞症例の早期リハビリテーション実施率 (%)

分子：入院4日以内にリハビリテーションが開始された患者数

分母：最も医療資源を投入した病名が脳梗塞の患者で、発症から3日以内、且つ緊急入院した患者数

院内発症した脳梗塞症例は含まない。3日以内退院と転帰が死亡である場合は除く。再梗塞を含む。

9 急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
100.0%	90.9%	97.9%

解 説

急性心筋梗塞の治療は、血管カテーテルの技術と材料の開発が進み、侵襲の大きな外科治療から、患者の負担が少ないカテーテル手術へと変遷してきた。しかし再び心筋梗塞を起こさないための予防は必要である。予防薬としてはアスピリンという血を固まりにくくする作用を持つ薬が有効で、この薬の投与は急性心筋梗塞の予後を改善させるため、標準的な治療の一つとされている。急性心筋梗塞でどのくらい標準的な診療が行われているかを表現する指標といえる。

国立大学病院機能指標 10

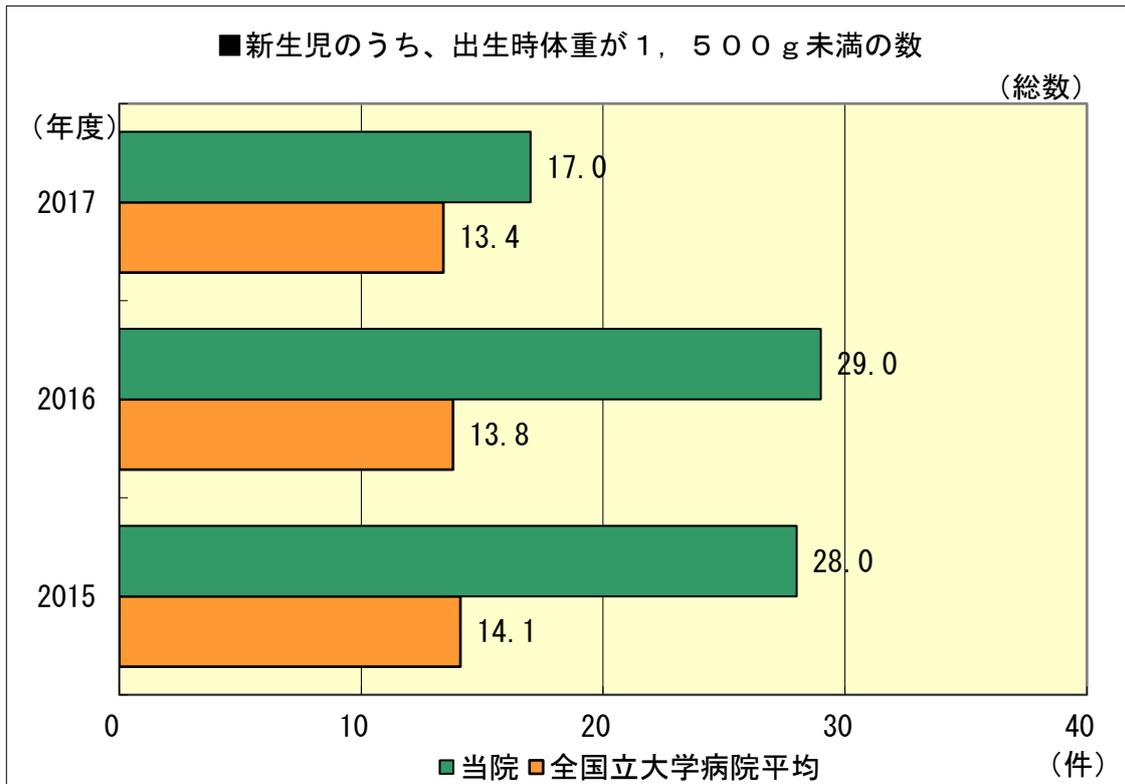
定 義

急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率 (%)

分子：入院翌日までにアスピリンが投与された患者数

分母：最も医療資源を投入した病名が急性心筋梗塞の患者で、且つ緊急入院した患者数、緊急入院に限る。再梗塞を含む。

10 新生児のうち、出生時体重が1,500g未満の数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
28件	29件	17件

解 説

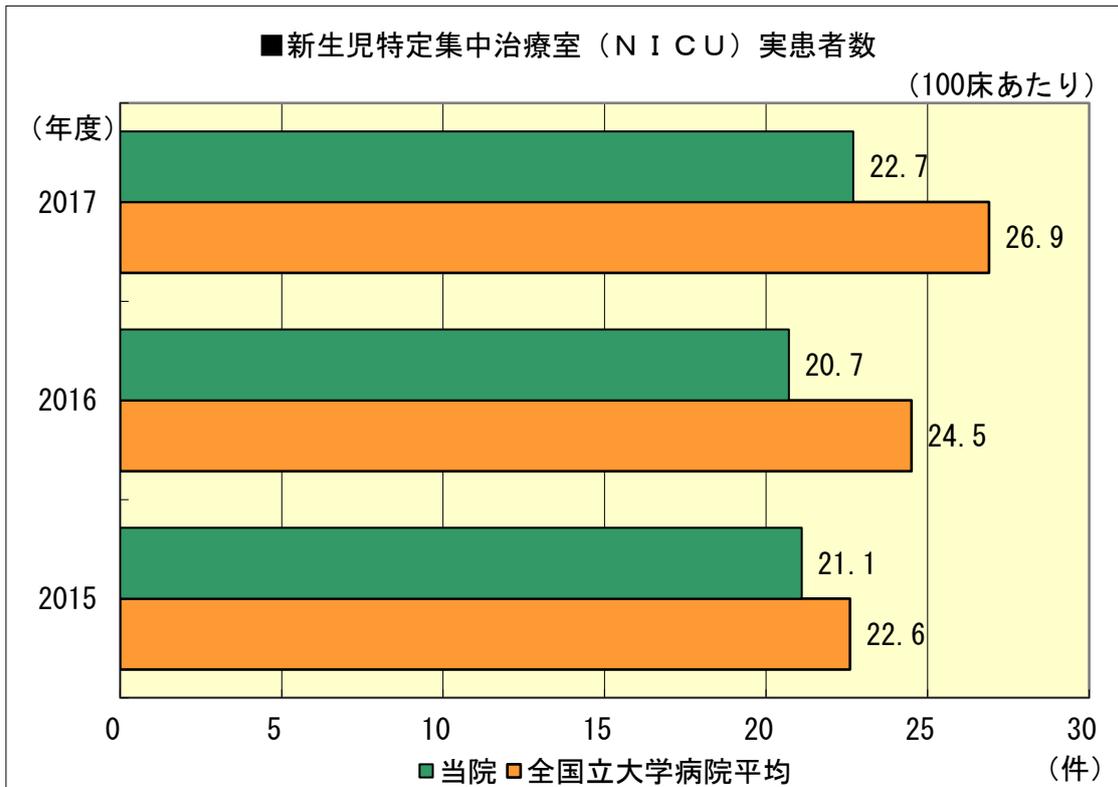
出生時体重が1,500g未満の新生児を極小低出生体重児という。このような新生児の治療には、高度な設備を持つ新生児特定集中治療室（NICU）において、経験のある医師・看護師が24時間体制で呼吸・循環などの全身管理を行う必要がある。極小低出生体重児の数は、高度な周産期医療を提供していることを示す。

国立大学病院機能指標 11

定 義

自院における出生数
死産は除く。

11 新生児特定集中治療室（NICU）実患者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
144件	141件	155件

解 説

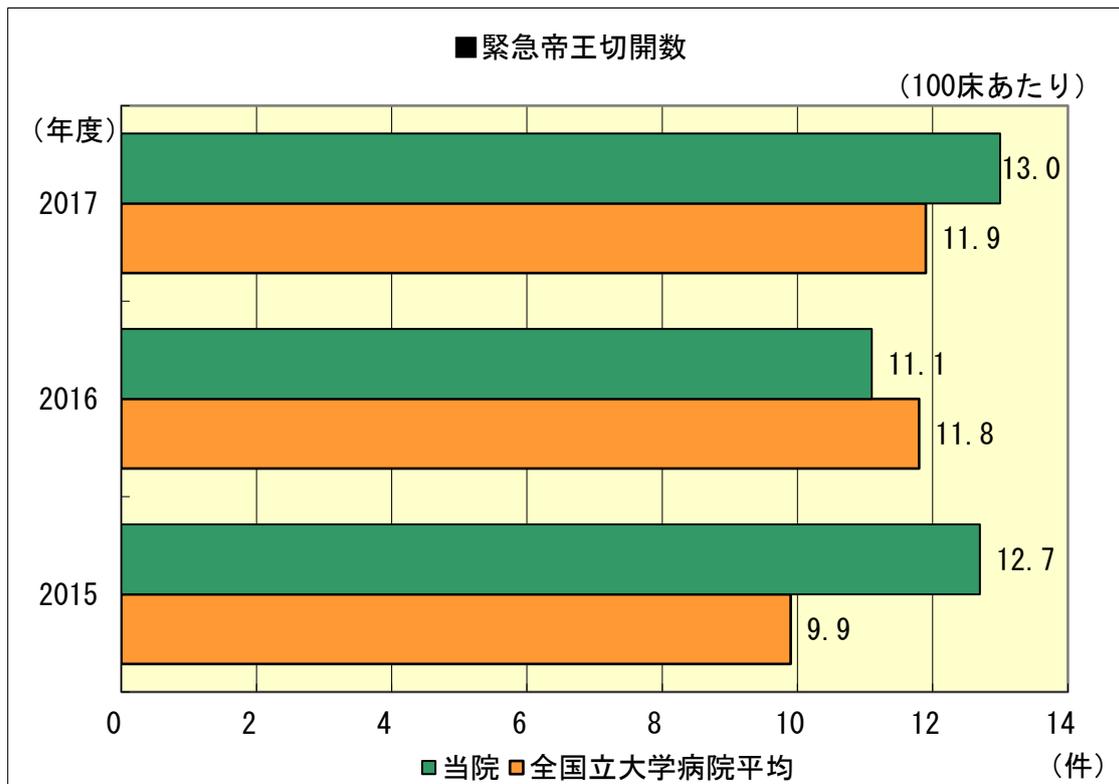
新生児特定集中治療室（NICU）とは、低体重児や早産児、先天性障害のある新生児を集中的に治療する病床である。新生児集中治療専門の医師と看護師が、24時間体制で保育器の中の新生児を治療する。病院内外から重症の新生児を受け入れ、集中的な治療を行う意味で、産科小児科領域の医療の「最後の砦」ともいわれ、NICU実患者数は周産期医療の質と総合力の高さを表現しているものといえる。

国立大学病院機能指標 12

定 義

医科診療報酬点数表における、「A-302 新生児特定集中治療室管理料」及び「A-303 総合周産期特定集中治療室管理料2-新生児集中治療室管理料」を算定する新生児特定集中治療室（NICU）にて集中的に治療を行った実人数（延べ人数ではない）

12 緊急帝王切開数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
87件	76件	89件

解 説

妊婦が自然分娩できない場合や、何らかの理由で早急に出産が必要な場合は帝王切開が必要になる。帝王切開は予定され実施する場合と、母体や新生児に何らかの事態が生じたため緊急に実施する場合がある。緊急時に帝王切開が必要になった場合、帝王切開を行うことのできる医師、生まれてきた新生児への治療ができる小児科医師、麻酔医、看護師、手術室などの設備が必要であり、緊急時の総合的な周産期医療の提供能力を表現する指標といえる。

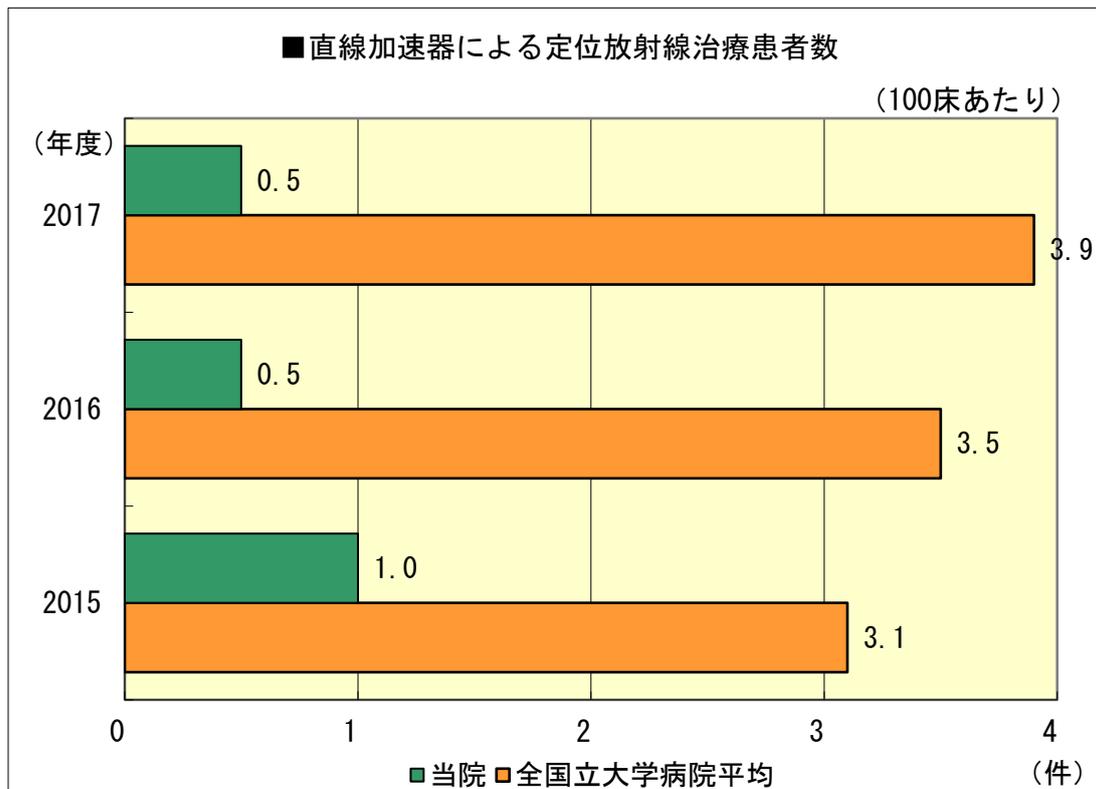
国立大学病院機能指標 13

定 義

医科診療報酬点数表における、「K898 帝王切開術1－緊急帝王切開」または、入院2日以内に「K898 帝王切開術2－選択帝王切開」且つ「予定入院以外のもの」の算定件数

分娩患者に対する割合などではなく実数として評価する。

13 直線加速器による定位放射線治療患者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
7件	4件	4件

解 説

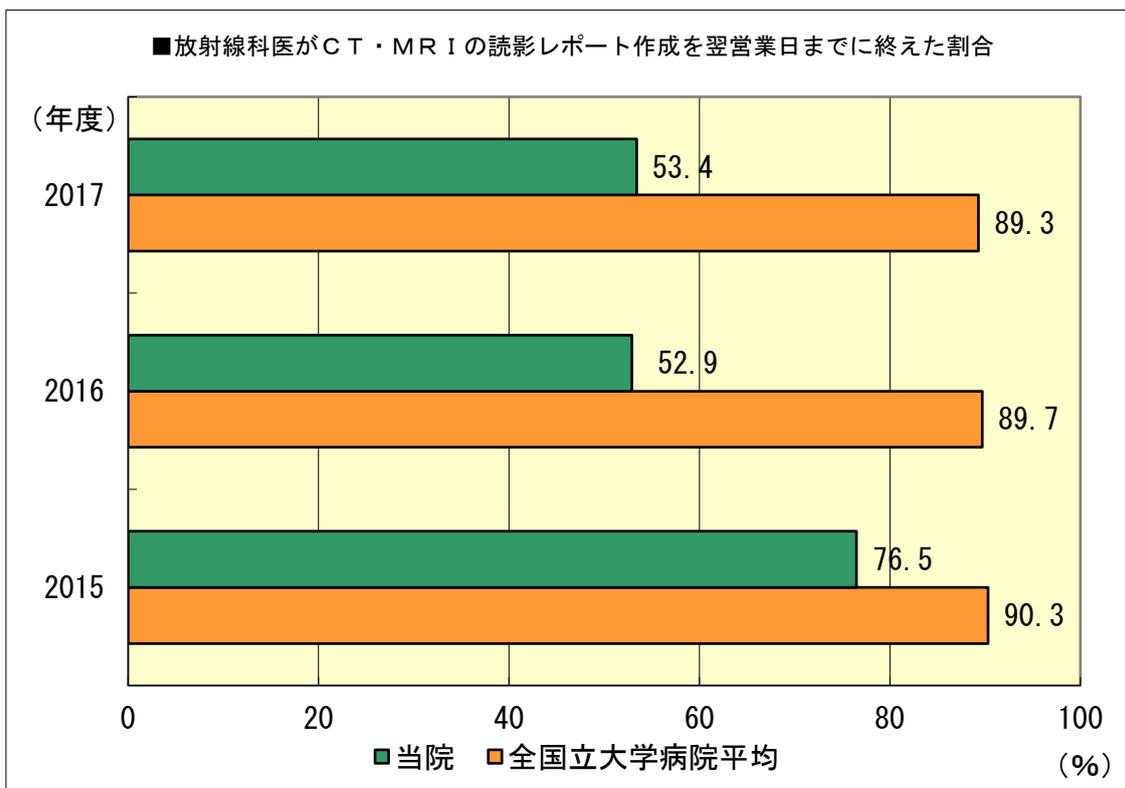
定位放射線治療とは、凹凸のあるがん病巣の形状に合わせて様々な角度と照射範囲で放射線照射を行う治療である。がんの周辺の正常な組織を傷つけずに、病巣だけを狙って治療を行うため、綿密な治療計画と施行時の正確な位置決めが必要となる。このため、通常の放射線治療より時間と手間がかかる。高度な放射線治療を施行する力を示す指標といえる。

国立大学病院機能指標 14

定 義

医科診療報酬点数表における、「M001-3 直線加速器による定位放射線治療」の算定件数

14 放射線科医がCT・MRIの読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
76.5%	52.9%	53.4%

解 説

高度な医療を提供するためには、画像診断をより早く、より正確に行うことが必要である。放射線科医によるCT・MRIの画像診断結果が翌営業日までに提出された割合を表現する指標である。またCT・MRIが放射線科医の監督の下に適切に行われていることを示す指標ともいえるので、実施率が高いことが望まれる。

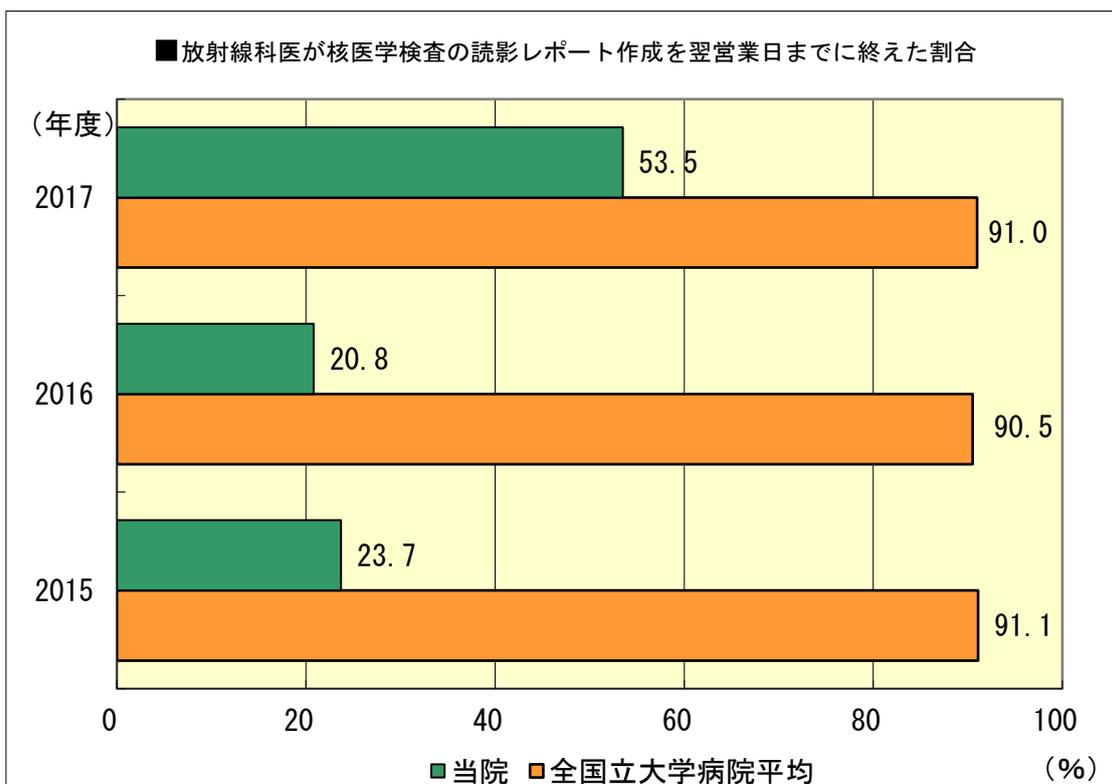
国立大学病院機能指標 15

定 義

1年間の「翌営業日までに放射線科医が読影したレポート数」を「CT・MRI検査実施件数」で除した割合(%)

「放射線科医」とは医科診療報酬点数表の画像管理加算の要件に従い、経験10年以上、専ら画像診断に従事するものを指す。

15 放射線科医が核医学検査の読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
23.7%	20.8%	53.5%

解 説

核医学検査における適切な画像診断がなされていることを評価する指標である。核医学検査が放射線科医の監督の下に適切に行われていることを示す指標ともいえる。

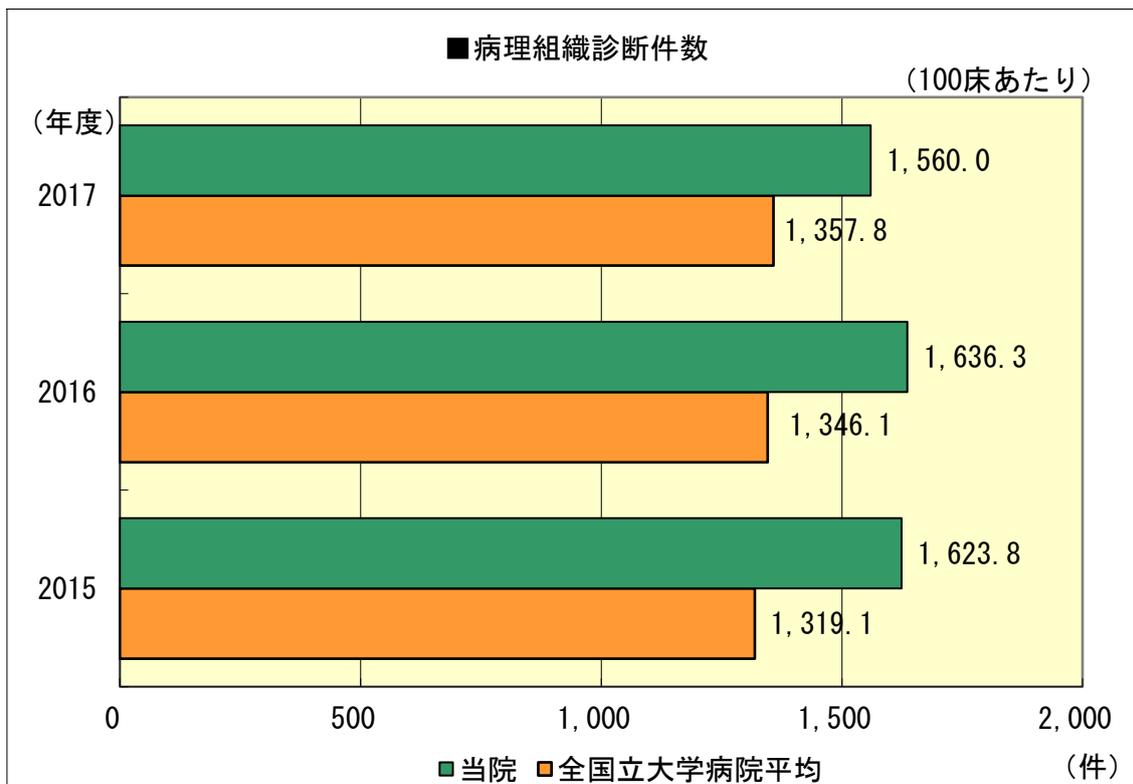
国立大学病院機能指標 16

定 義

1年間の「翌営業日までに放射線科医（及び、核医学診療科医）が読影したレポート数」を「核医学検査実施件数」で除した割合（%）

「放射線科医」とは医科診療報酬点数表の画像管理加算の要件に従い、経験10年以上、専ら画像診断に従事するものを指す。

16 病理組織診断件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
11,042件	11,127件	10,608件

解 説

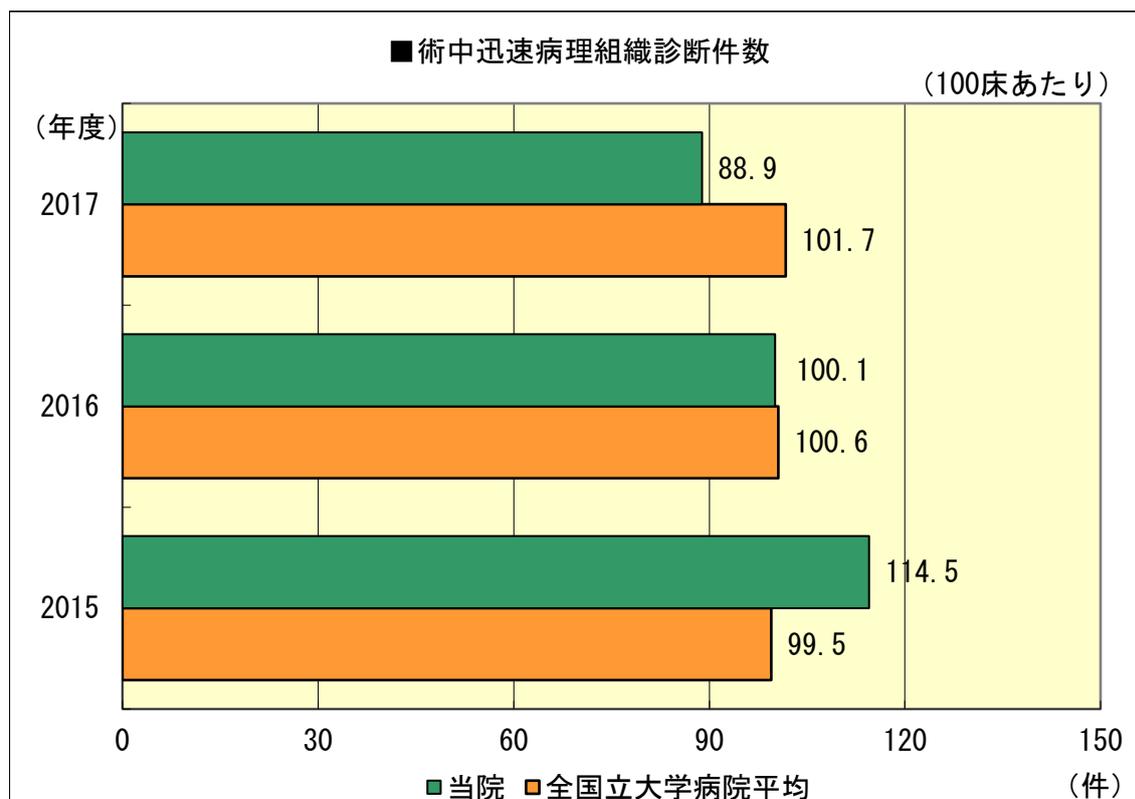
病理診断の結果に基づいて、治療の必要性や治療方法が選択される。病気の最終・確定診断がどの程度行われているかを表す指標である。

国立大学病院機能指標 17

定 義

医科診療報酬点数表における、「N000 病理組織標本作製 (T-M)」および「N003 術中迅速病理組織標本作製 (T-M/OP)」の算定件数入院と外来の合計として、細胞診は含めない。

17 術中迅速病理組織診断件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
779件	681件	605件

解 説

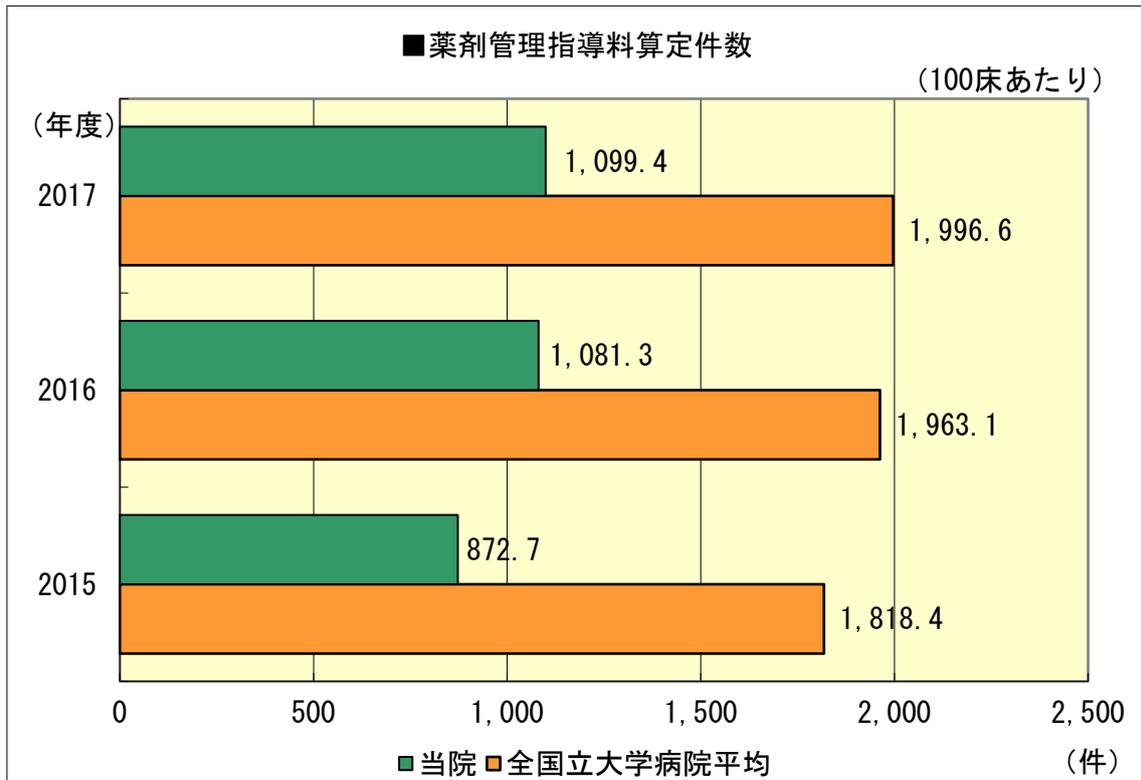
正確で迅速な病理診断は、時として手術中に必要となることがあり、それに基づいて病巣切除の適否または切除範囲が決められる。そのためには、限られた時間内に切除された標本を処理し、迅速かつ正確な診断のできる熟練病理医と設備が病院内に必要となる。件数が増加するほど、これらの機能が充実していることが表現される。

国立大学病院機能指標 18

定 義

医科診療報酬点数表における、「N003 術中迅速病理組織標本作製 (T-M/O P)、N003-2 術中迅速細胞診」の算定件数

18 薬剤管理指導料算定件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
5,935件	7,353件	7,476件

解 説

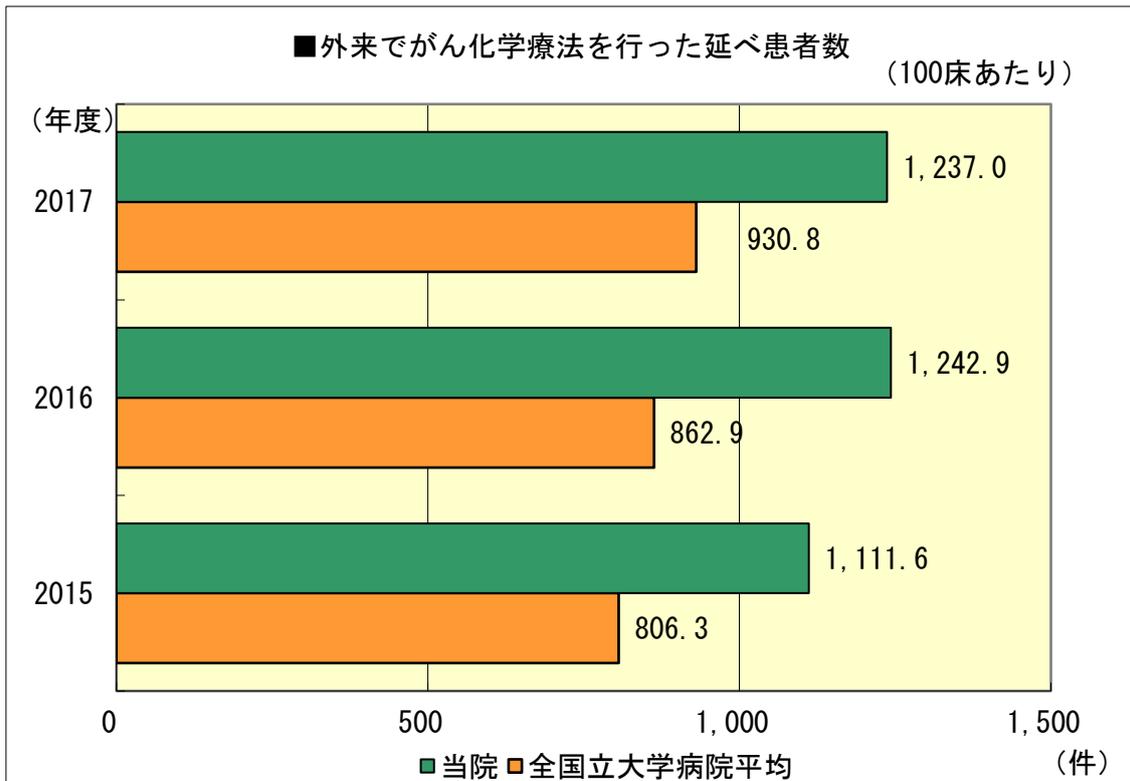
医師の指示に基づき薬剤師が入院患者に行う服薬指導についての指標である。薬剤に関する注意事項、効果、副作用をわかりやすく説明し、患者とともに有効かつ安全な薬物療法が行われることを担保するものである。

国立大学病院機能指標 19

定 義

医科診療報酬点数表における、「B008 薬剤管理指導料(1)(2)」の算定件数

19 外来でがん化学療法を行った延べ患者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
7,559件	8,452件	8,412件

解 説

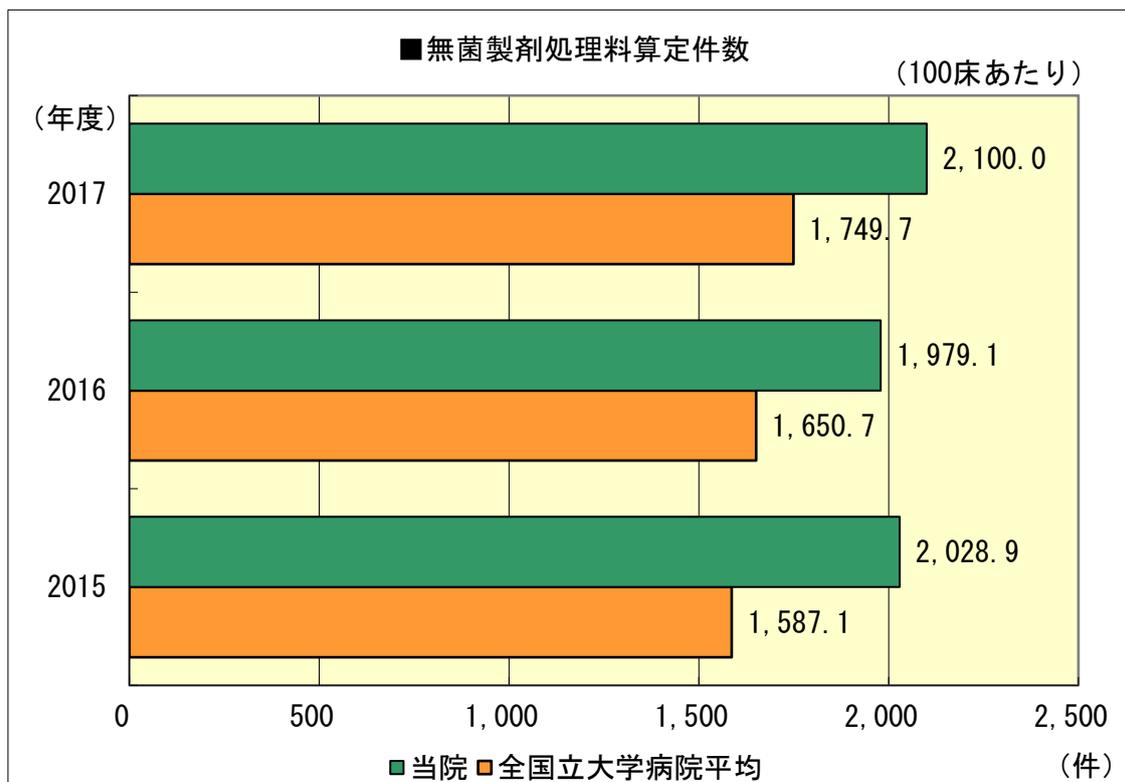
近年、がん化学療法の多くが外来で行えるようになり、日常生活を送りながら治療を受けられるようになった。患者の生活の質向上につながる一方、外来で適切に化学療法を行うためには、担当の医師、看護師、薬剤師などの配置が必要になる。外来化学療法を行えるだけの職員、設備の充実度を表現する指標である。

国立大学病院機能指標 20

定 義

医科診療報酬点数表における、「第6部注射通則6 外来化学療法加算」の算定件数

20 無菌製剤処理料算定件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
13,797件	13,458件	14,280件

解 説

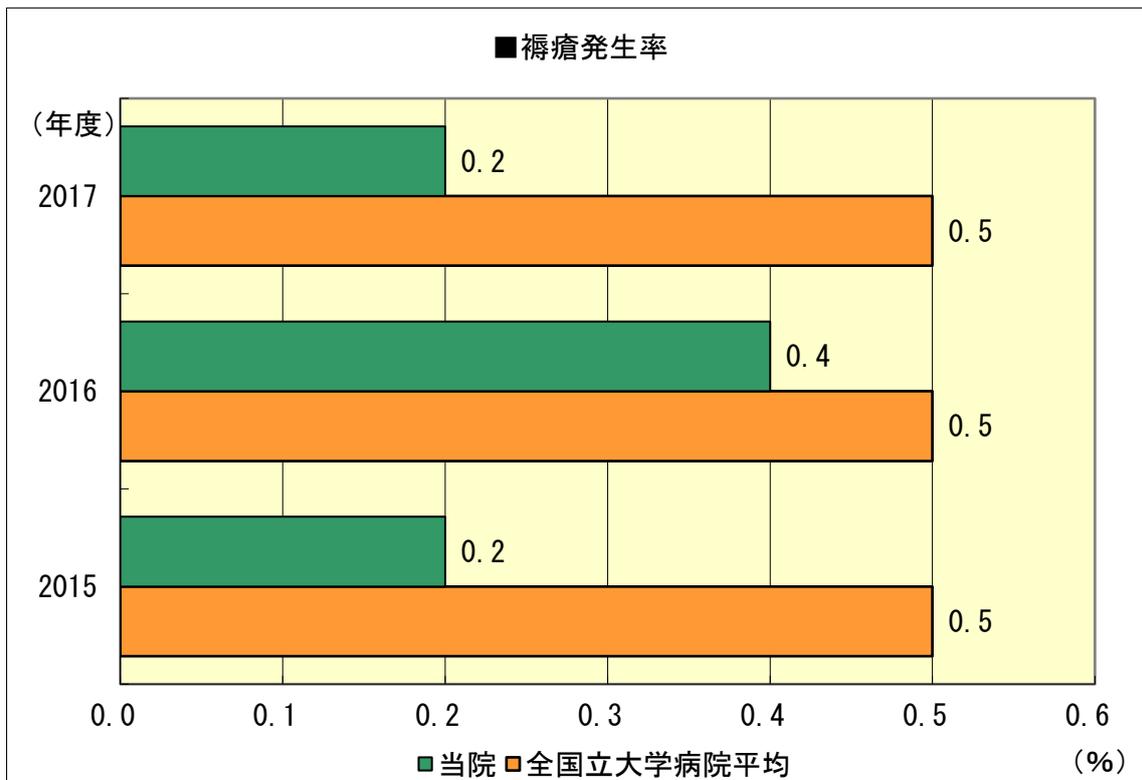
がん化学療法や特別な栄養管理に使われる注射薬の準備には、滅菌された環境（クリーンベンチ）と経験が豊富な薬剤師が必要である。適切な無菌管理による高度な薬物治療を提供していることを表現する指標である。

国立大学病院機能指標 21

定 義

医科診療報酬点数表における、「G020 無菌製剤処理料（１）（２）」の算定件数入院診療と外来診療の合計とする。

21 褥瘡発生率



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
0.2%	0.4%	0.2%

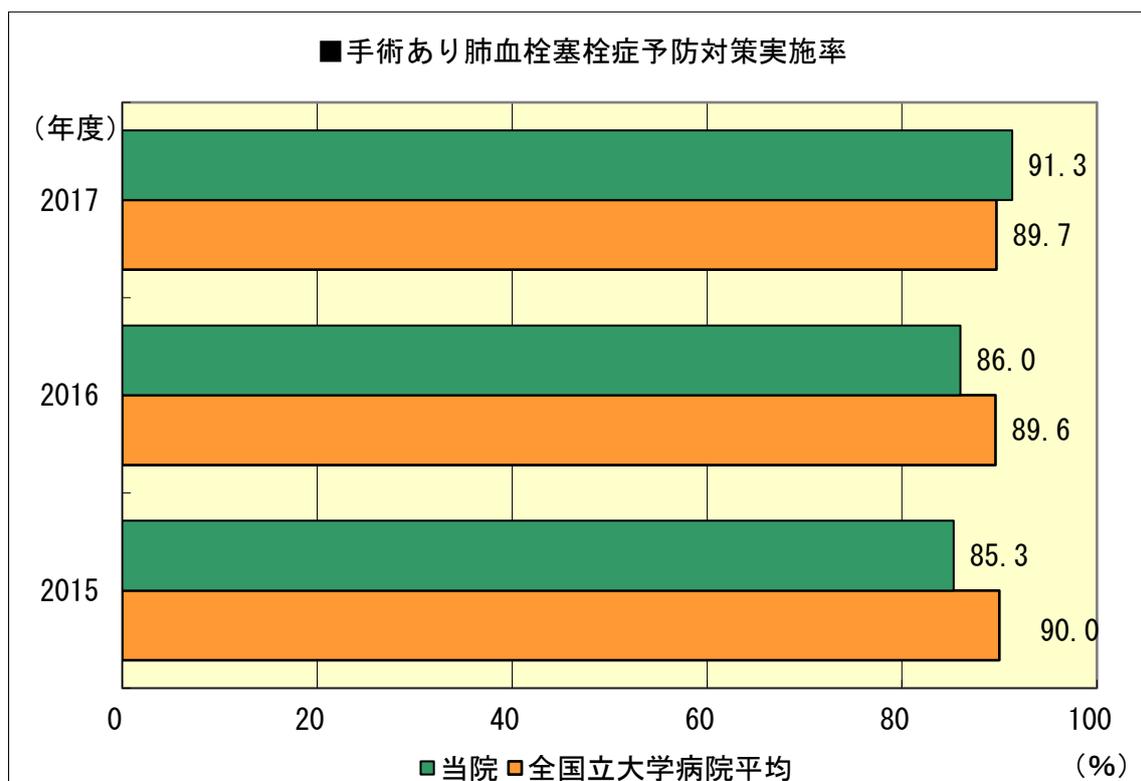
解 説

入院中に発生した褥瘡（床ずれ）は、患者のQOLを低下させ、入院の長期化につながることもある。予防可能な褥瘡については、適切な診療やケアにより発生を回避できる。当該指標は予防への取り組みとその効果を示す指標である。

定 義

1年間での、褥瘡発生率（入院してから新しく褥瘡を作った患者比率（%））

22 手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
85.3%	86.0%	91.3%

解 説

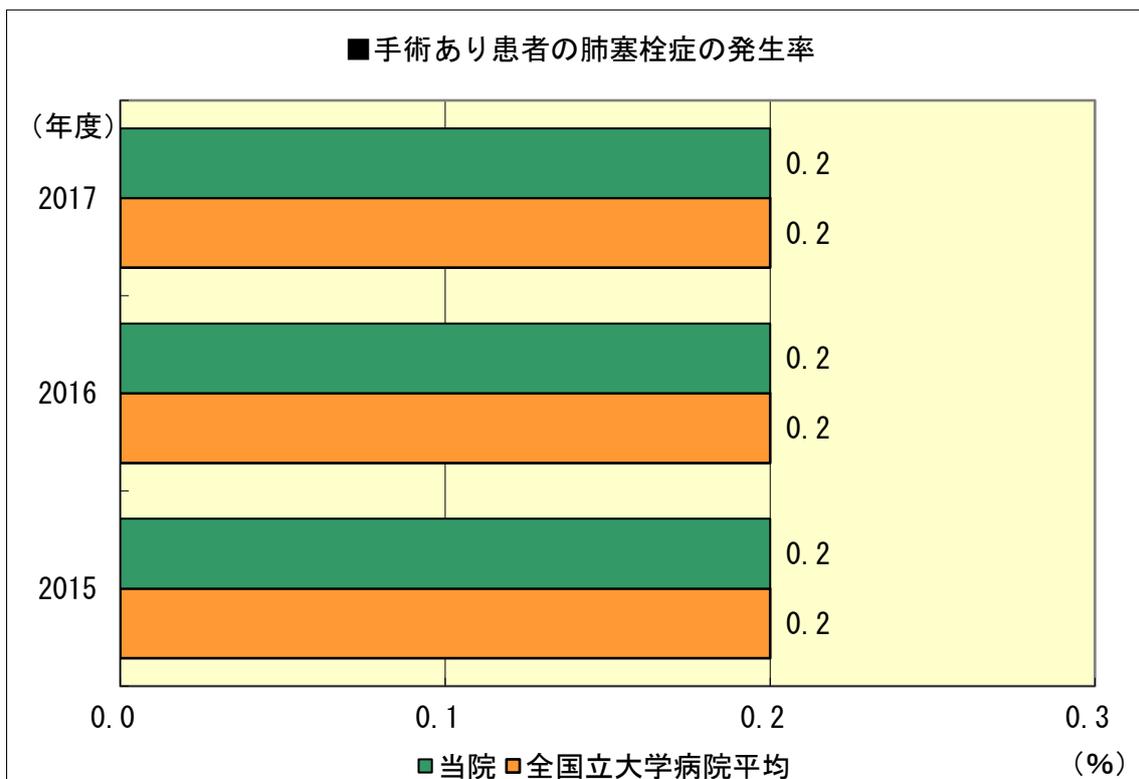
肺血栓塞栓症は、エコノミークラス症候群ともいわれ、血のかたまり（血栓）が肺動脈に詰まり、呼吸困難や胸痛を引き起こし、死に至ることもある疾患である。長期臥床や下肢または骨盤部の手術後等に発症することが多く、発生リスクに応じて、早期離床や弾性ストッキングの着用などの適切な予防が重要になる。当該指標は、術後肺血栓塞栓症予防の対策の実施状況を評価するものである。

国立大学病院機能指標 23-1

定 義

肺塞栓症リスクの高い患者に対する、予防対策の実施割合

23 手術あり患者の肺塞栓症の発生率



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
0.2%	0.2%	0.2%

解 説

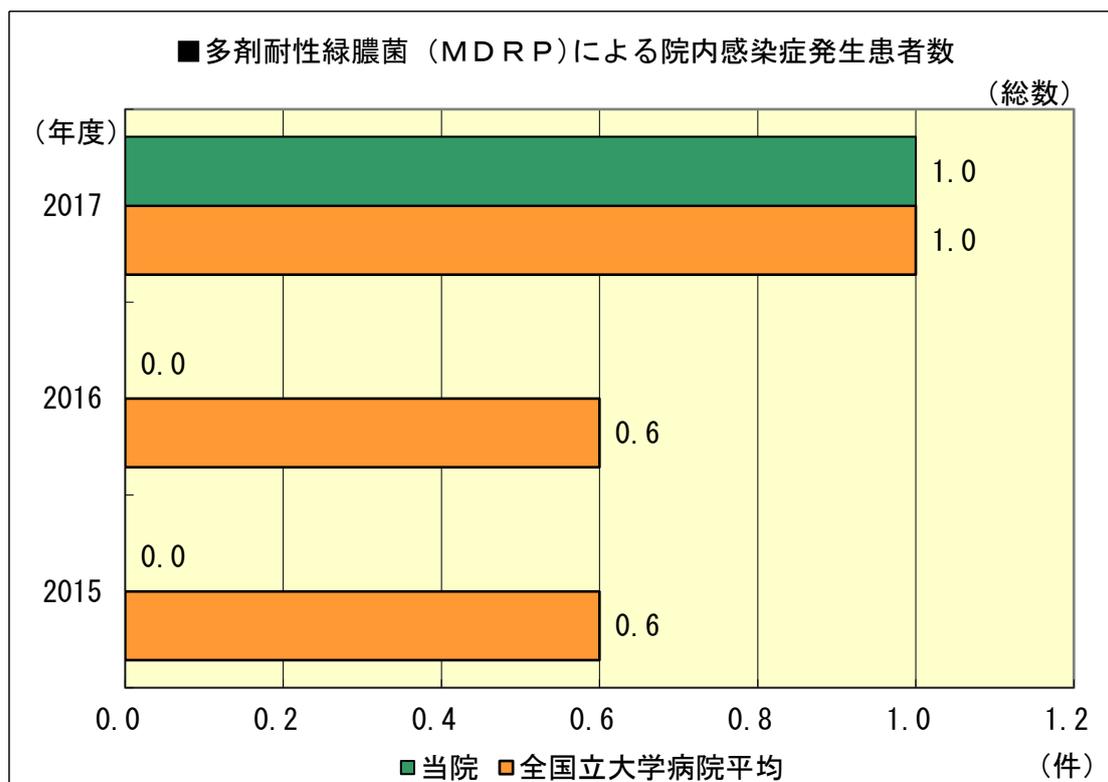
「項目22 手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率」と同様に、肺塞栓症予防に対する病院全体の取り組みの結果を表現する指標である。なお、肺塞栓症の患者数は、各国立大学附属病院における肺塞栓症の診断定義により、過大・過小に計上される場合がある。

国立大学病院機能指標 23-2

定 義

肺塞栓症リスクの高い患者に対する、肺塞栓症の発生率 (%)

24 多剤耐性緑膿菌（MDRP）による院内感染症発生患者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
0件	0件	1件

解 説

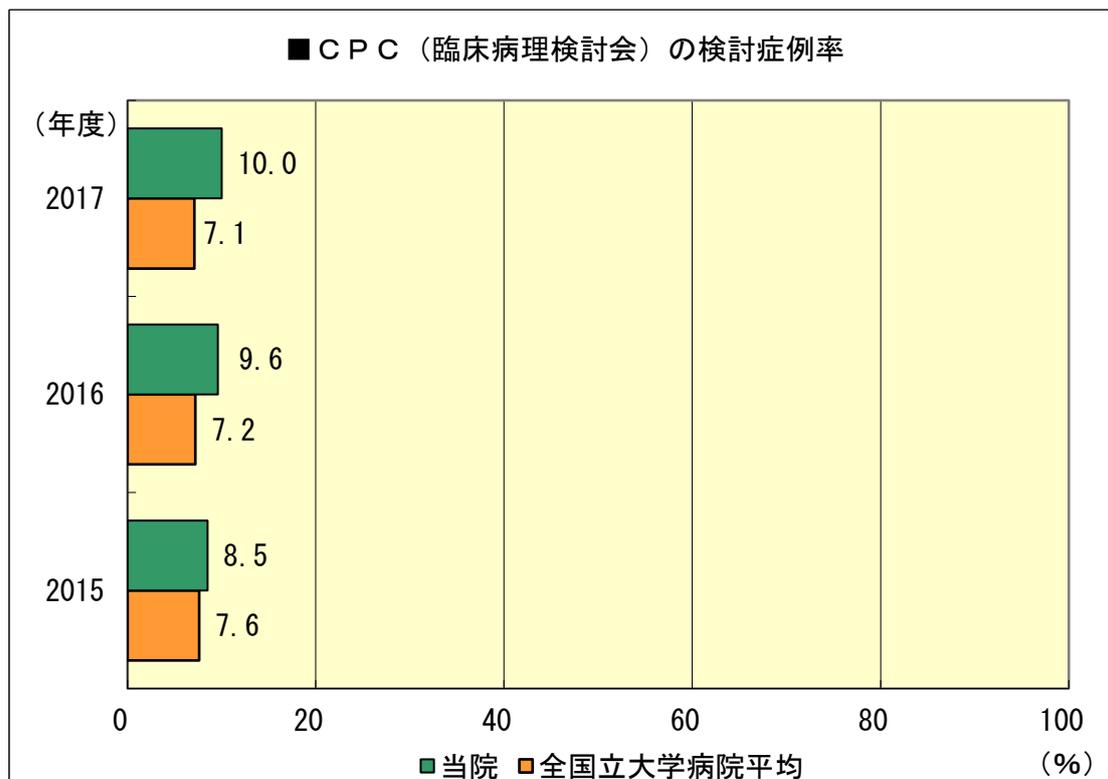
免疫力の低下した患者が多剤耐性緑膿菌（MDRP）に感染すると、難治性の感染症を引き起こし死に至る場合がある。病院内の手洗いを励行するなど、適切な院内感染予防対策の実施により、発症頻度を低減することが可能である。当該指標は、院内感染予防対策の実施とその効果を示す指標である。各病院のMDRPの検査の実施に関する取り組みにより、その結果は影響を受ける。このため、当該指標だけの病院間比較は困難であることに留意する必要がある。なお、当該指標の集計に際し、対象となる菌が検査で検出されているが発症が認められていない症例については除外している。

国立大学病院機能指標 24

定 義

1年間の新規MDRP発生患者数
保菌者による持ち込み感染は除き、入院3日目以降に発生したものを計上する。

25 CPC（臨床病理検討会）の検討症例率



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
8.5%	9.6%	10.0%

解 説

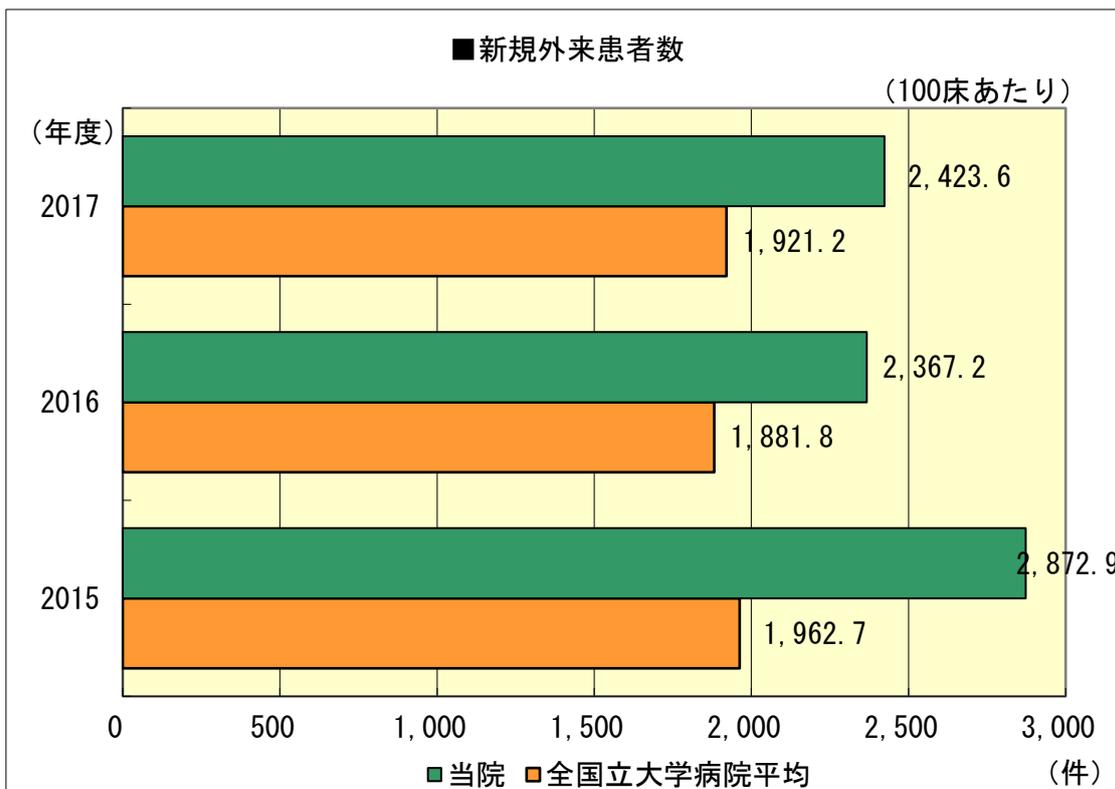
CPC (clinicopathological (または clinicopathologic) conference、臨床病理検討会)とは臨床医・病理医などが、治療中に院内で死亡し病理解剖が行われた症例について診断や治療の妥当性を検証する症例検討会のことで、診療行為を見直すことで得られた知見を、今後の治療に役立てるために行われる。医学生、研修生の教育にも寄与するもので、その取り組みの状況を表現する指標である。患者家族の同意が前提であり、病院側だけの思いで本項目の割合を増やすことは困難であり、また画像診断法の進歩でCPCまで進む必要がない状況もあるが、教育機関でもある大学病院にとって本項目は非常に重要であり今後も注視していかなければならない。

国立大学病院機能指標 25

定 義

1年間のCPC（臨床病理検討会）のCPC件数を死亡患者数で除した割合（%）
 自院での死亡退院を対象とする。ただし、学外で病理解剖が行われた症例について、病理解剖を担当した医師を招いて実施した症例は検討症例数に含める。

26 新規外来患者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
19,536件	16,097件	16,481件

解 説

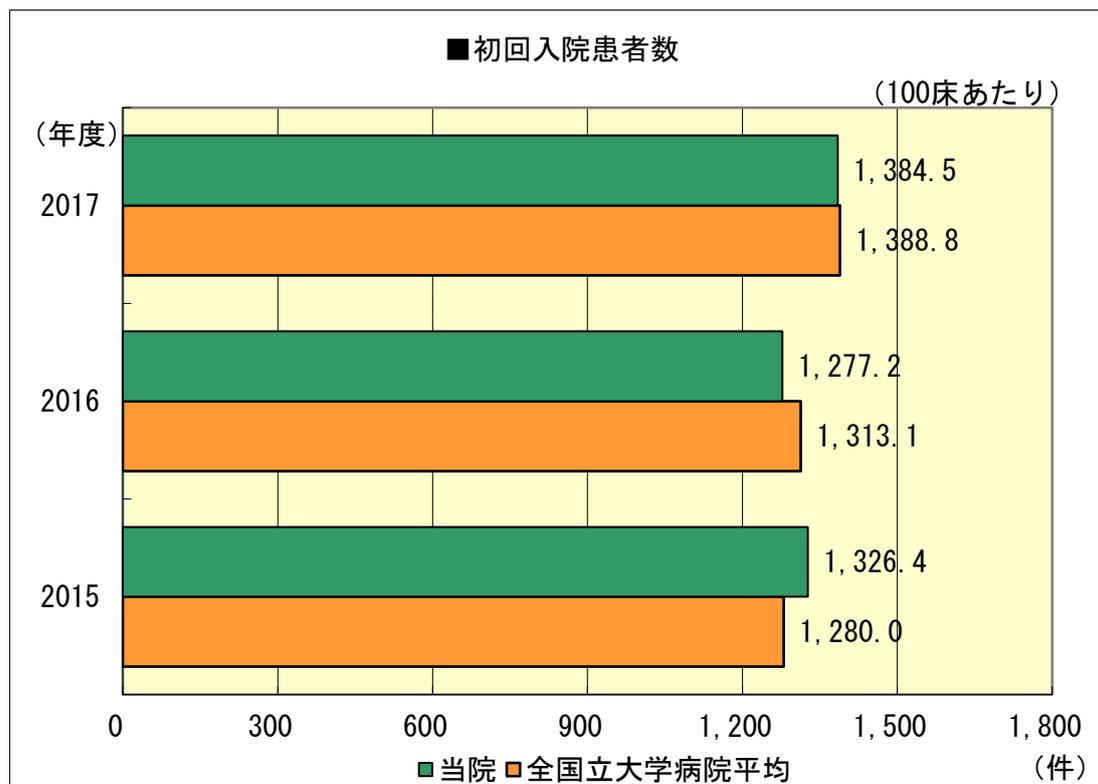
地域の民間病院との連携を強化し、より多くの患者に高度な医療を提供することが国立大学附属病院の使命の一つである。新規外来患者の診療数は、より多くの患者に高度医療を提供していることを表現する指標である。

国立大学病院機能指標 26

定 義

1年間に新規にIDを取得し、かつ診療録を作成した患者数
診療科単位ではなく病院全体単位で新規にIDを取得した場合が該当。外来を經由しない入院も含む。

27 初回入院患者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
9,020件	8,685件	9,415件

解 説

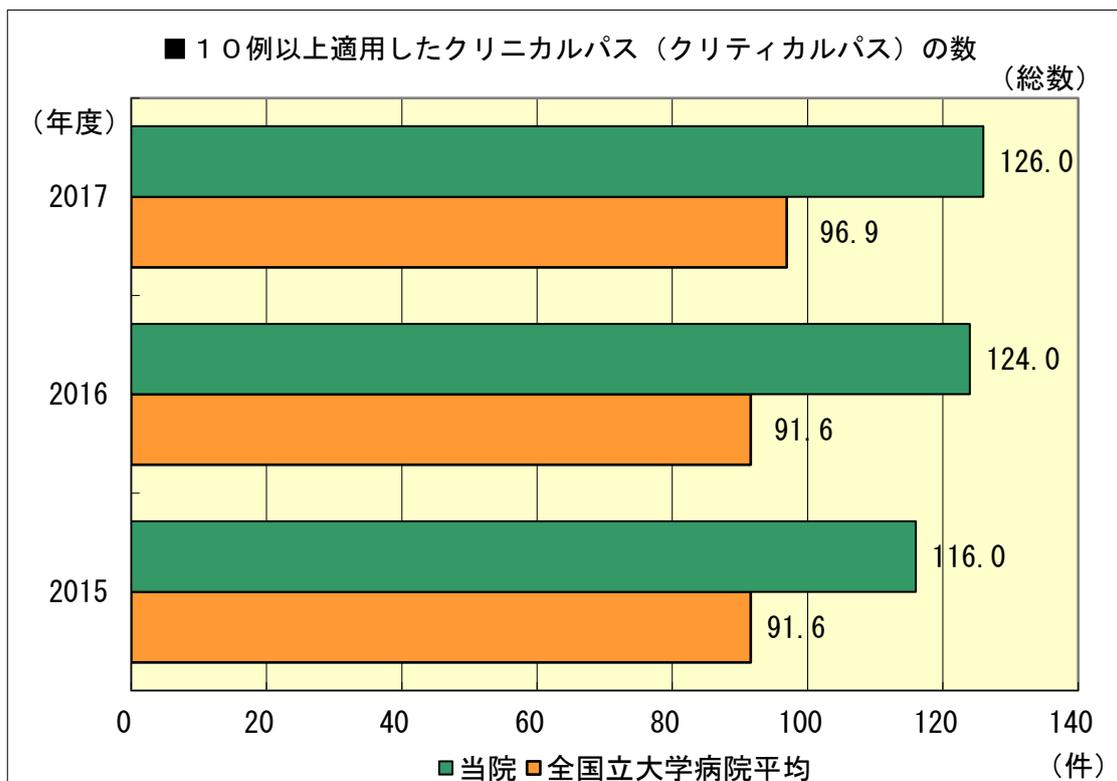
「項目26 新規外来患者数」と同様の考えで、新規に入院診療を行う患者数を示す指標である。入退院を繰り返すことが多い疾患（化学療法など）を数えた入院患者数では、病院に新規の治療で入院した患者数を反映しない。本項目は、より多くの患者に新たに入院医療を提供していることを表現する指標である。

国立大学病院機能指標 27

定 義

1年間の入院患者のうち、入院日から過去1年間に自院に入院履歴がない入院患者数
診療科単位ではなく、病院全体として考え入院履歴がない場合が該当。保険診療、公費、
労災、自動車賠償責任保険に限定し、人間ドック目的の入院は除く。

28 10例以上適用したクリニカルパス（クリティカルパス）の数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
116件	124件	126件

解 説

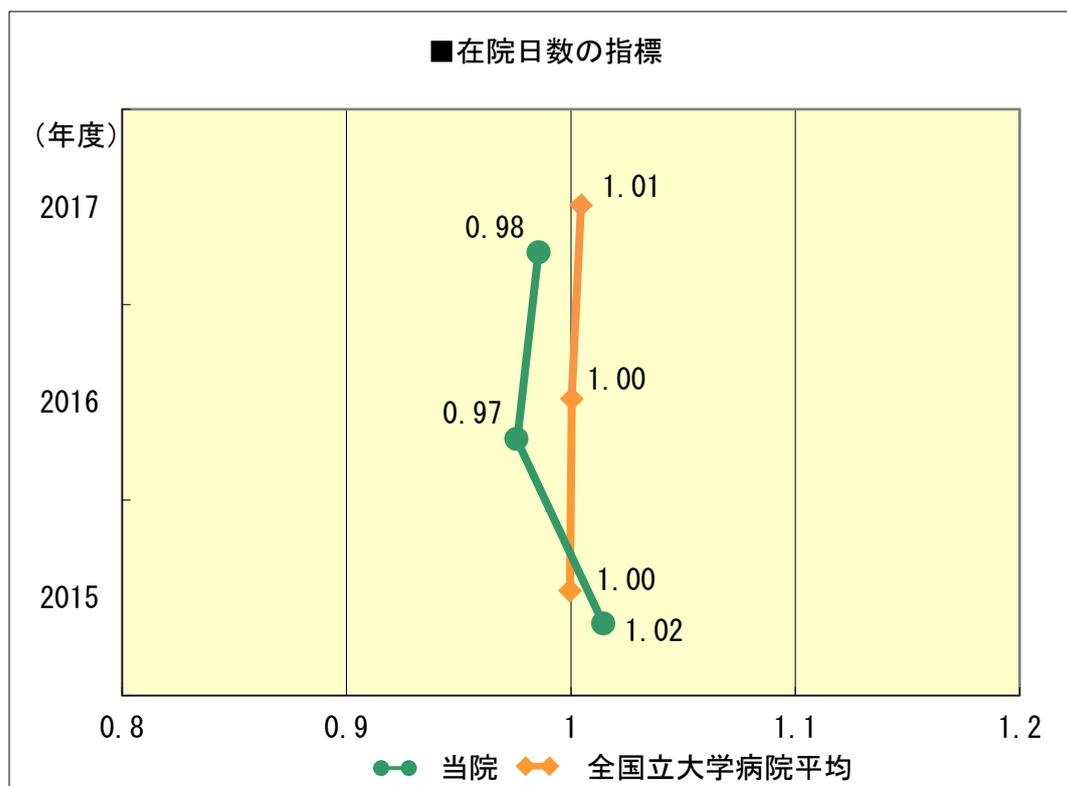
クリニカルパス（クリティカルパス）とは、患者状態と診療行為の目標、及び評価・記録を含む標準診療計画のことである（日本クリニカルパス学会HPより引用）。クリニカルパスは医療の標準化を進め医療の質と効率の向上を目指すものである。この項目は、その施設がどのくらい医療の標準化と医療の質の向上に取り組んでいるかを表現する指標である。

国立大学病院機能指標 28

定 義

1年間に10例以上適用したクリニカルパス（クリティカルパス）の数
 「10例以上」とは特異な事情（バリエーション）によるパスからの逸脱（ドロップアウト）を含み、当該年度内に適用された患者数とする。
 パスの数は1入院全体だけではなく、周術期等の一部分に適用するパスでも1件とする。

29 在院日数の指標



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
1.02	0.97	0.98

解 説

平均在院日数は、短いほど効率的な診療を行っていると考えられることもあるが、重症のため入院期間を長くする必要のある症例の治療を行う病院のことを十分に考慮していない。そのため、この指標はそうした病気の重症度を加味して各病院の在院日数を評価している。数値が1の場合は全国平均と同じ在院日数であることを表す。1より大きい場合は短い在院日数であることを表しており、効率的な病院であると考えられる。

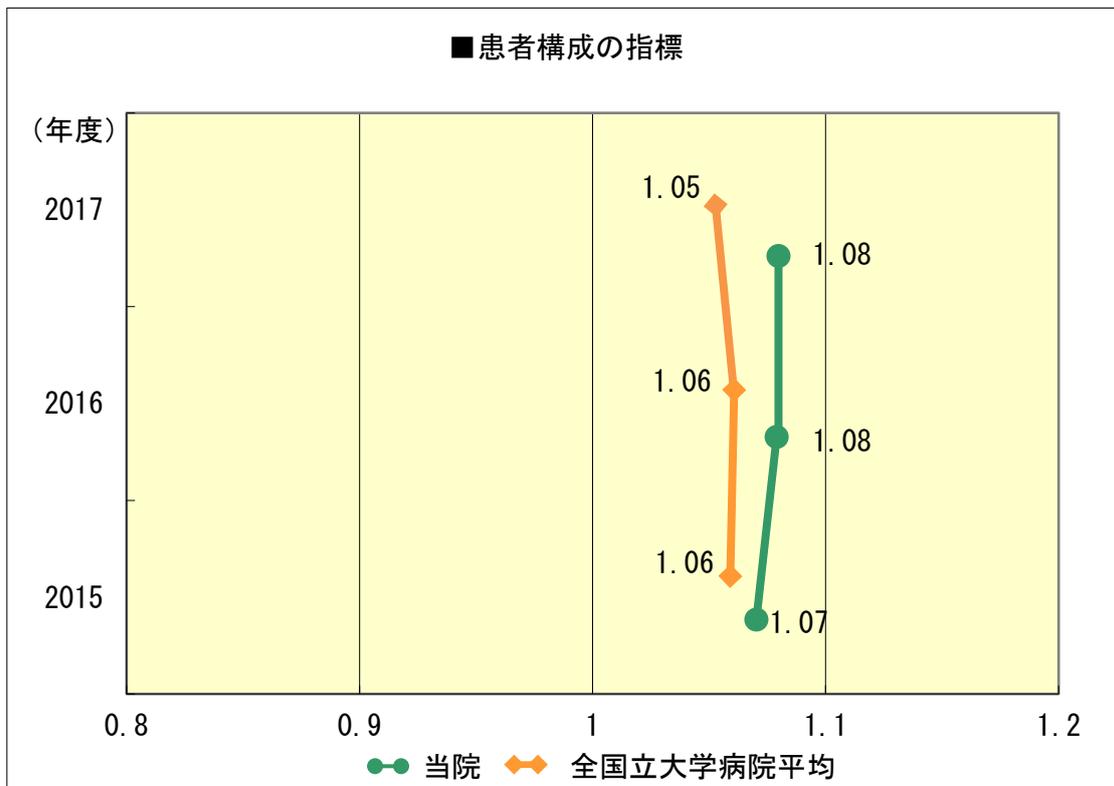
国立大学病院機能指標 29

定 義

厚生労働省のDPC評価分科会の公開データ

(2017年度全調査対象医療機関の全体の在院日数の平均値(12.23日)を、DPC毎の患者構成を2017年度全国平均に合わせた際の医療機関別の在院日数で除した値)

30 患者構成の指標



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
1.07	1.08	1.08

解 説

在院日数の長い複雑な疾患の患者をどの程度診療しているのかを表現した指標である。全国のDPC対象病院の疾患毎の平均在院日数を用いて、各国立大学附属病院の患者構成の違いを相対的に表す。数値は1が全国平均であり、1より大きい場合、在院日数を長く必要とする複雑な疾患を診療している病院といえる。つまり、高度な医療を提供する国立大学附属病院として、治療の内容が複雑な患者をより多く診療していることを示す指標である。

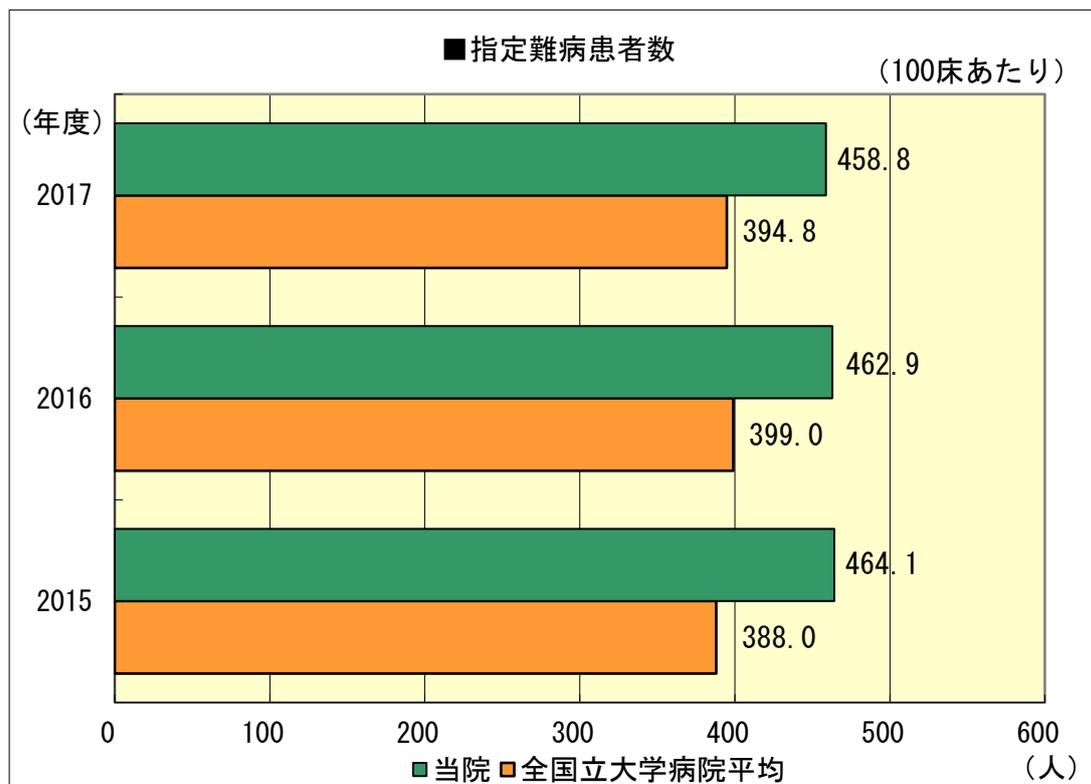
国立大学病院機能指標 30

定 義

厚生労働省のDPC評価分科会の公開データ

(DPC毎の在院日数を、2017年度全国平均に合わせた際の医療機関別の在院日数を、2017年度全調査対象医療機関の全体の在院日数の平均値(12.23日)で除した値)

31 指定難病患者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
3,156人	3,148人	3,120人

解 説

難治性疾患の診療には、特殊な専門性が必要である。

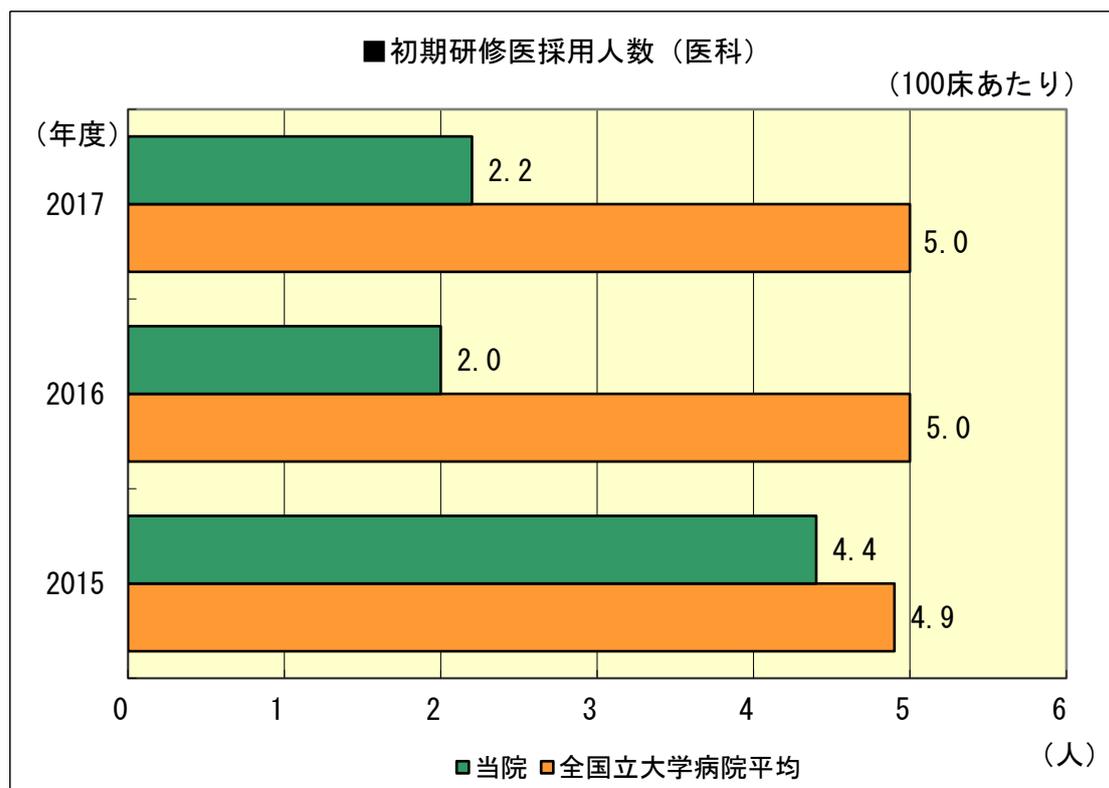
国立大学病院機能指標 31

定 義

1年間の指定難病実患者数

指定難病は「難病の患者に対する医療等に関する法律（平成二六年法律第五〇号）」第五条第一項に規定する疾患を対象とする（2017年7月17日時点で330疾患）。

32 初期研修医採用人数（医科）



当院の実績

（総数）

2015年度	2016年度	2017年度
30人	14人	15人

解 説

初期臨床研修医制度導入後、大学病院以外での研修が盛んに行われるようになった。より魅力のある初期研修を提供していることを表す指標として、プログラムの採用人数（国家試験合格者のみ）を指標とする。初期研修に積極的に取り組もうという姿勢を評価する指標といえる。

国立大学病院機能指標 33

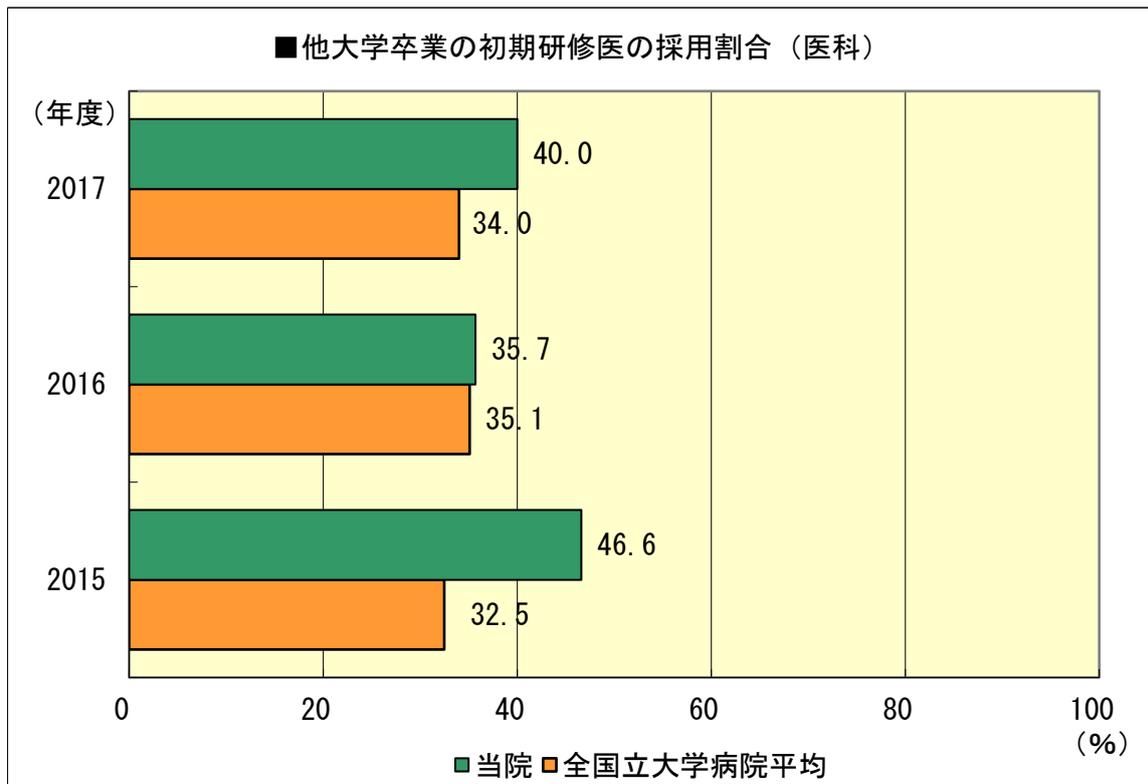
定 義

初期研修プログラム一年目の人数

2年間の初期研修の一部を他病院で行う、「たすき掛けプログラム」の場合でも大学病院研修に限定せず、プログラムに採用した全体人数を計上する。

他院で研修を開始する場合を含む。

33 他大学卒業の初期研修医の採用割合（医科）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
46.6%	35.7%	40.0%

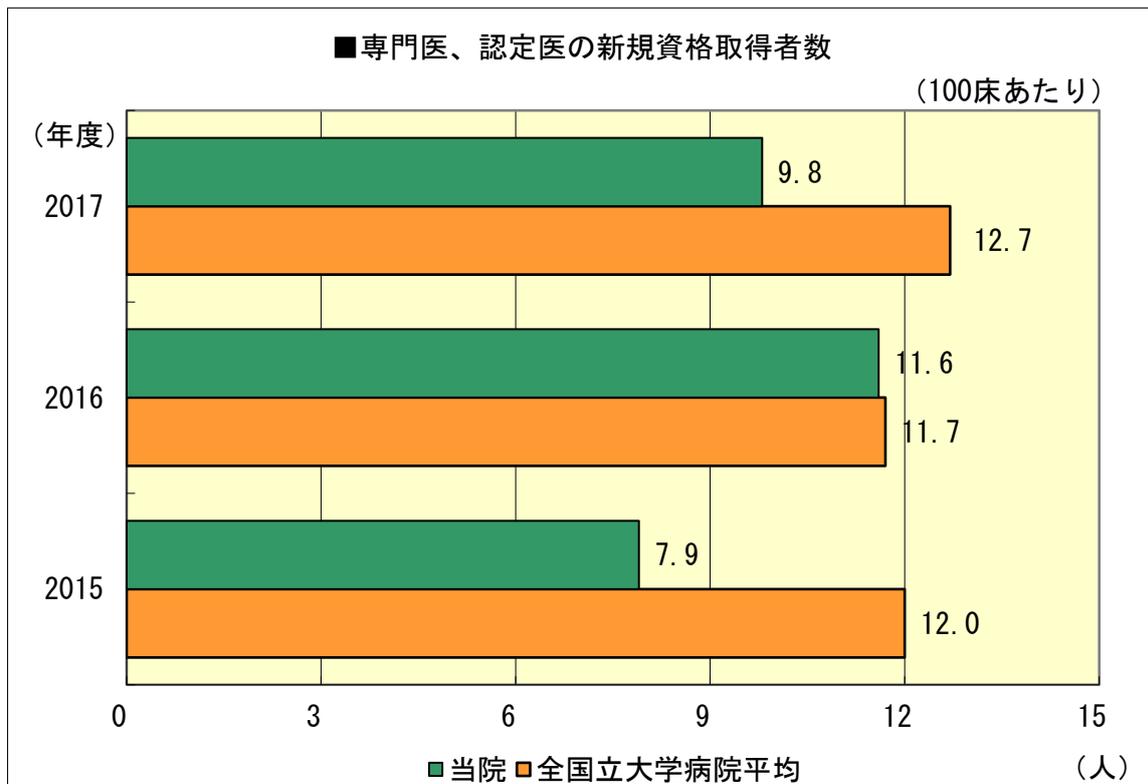
解 説

質の高い病院であり続けるためには魅力的な研修プログラムを提供することが必要である。この項目は、自大学医学部以外の卒業生から見た国立大学附属病院の魅力を示す指標である。

定 義

他大学卒業の初期研修医の採用割合（％）

34 専門医、認定医の新規資格取得者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
54人	79人	67人

解 説

国立大学附属病院の社会的責任の一つに、専門性の高い医師の養成・教育に力を入れることがある。その教育機能、高い専門的診療力を示す指標である。

国立大学病院機能指標 35

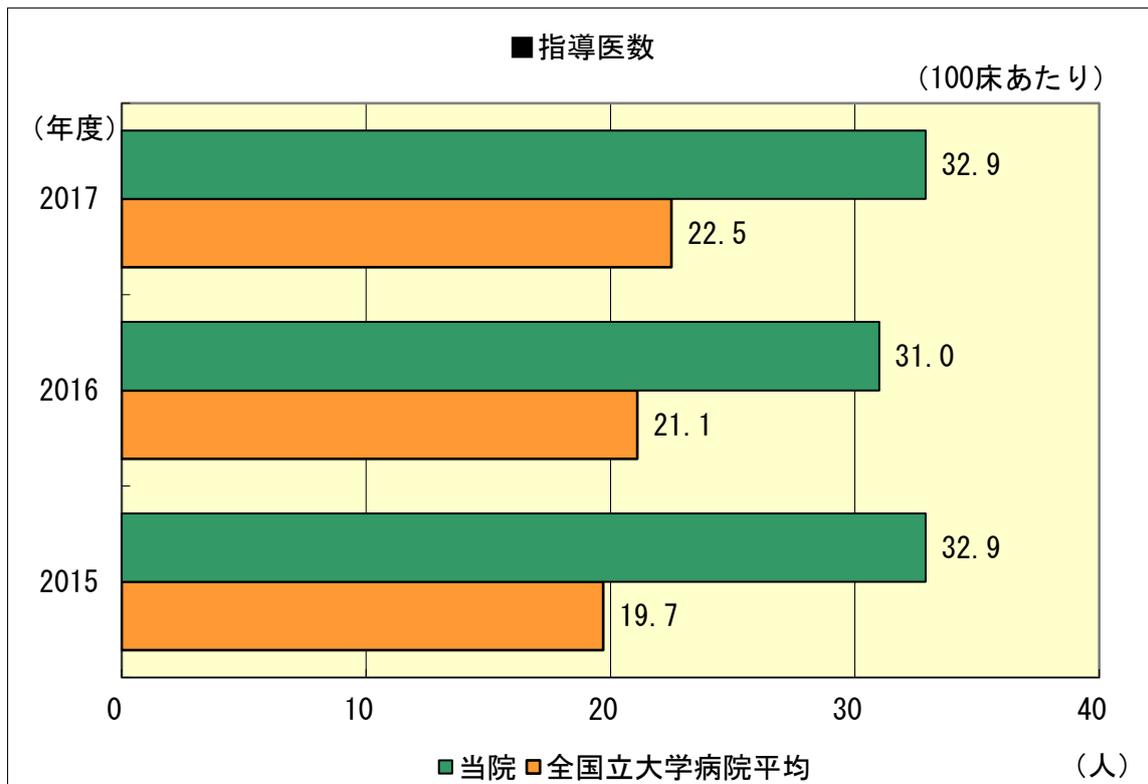
定 義

自院に在籍中（あるいは、自院の研修コースの一環として他院で研修中）に、新たに専門医または認定医の資格を取得した延べ人数

1人の医師が2つの専門医を取得した場合は2人とする。他院の医師であっても、自院で研修して取得した場合も含む。

「項目79 専門医、認定医の新規資格取得者数（歯科）」を含めた全数になる。

35 指導医数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
224人	211人	224人

解 説

指導医とは、研修医の教育・指導を担当できる臨床経験のある専門医師のことである。国立大学附属病院の社会的責任の一つに、診療を通じた研修医指導がある。優れた医療者の育成に真摯に取り組んでいることと、専門医師の層の厚さを表現する指標である。

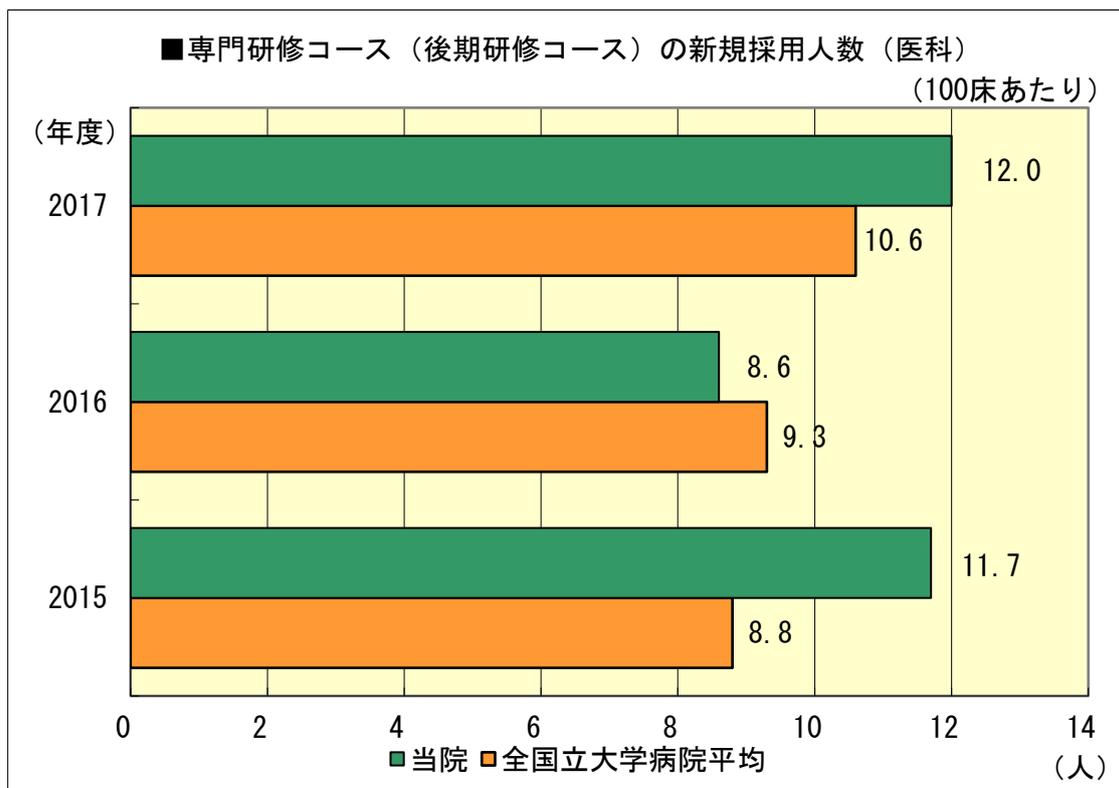
国立大学病院機能指標 36

定 義

医籍をおく医師のうち、臨床経験7年目以上で指導医講習会を受講した臨床研修指導医の人数

臨床研修指導医、及び臨床経験の定義は、「※医師法第十六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令の施行について（厚生労働省平成15年6月12日）」に従う。

36 専門研修コース（後期研修コース）の新規採用人数（医科）



当院の実績

（総数）

2015年度	2016年度	2017年度
80人	59人	82人

解 説

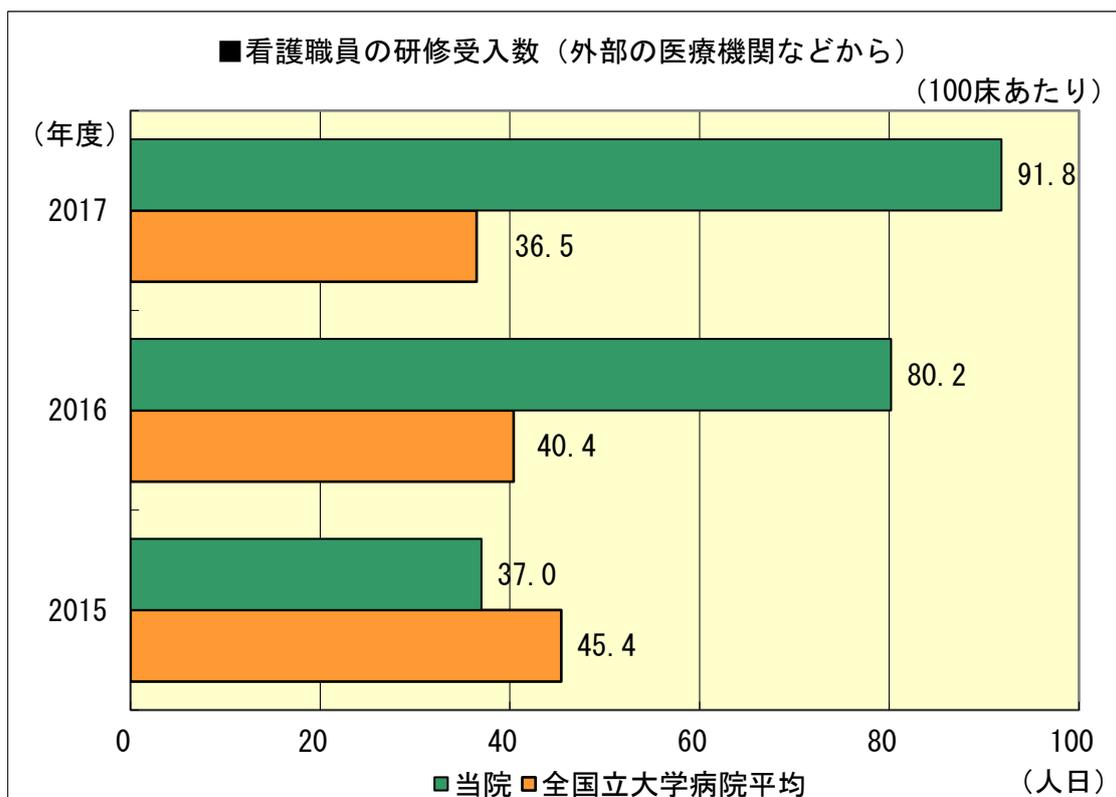
初期臨床研修を終了した医師は、より高度で専門的な研修に進む。これを一般に後期研修と呼ぶ。責任のある医師を地域に派遣することと密接に関係するので、地域医療の持続性を握る鍵ともいえる。総合性と専門性のある若手医師をいかに多く育てるかを表現する指標である。

国立大学病院機能指標 37

定 義

後期研修コース一年目の人数
大学が設置したプログラムに採用した人数。
他院で研修を開始する場合を含む。

37 看護職員の研修受入数（外部の医療機関などから）



当院の実績

（総数）

2015年度	2016年度	2017年度
251人日	545人日	624人日

解 説

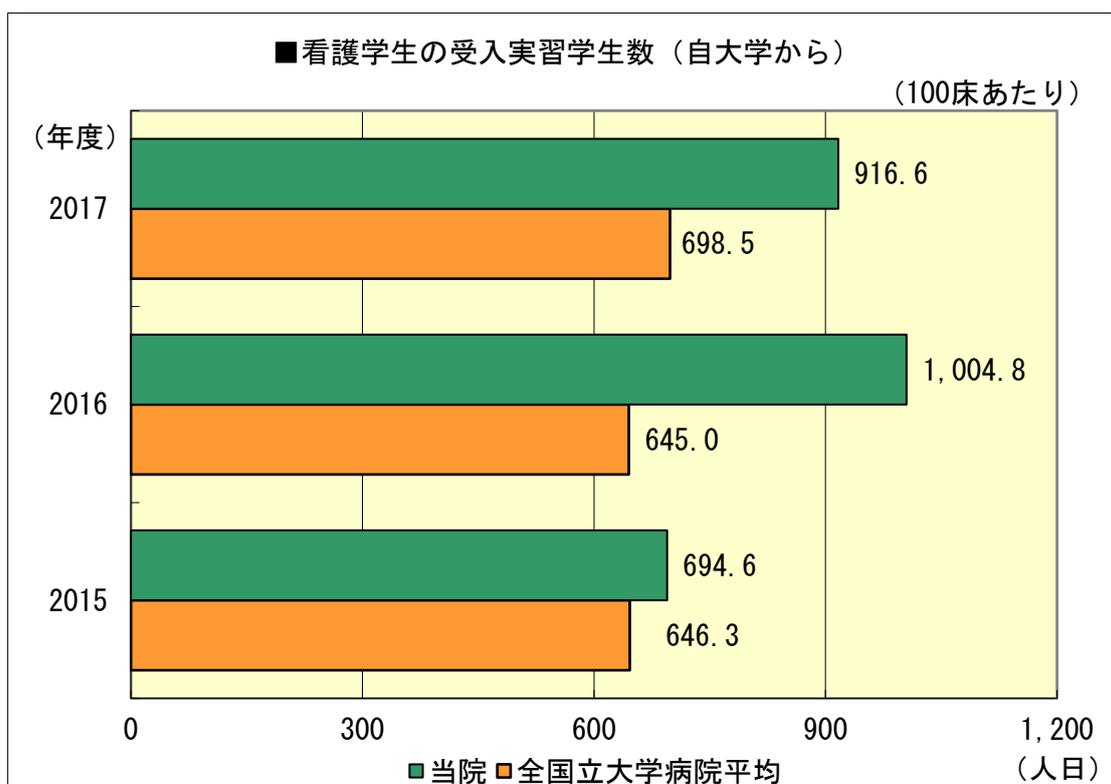
看護職員の知識・技術の向上を図るための研修受け入れ状況について評価する指標である。単に受け入れ人数ではなく、延べ人数（人数×日数）とし看護職員の教育に対する貢献の程度を評価する。

国立大学病院機能指標 38

定 義

1年間の外部の医療機関などからの研修受け入れ延べ人日（人数×日数）
外部の医療機関とは他の病院、外国、行政機関、個人とする。

38 看護学生の受入実習学生数（自大学から）



当院の実績

（総数）

2015年度	2016年度	2017年度
4,723人日	6,833人日	6,232人日

解 説

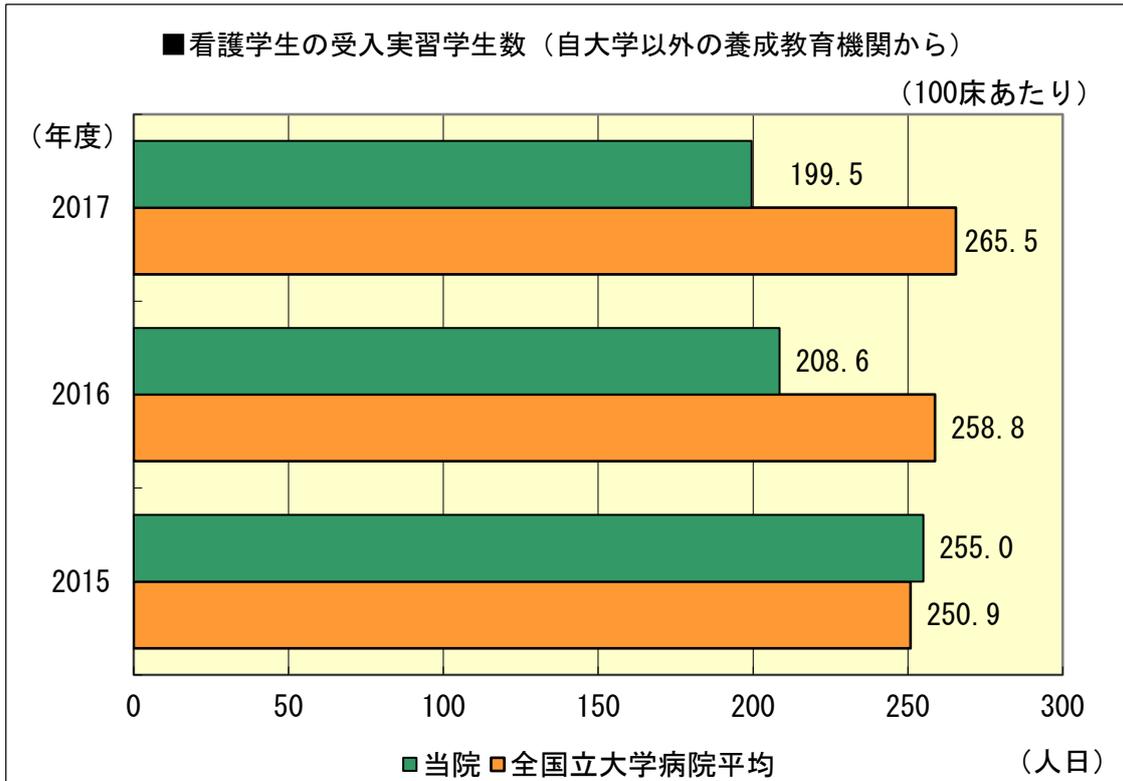
国立大学附属病院は、看護師を目指す学生の教育に社会的責任を負う必要がある。その看護学生実習に関する教育体制が整っていることを表現する指標である。単に受け入れ人数ではなく、延べ人数（人数×日数）とし、臨地実習に対する貢献の程度を評価する。

国立大学病院機能指標 39

定 義

1年間の保健学科・看護学科等の自大学の実習学生延べ人日（人数×日数）

39 看護学生の受入実習学生数（自大学以外の養成教育機関から）



当院の実績

（総数）

2015年度	2016年度	2017年度
1,734人日	1,419人日	1,356人日

解 説

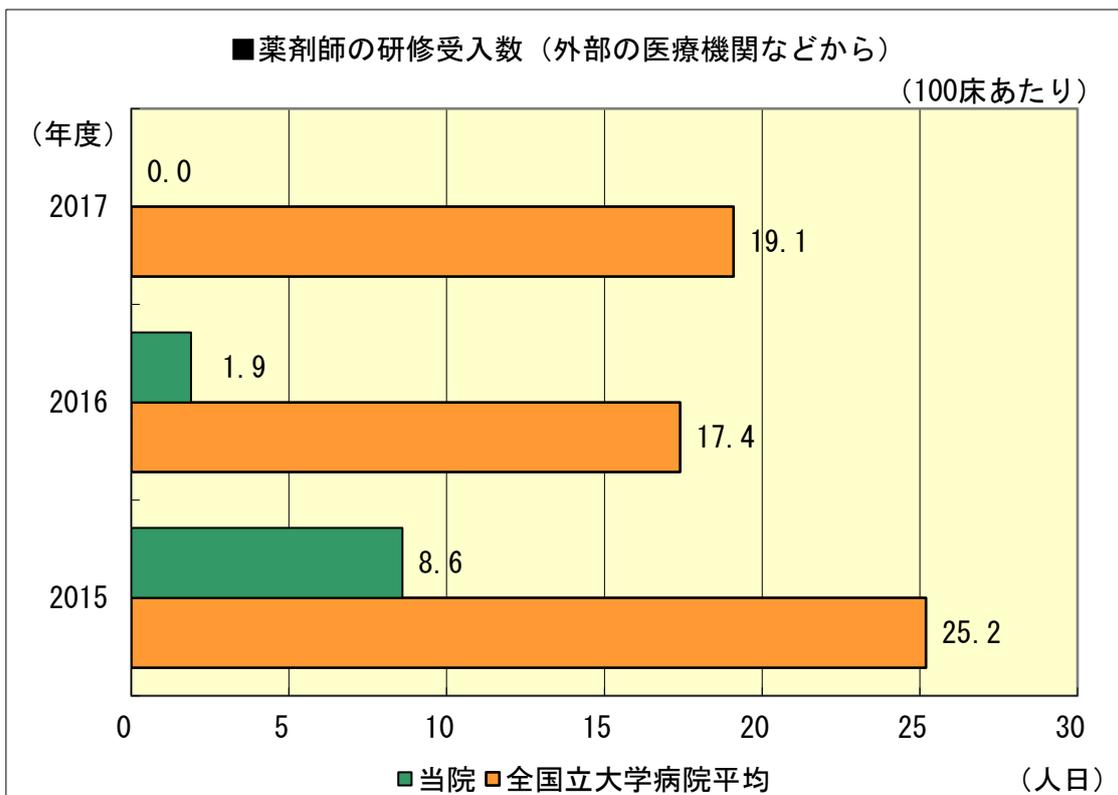
自大学以外の看護職員養成教育機関から、どの程度、看護学生の実習を受け入れているかを表す指標である。間接的に実習に関する教育体制について充実度を評価することができる。単に受け入れ人数ではなく、延べ人数（人数×日数）とすることで、臨地実習に対する貢献の程度を評価する。

国立大学病院機能指標 40

定 義

1年間の自大学以外の養成教育機関からの実習学生延べ人日（人数×日数）
一日体験実習は除く。

40 薬剤師の研修受入数（外部の医療機関などから）



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
59人日	13人日	0人日

解 説

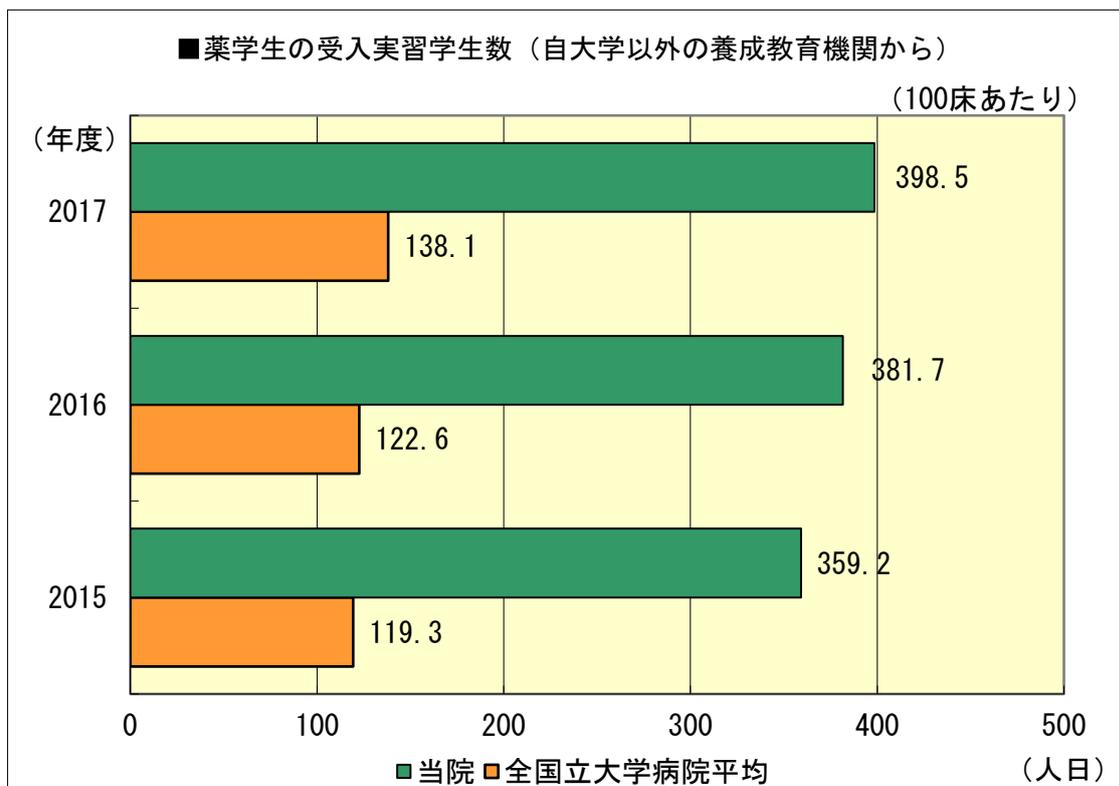
薬剤師は新しい医薬品や治療法などの知識習得と技術向上を、実際の臨床現場で学び続けることが必要である。薬剤師の現任教育及び再教育の体制が整っていることを表現する指標である。単に受け入れ人数ではなく、延べ人数（人数×日数）とし研修に対する貢献の程度を評価する。

国立大学病院機能指標 41

定 義

1年間の外部の医療機関などからの研修受け入れ延べ人日（人数×日数）
外部の医療機関とは他の病院、外国、行政機関、個人とする。

41 薬学生の受入実習学生数（自大学以外の養成教育機関から）



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
2,442人日	2,596人日	2,710人日

解 説

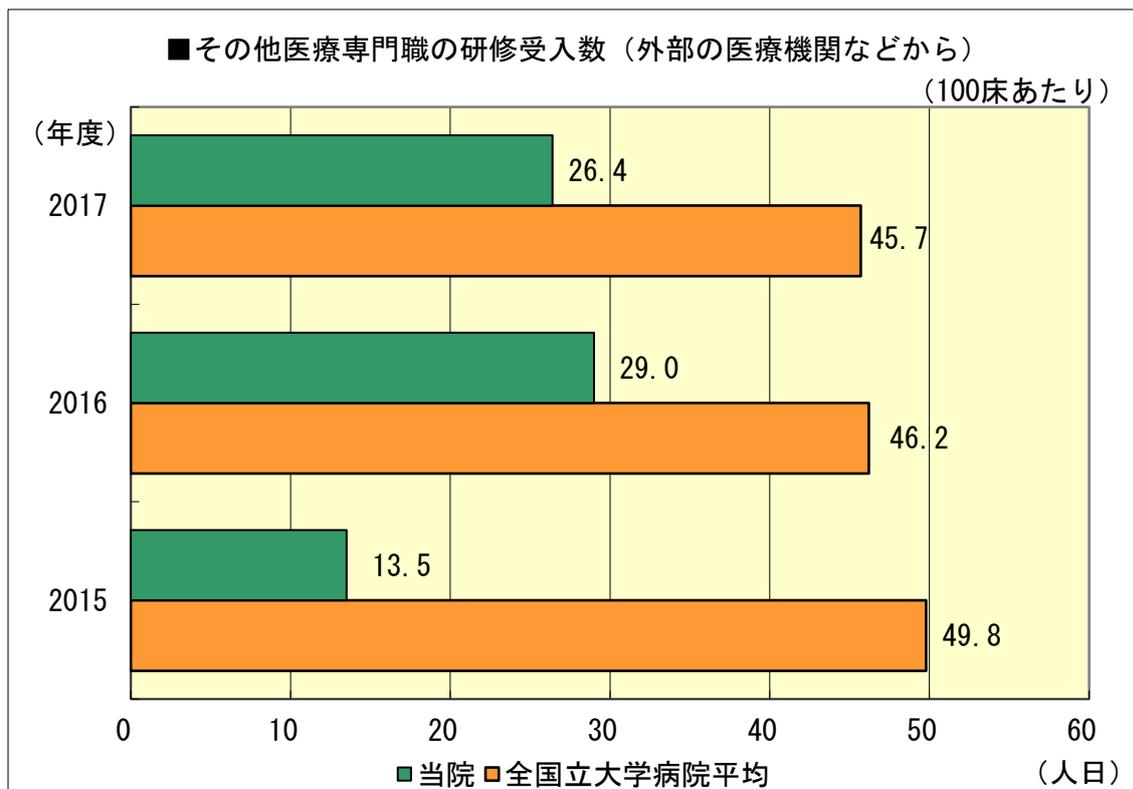
自大学以外の教育機関からどの程度学生の教育実習を受け入れるかを表現した指標である。単に受け入れ人数ではなく、延べ人数（人数×日数）とし臨地実習に対する貢献の程度を評価する。

国立大学病院機能指標 43

定 義

1年間の自大学以外の養成教育機関からの実習学生延べ人日（人数×日数）
一日体験実習は除く。

42 その他医療専門職の研修受入数（外部の医療機関などから）



当院の実績

（総数）

2015年度	2016年度	2017年度
92人日	197人日	180人日

解 説

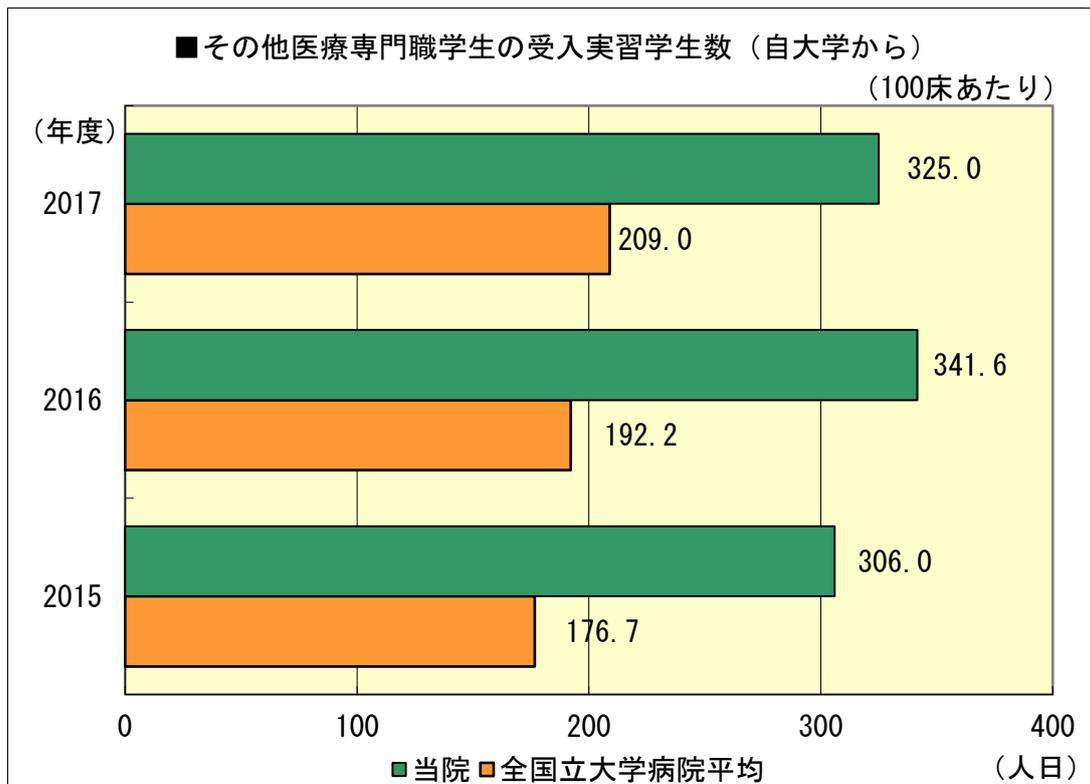
国立大学附属病院が医療を提供していくためには、他の医療関係者の教育にも責任を持つ必要がある。看護職員、薬剤師以外で国家資格を持つ医療専門職人材の研修を受け入れる体制を表現する指標である。単に受け入れ人数ではなく、延べ人数（人数×日数）とし研修に対する貢献の程度を評価する。

国立大学病院機能指標 44

定 義

1年間の外部の医療機関などからの研修受け入れ延べ人日（人数×日数）
外部の医療機関とは他の病院、外国、行政機関、個人とする。
その他医療専門職とは看護職員、薬剤師以外で国家資格の医療専門職を指す。

43 その他医療専門職学生の受入実習学生数（自大学から）



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
2,080人日	2,323人日	2,210人日

解 説

学生への教育も国立大学附属病院の社会的責任の一つといえる。同じ国立大学に在籍し、看護職員または薬剤師以外の国家資格取得を目指す学生に対する教育体制を表現した指標である。

単に受け入れ人数ではなく、延べ人数（人数×日数）とし臨地実習に対する貢献の程度を評価する。

国立大学病院機能指標 45

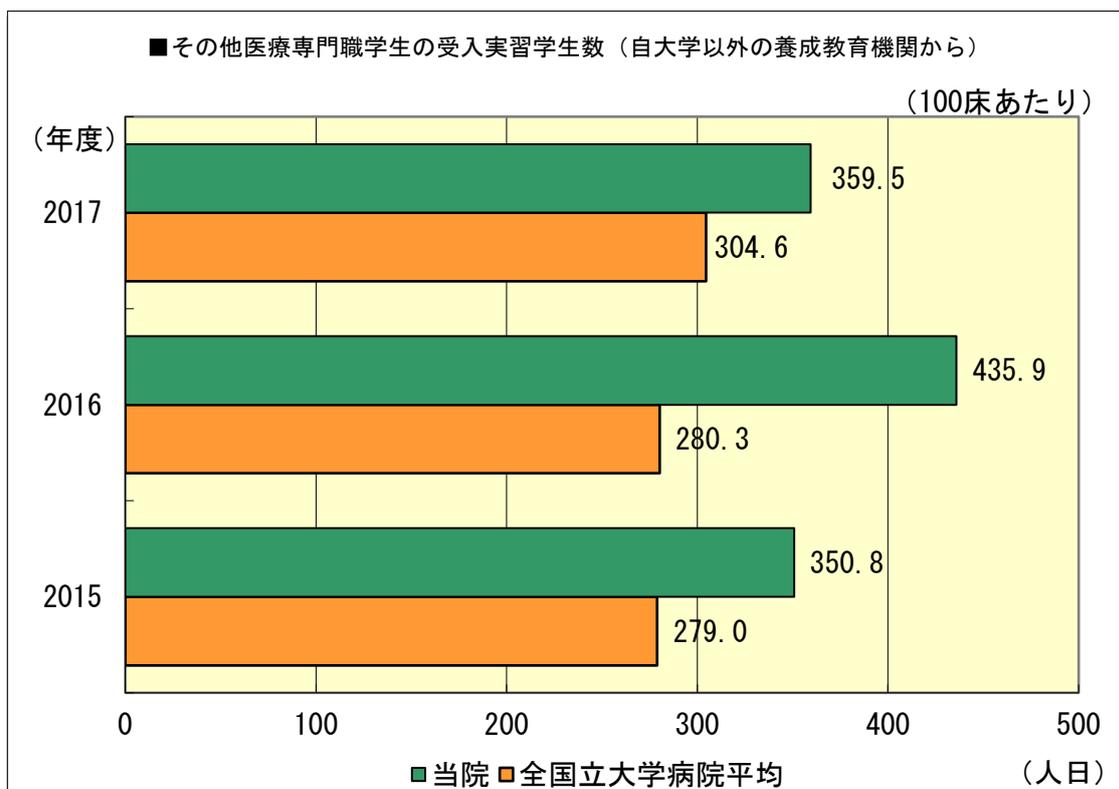
定 義

1年間の自大学の実習学生延べ人日（人数×日数）

一日体験実習は除く。

その他医療専門職とは看護職員、薬剤師以外で国家資格の医療専門職を指す。

44 その他医療専門職学生の受入実習学生数（自大学以外の養成教育機関から）



当院の実績

（総数）

2015年度	2016年度	2017年度
2,385人日	2,964人日	2,444人日

解 説

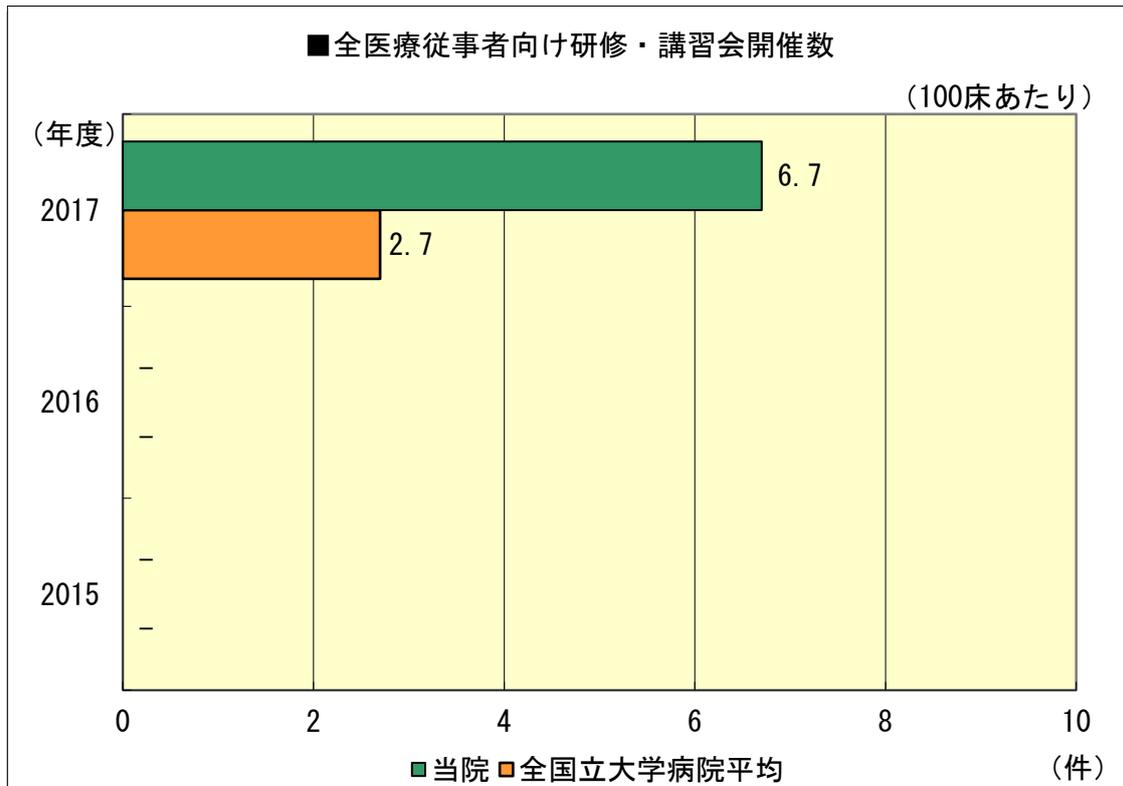
自大学以外の教育機関に在籍し、看護職員または薬剤師以外の国家資格を目指す学生への実習教育体制を表現する指標である。単に受け入れ人数ではなく、延べ人数（人数×日数）とし臨地実習に対する貢献の程度を評価する。

国立大学病院機能指標 46

定 義

1年間の自大学以外の養成教育機関からの実習学生延べ人日（人数×日数）
一日体験実習は除く。
その他医療専門職とは看護職員、薬剤師以外で国家資格の医療専門職を指す。

45 全医療従事者向け研修・講習会開催数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	-	46件

解 説

2017年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 47

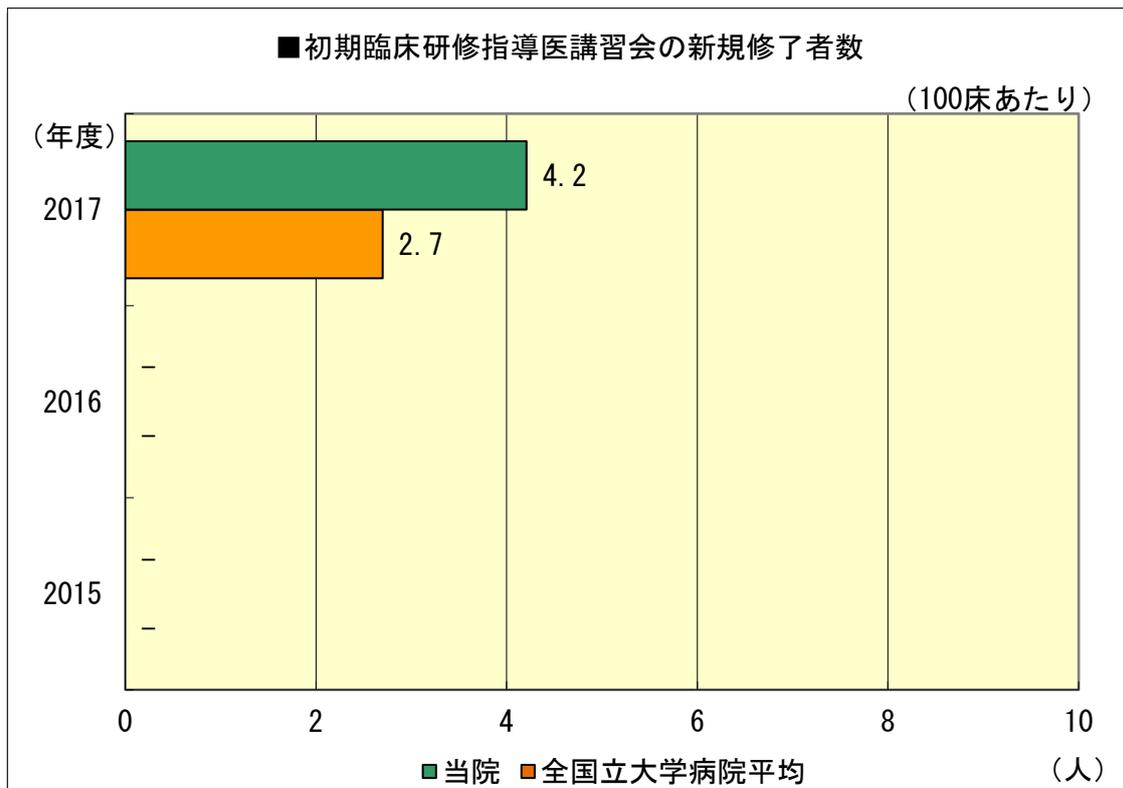
定 義

1年間に実施された全医療従事者向け研修・講習会（医療安全（薬剤、感染、その他）講習会や医療倫理講習会などを含む）の開催数

● ラーニングとDVD講習も対象。

同じ内容のプログラムが開催時間を変えて開催される場合には開催数を「1」とカウントする。

46 初期臨床研修指導医講習会の新規修了者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	-	29人

解 説

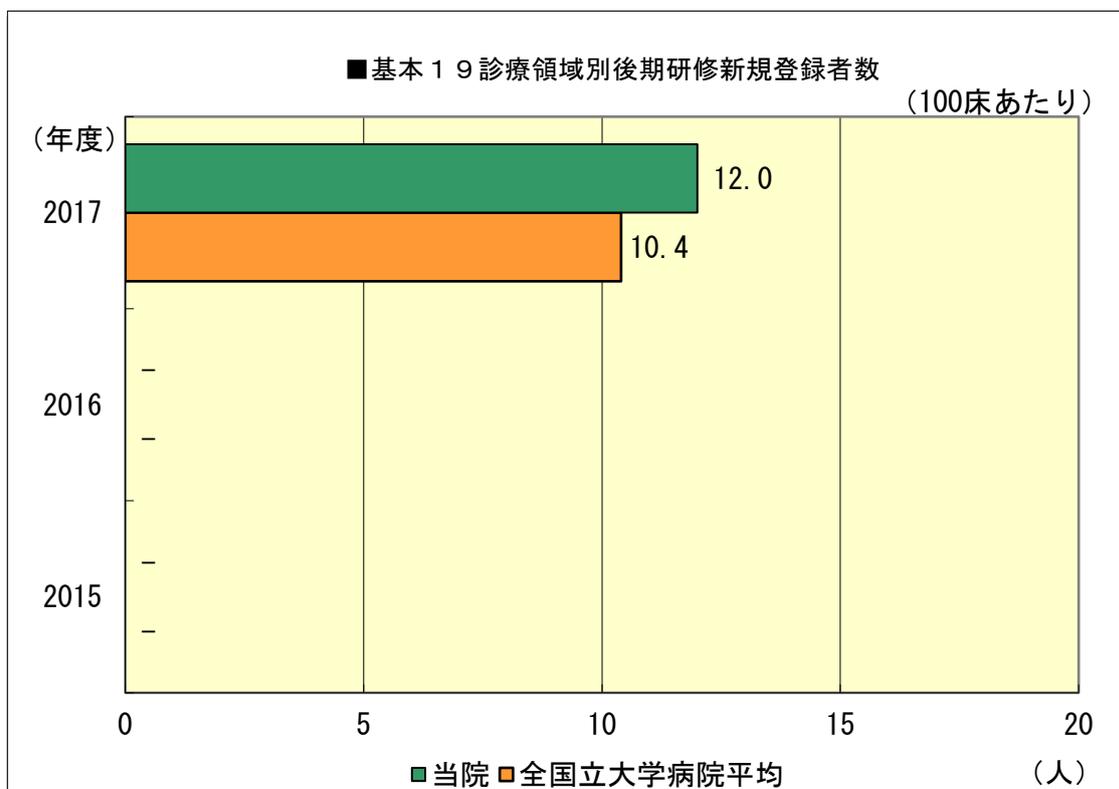
2017年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 48

定 義

1年間に自院に在籍中に新たに指導医講習会を修了した人数

47 基本19診療領域別後期研修新規登録者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	-	82人

解説

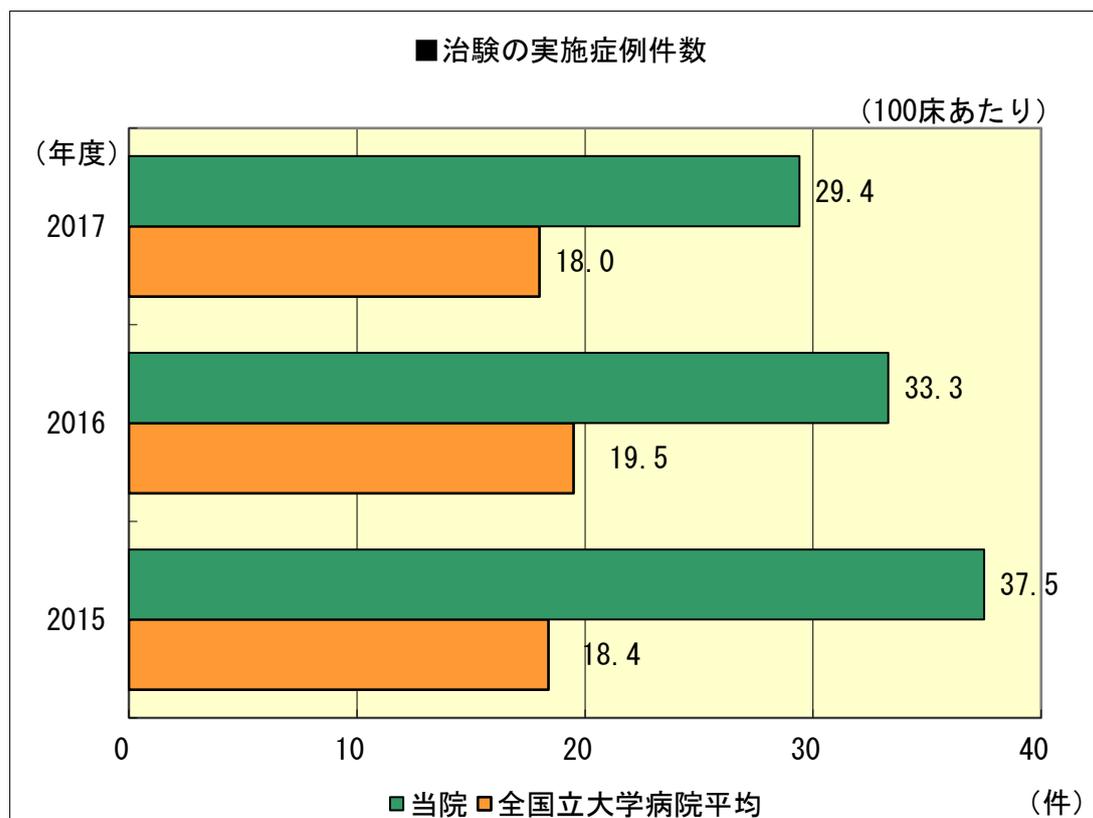
2017年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 49

定義

各年6月1日時点の基本19診療領域における後期研修医新規登録者数の実人数

48 治験の実施症例件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
255件	227件	200件

解 説

新規開発の医薬品あるいは医療機器の治験を行うことは、国立大学附属病院にとって重要な社会的責任の一つである。それらをどの程度実施しているのかを表現する指標で、実施体制が整っていることや、先端医療に対する取り組みが盛んであることも反映している。契約しても実施に至らなかった場合あるいは完了していない場合もあるため、契約数ではなく実施完了により取り組みを評価する。

国立大学病院機能指標 50

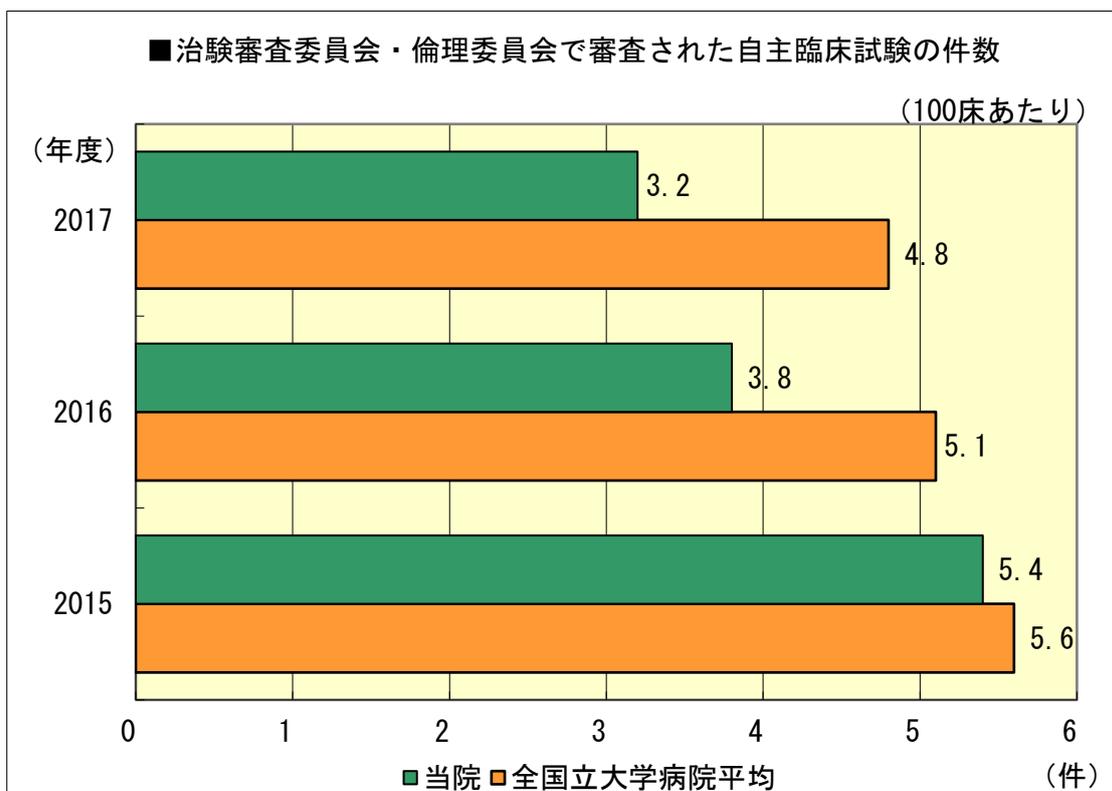
定 義

実施症例件数

登録件数ではなく、実施完了件数(※)。

※治験終了の有無を問わず、契約した治験で実施の済んだ症例数

49 治験審査委員会・倫理委員会で審査された自主臨床試験の件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
37件	26件	22件

解 説

新しい診断法や治療法の臨床研究を行うことが国立大学附属病院の社会的責任の一つである。自主臨床試験件数とは、それら先端医療や臨床研究にどの程度取り組んでいるかを示す指標である。研究実施前に倫理委員会または治験審査委員会で審査され、承認されたもののみが臨床現場で実施されるため、所定の規則に則って適正に臨床研究がなされていることを評価する指標である。

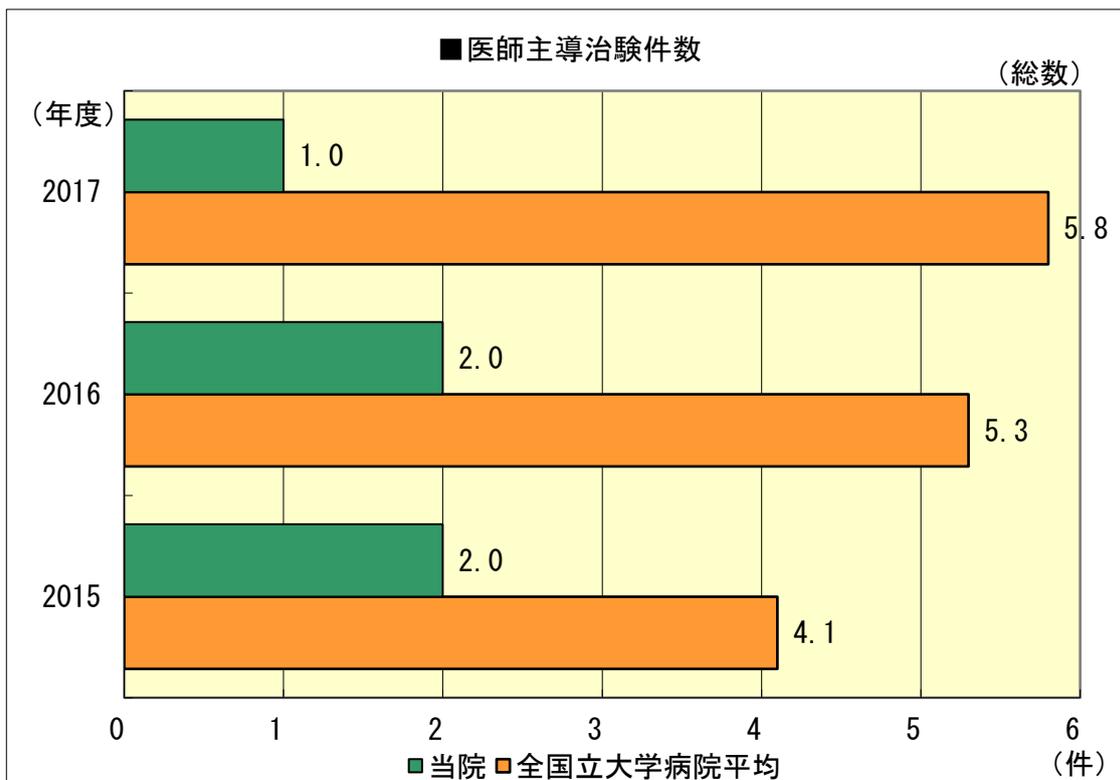
国立大学病院機能指標 51

定 義

治験審査委員会・倫理審査委員会で審査された治験以外の新規臨床研究（いわゆる自主臨床研究、または自主臨床試験、と総称している）の件数

当項目での臨床研究とは、医療法施行規則第六条の五の三第二号に該当する特定臨床研究のうち、医薬品・医療機器・再生医療等製品を用いた臨床研究（医薬品・医療機器等を用いた侵襲及び介入を伴う研究）を指す。

50 医師主導治験件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
2件	2件	1件

解 説

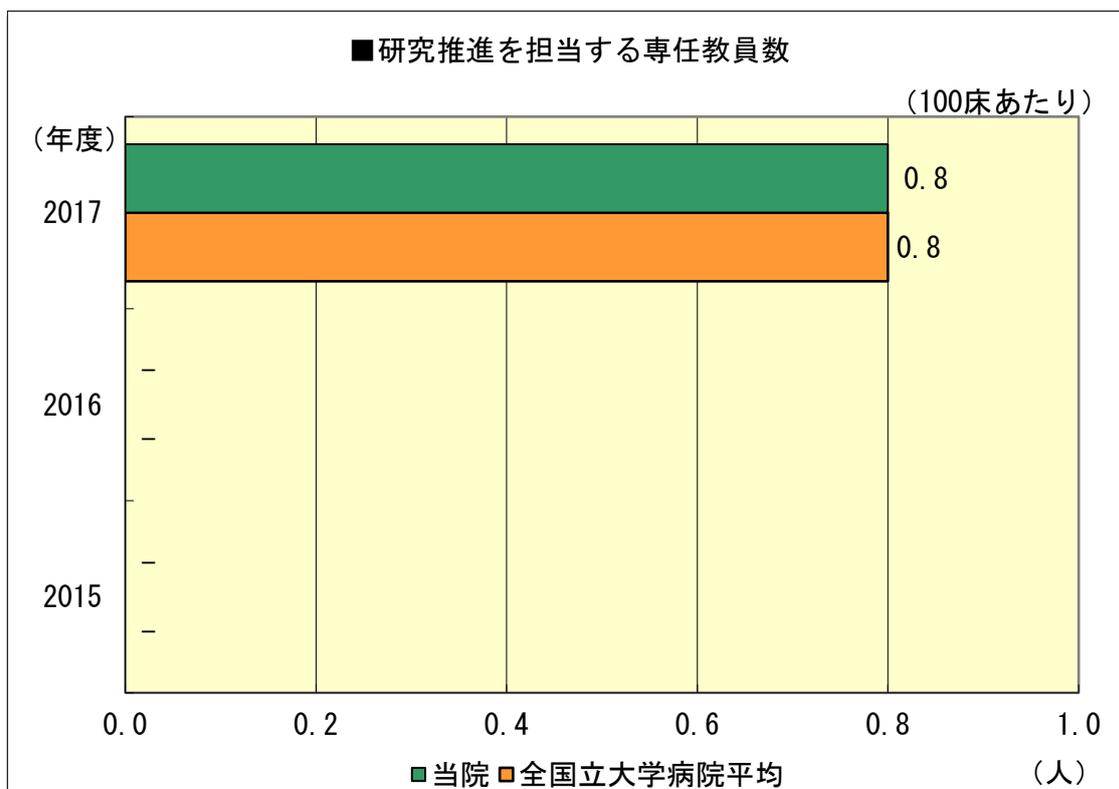
医薬品・医療機器業界の要請ではなく、医師が自ら各種手続きや研究を行う治験を医師主導治験と呼ぶ。医薬品・医療機器業界が援助する治験よりも実施することが難しいため、医師たちの先端医療・臨床研究に対する大きな労力と熱意が必要である。治験を医師主導で行おうとする、医師たちの積極的な姿勢を表現する指標である。

国立大学病院機能指標 52

定 義

実施中の医師主導治験の数（患者数ではない）
当該年度に一例も実施されなかったものは除く。

51 研究推進を担当する専任教員数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	-	6人

解 説

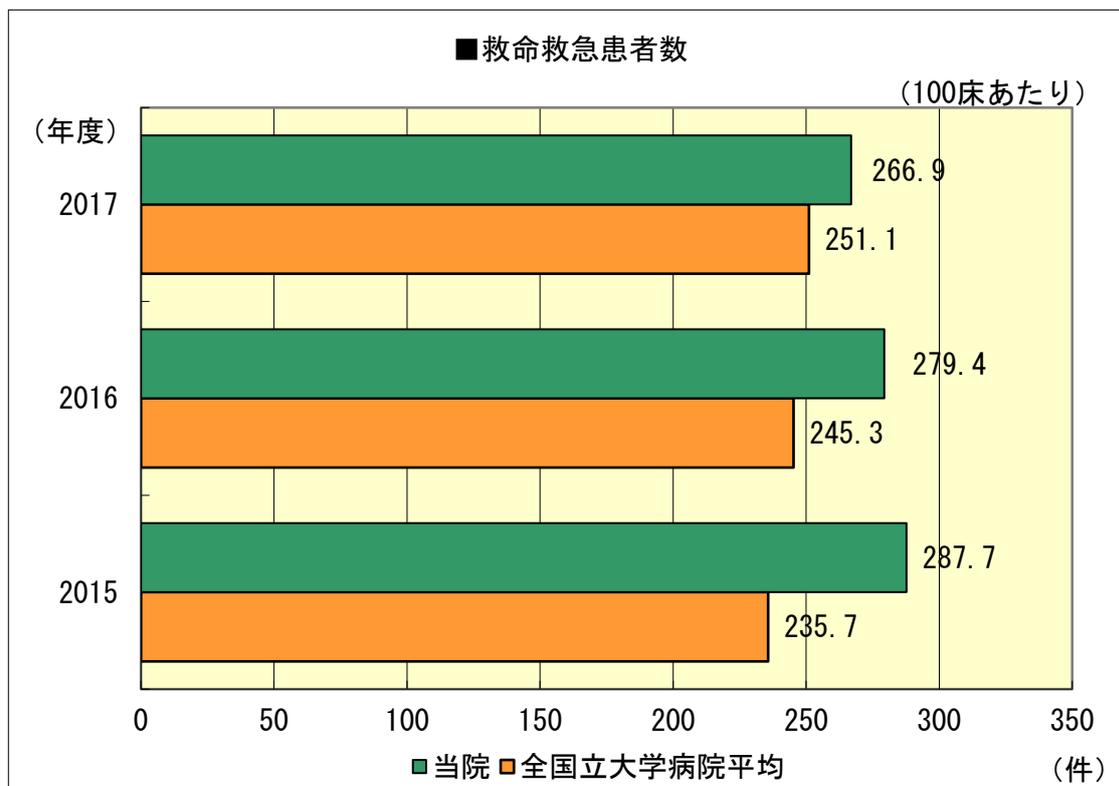
2017年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 54

定 義

各国立大学附属病院の研究推進部門に所属し、医学系研究推進臨床研究の支援を担当する専任教員の数

52 救命救急患者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
1,957件	1,900件	1,815件

解 説

国立大学附属病院には高度な三次救急医療を担う社会的責任がある。三次救急医療とは、生命に危険をもたらす重篤な状態にあって高度な医療を必要としている患者のための医療である。診療を行うには、高度な技術と経験、設備が必要で、その体制と実績を表現する指標である。

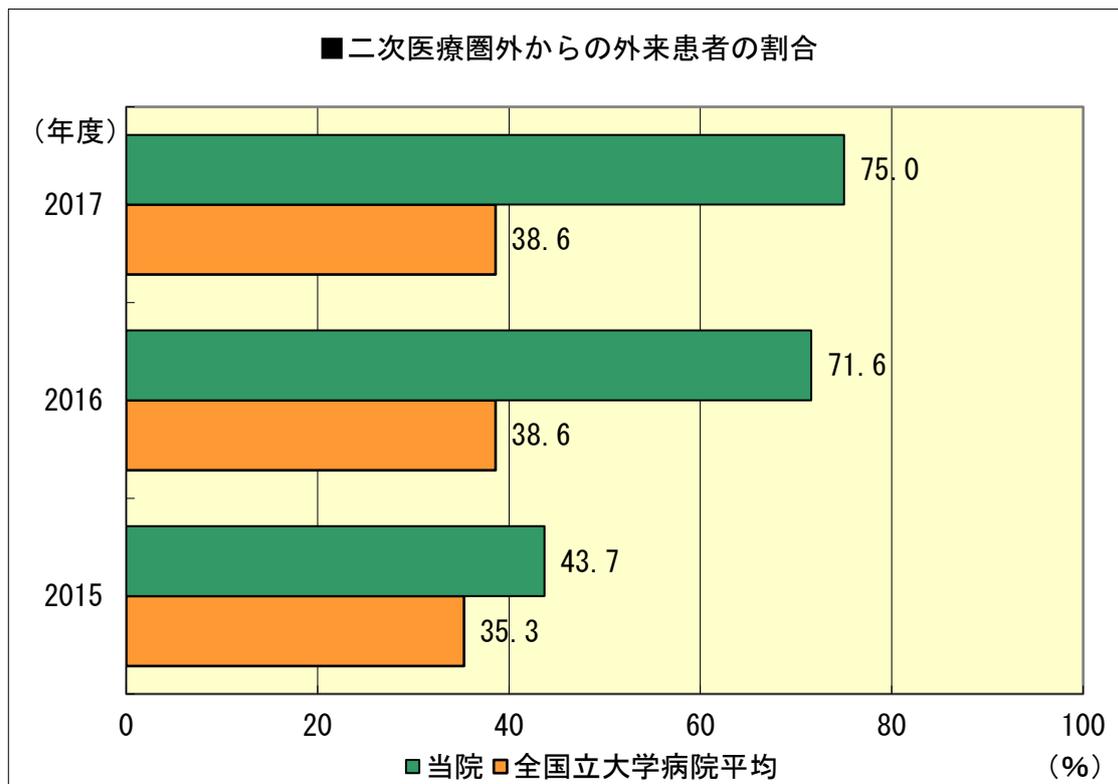
国立大学病院機能指標 55

定 義

救命救急患者の受入数

ここで「救命救急患者」とは医科診療報酬点数表における、「A205 救急医療管理加算」または「A300 救命救急入院料」、「A301 特定集中治療室管理料」、「A301-2 ハイケアユニット入院医療管理料」、「A301-3 脳卒中ケアユニット入院医療管理料」、「A301-4 小児特定集中治療室管理料」、「A302 新生児特定集中治療室管理料」、「A303 総合周産期特定集中治療室管理料」を入院初日に算定した患者を指し、必ずしも救命救急センターを持たない施設でも使用できる指標とする。救急外来で死亡した患者も含む。

53 二次医療圏外からの外来患者の割合



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
43.7%	71.6%	75.0%

解 説

より遠方から来る外来患者をどの程度診療しているかを表す指標である。患者の在住する二次医療圏で対応できない希少疾患に対する特殊治療の貢献度も示す。国立大学附属病院の属する二次医療圏の面積や、地域の交通事情、病院の所在地により、二次医療圏外からの患者受け入れ割合は影響を受ける。

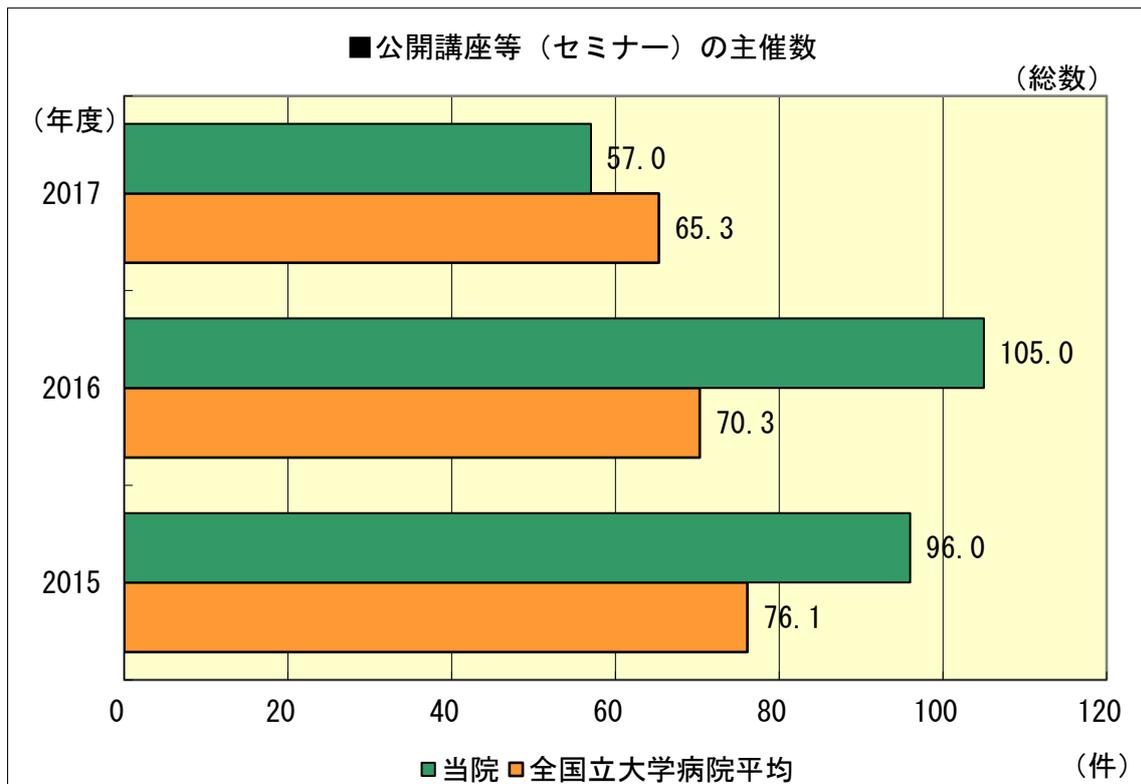
国立大学病院機能指標 56

定 義

1年間の自施設の当該二次医療圏外に居住する外来患者の延べ数を外来患者延べ数で除した割合 (%)

二次医療圏とは、医療法第三〇条の四第二項により規定された区域を指す。「外来患者」数は延べ数とするが、その定義は、初再診料を算定した患者とし、併科受診の場合で初再診料が算定できない場合も含む。入院中の他科外来受診は除く。検査・画像診断目的の受診は、同日に再診料を算定しない場合に限り1人とする。住所の不明な患者は、二次医療圏内とする。

54 公開講座等（セミナー）の主催数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
96件	105件	57件

解 説

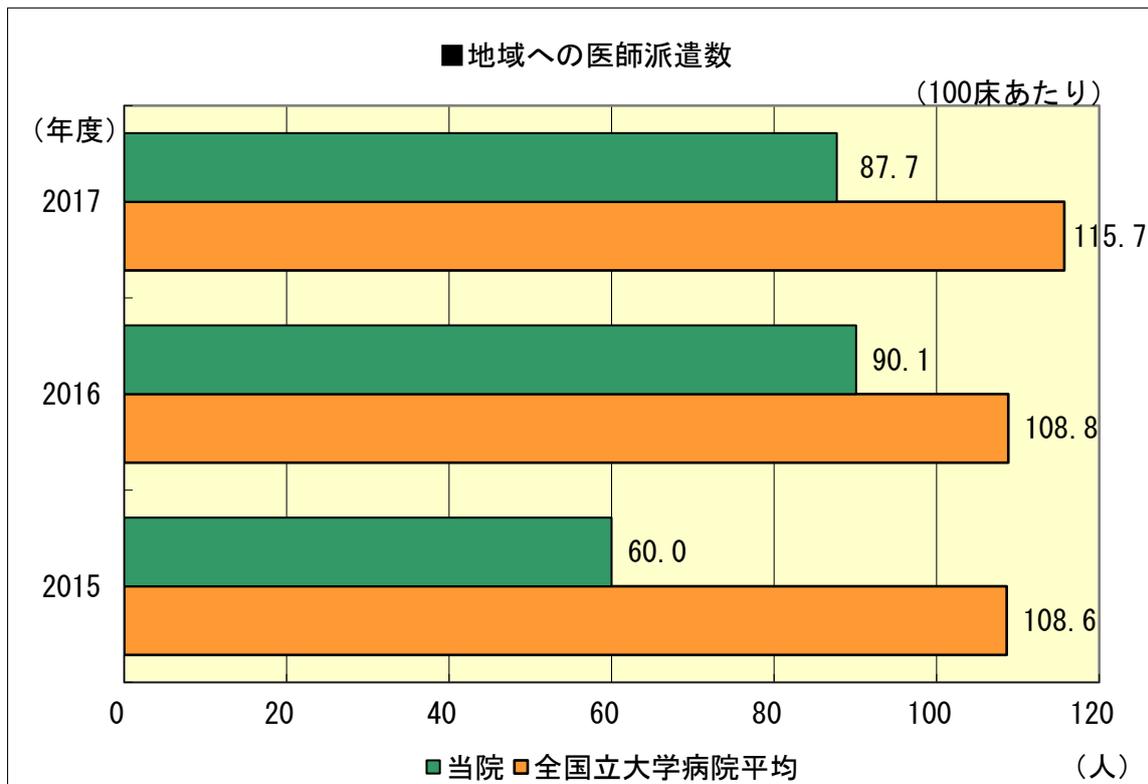
国立大学附属病院には、地域住民や医療機関で仕事をしている医療関係者に最新の医療知識を広める社会的責任がある。その責任をどの程度果たしているかを示した指標である。国立大学附属病院自らが企画している点を評価するため、他の団体が主催する講師・演者として参加した場合を除く。

国立大学病院機能指標 57

定 義

1年間に自院が主催した市民向けおよび医療従事者向けの講演会、セミナー等の開催数。学習目的及び啓発目的に限り、七夕の夕べ、写真展等の交流目的のものは含まない。また、主として院内の医療従事者向け、入院患者向けのものも含まない。他の主催者によるセミナー等への講師参加は含まない。医療従事者向けのブラッシュアップ講座等、病院主催として、病院で把握できるものは含む。

55 地域への医師派遣数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
408人	613人	597人

解 説

国立大学附属病院が医師派遣を通してどの程度地域医療へ貢献しているのかを表現する指標である。ここでいう医師派遣とは、法的な根拠に基づくものではなく慣例的な呼称である。地域医療で必要とされる専門性の高い医師を供給し、何らかの理由により欠員が生じた場合でも責任を持って後任者を派遣し続ける一つの形態をいう。地域医療を支えるための大学病院の重要な役割の一つと言える。地域住民にとって「顔が見える医師」であることも必要と考え、常勤の勤務形態を取っている場合のみを対象とする。週1回程度の非常勤や短期派遣は含めない。

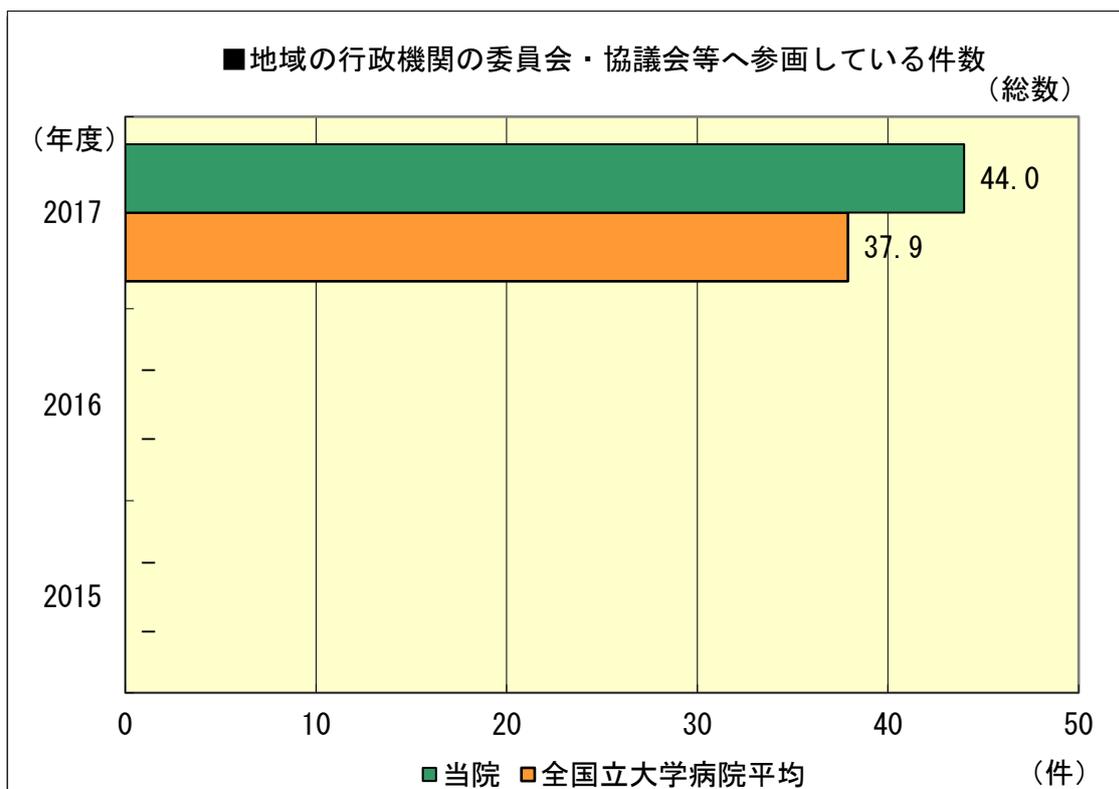
国立大学病院機能指標 58

定 義

地域の医療を安定的に維持することを目的に、常勤医として、自院の外へ派遣している医師数

自院の分院への派遣は含まない。同門会などからの派遣についても含めて計上する。

56 地域の行政機関の委員会・協議会等へ参画している件数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	-	44件

解 説

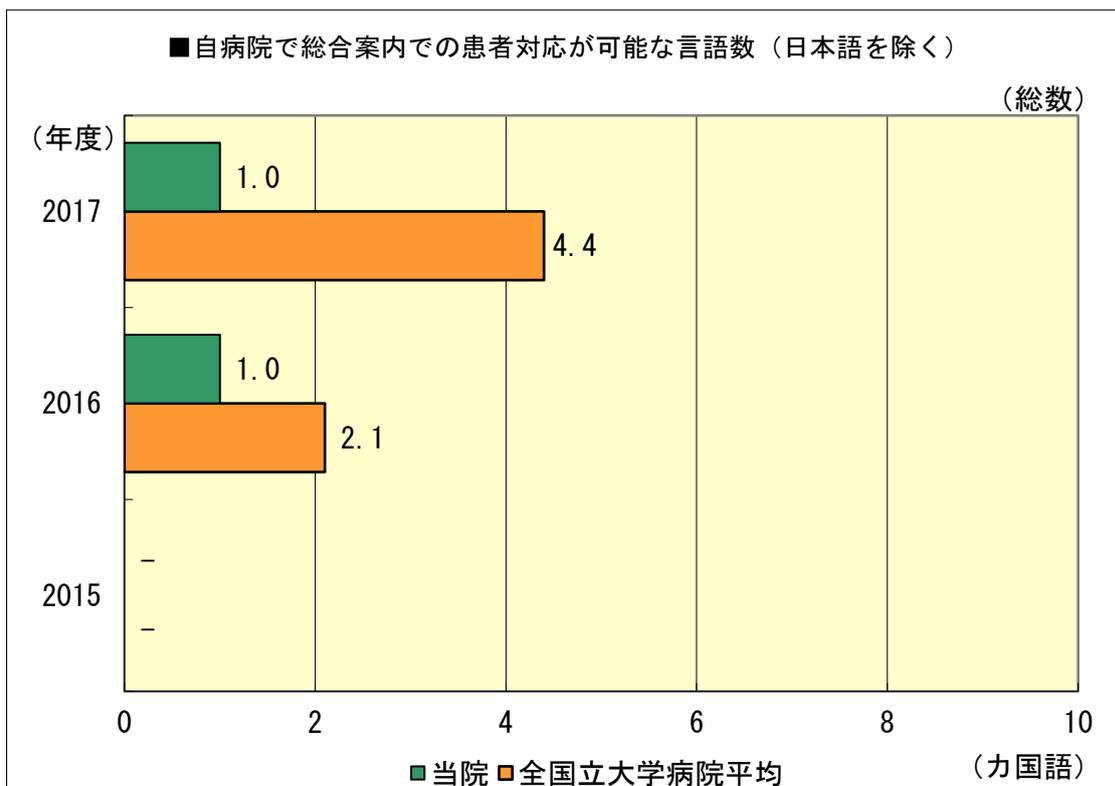
2017年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 59

定 義

大学病院から各地域の行政機関の委員会・協議会等へ参画している件数

57 自病院で総合案内での患者対応が可能な言語数（日本語を除く）



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	1カ国語	1カ国語

解 説

外国人患者受入に関する体制を示す指標である。
 なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

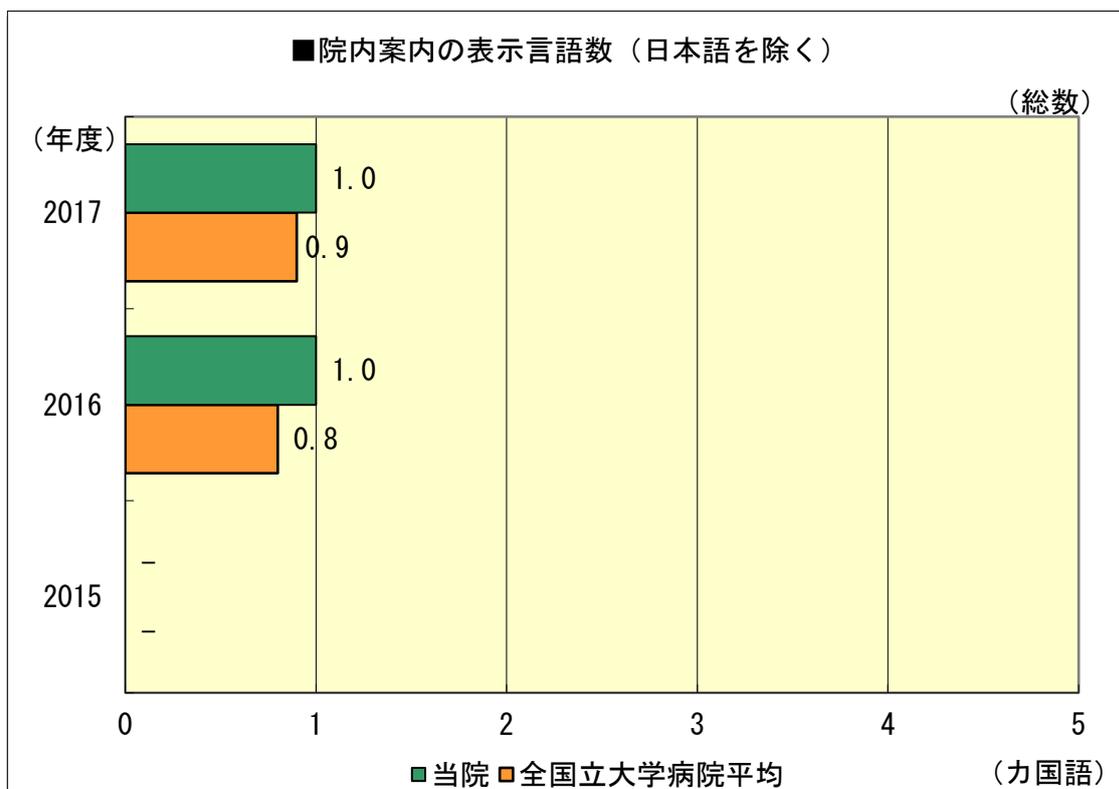
国立大学病院機能指標 60

定 義

自病院で総合案内での患者への対応が可能な言語数（通訳業務委託、ボランティアによる通訳サービスなどを含む）

※中国のように北京語、広東語など複数の言語を使用する場合でも、言語数は1（中国語）でカウント。

58 院内案内の表示言語数（日本語を除く）



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	1力国語	1力国語

解 説

外国人患者受入の体制を整備していることを示す指標である。
 なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 61

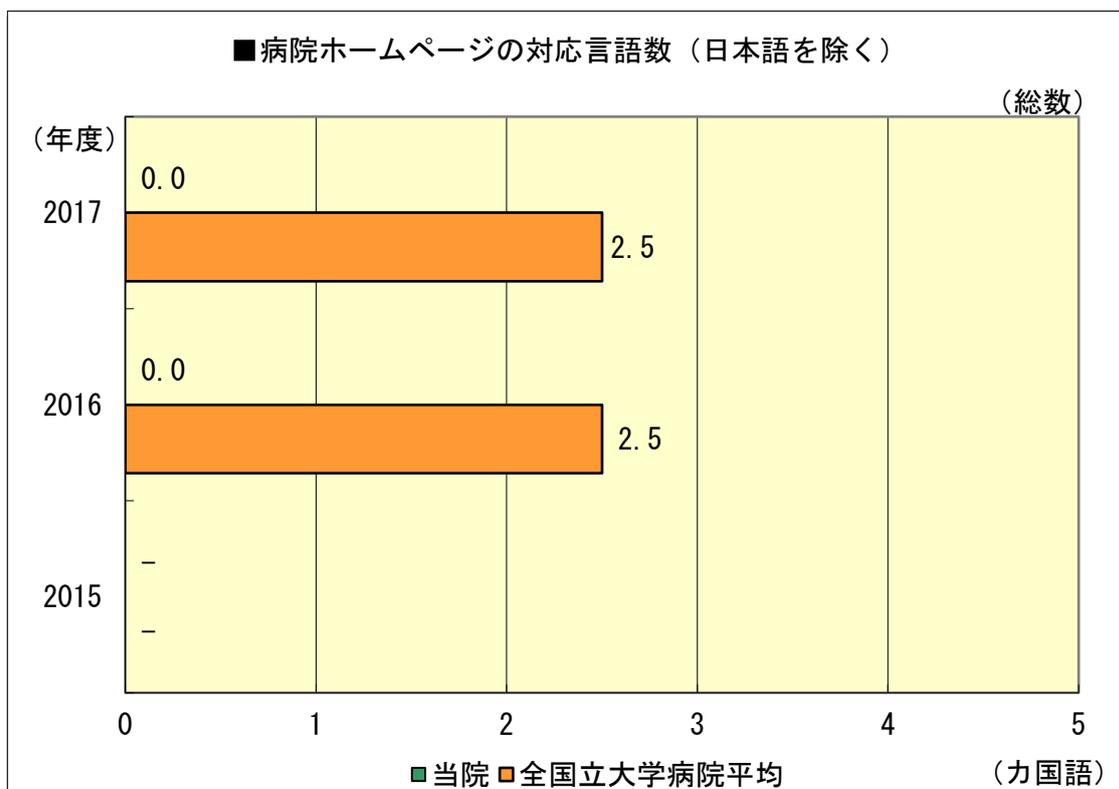
定 義

院内案内の表示言語数

院内案内とは、案内板や看板によるものである。

※中国のように北京語、広東語など複数の言語を使用する場合でも、言語数は1（中国語）でカウント。

59 病院ホームページの対応言語数（日本語を除く）



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	0力国語	0力国語

解 説

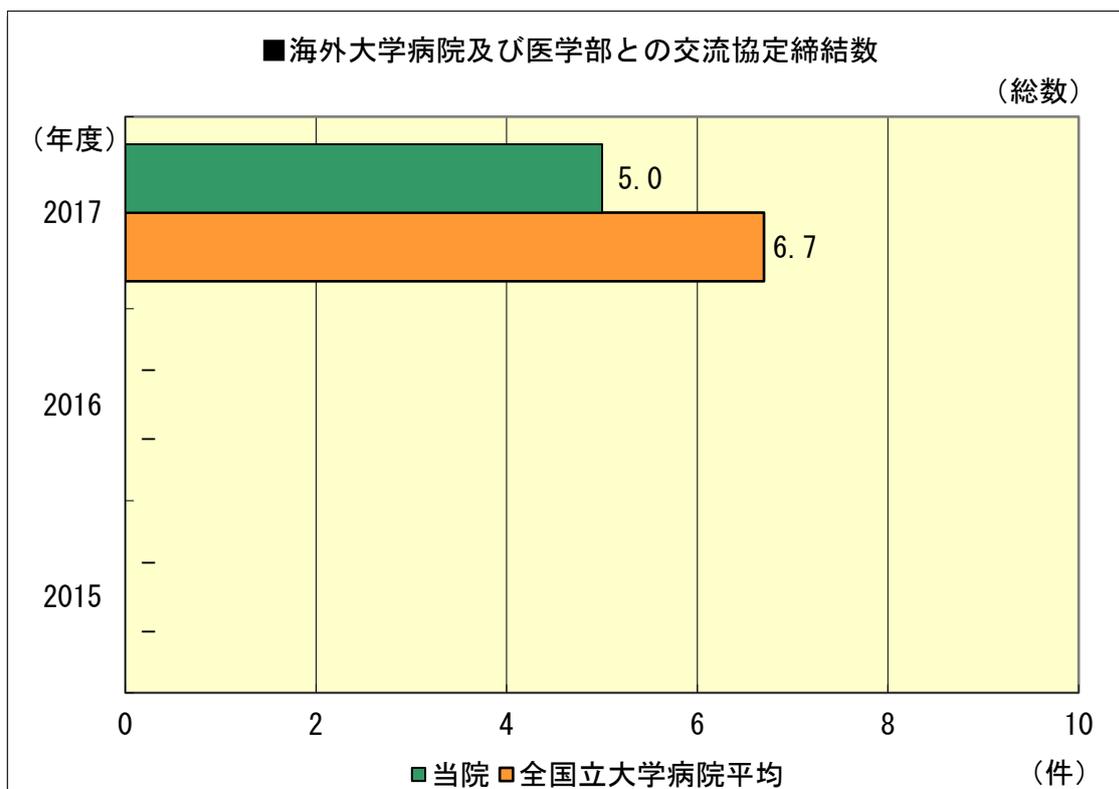
国際的に情報を発信し、外国人患者受入の体制を整備していることを示す指標である。なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 62

定 義

病院ホームページ（トップページ）の対応言語数

60 海外大学病院及び医学部との交流協定締結数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	-	5件

解 説

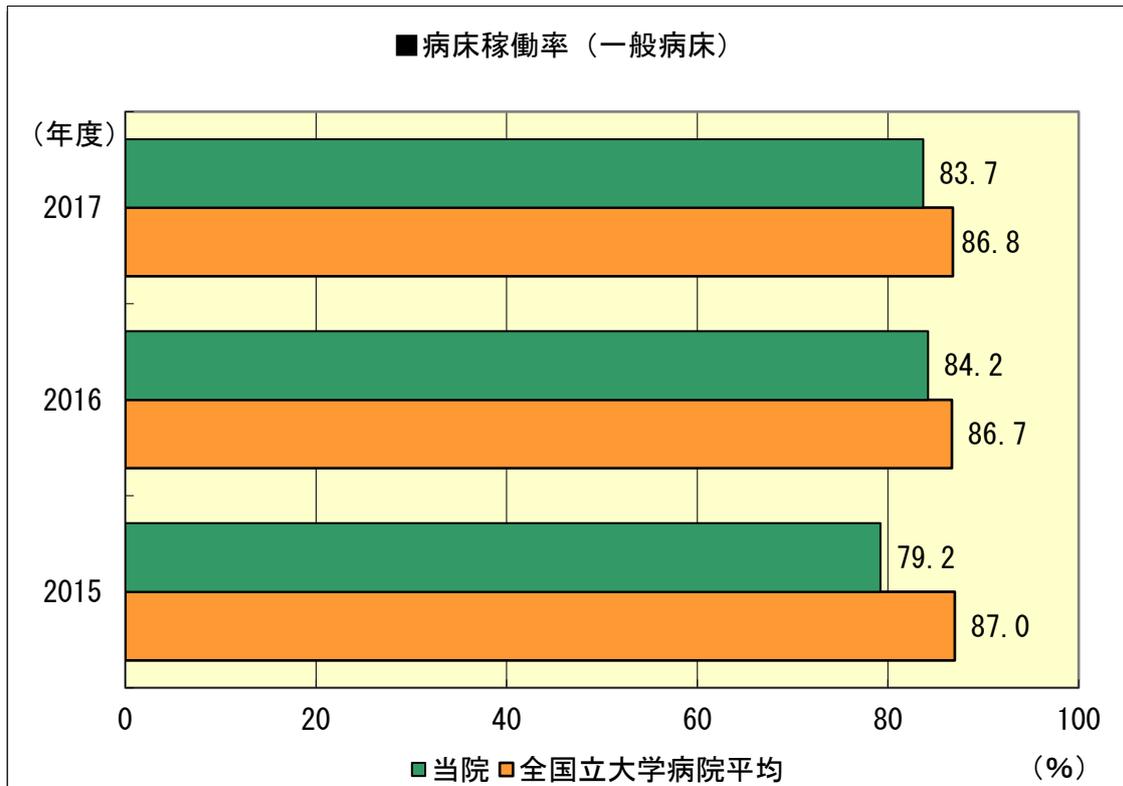
2017年度より定義が変更されたため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 63

定 義

海外大学病院及び医学部との交流協定の締結数(その他、病院が主体部局である大学間交流協定を含む。)

61 病床稼働率（一般病床）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
79.2%	84.2%	83.7%

解 説

一般病床の運用に関する効率性を表す指標である。ただし、急性期医療を担うために、救命救急センター機能における空床確保も含め、常に利用可能な病床を提供する必要もあるため注意が必要である。

国立大学病院機能指標 64-1

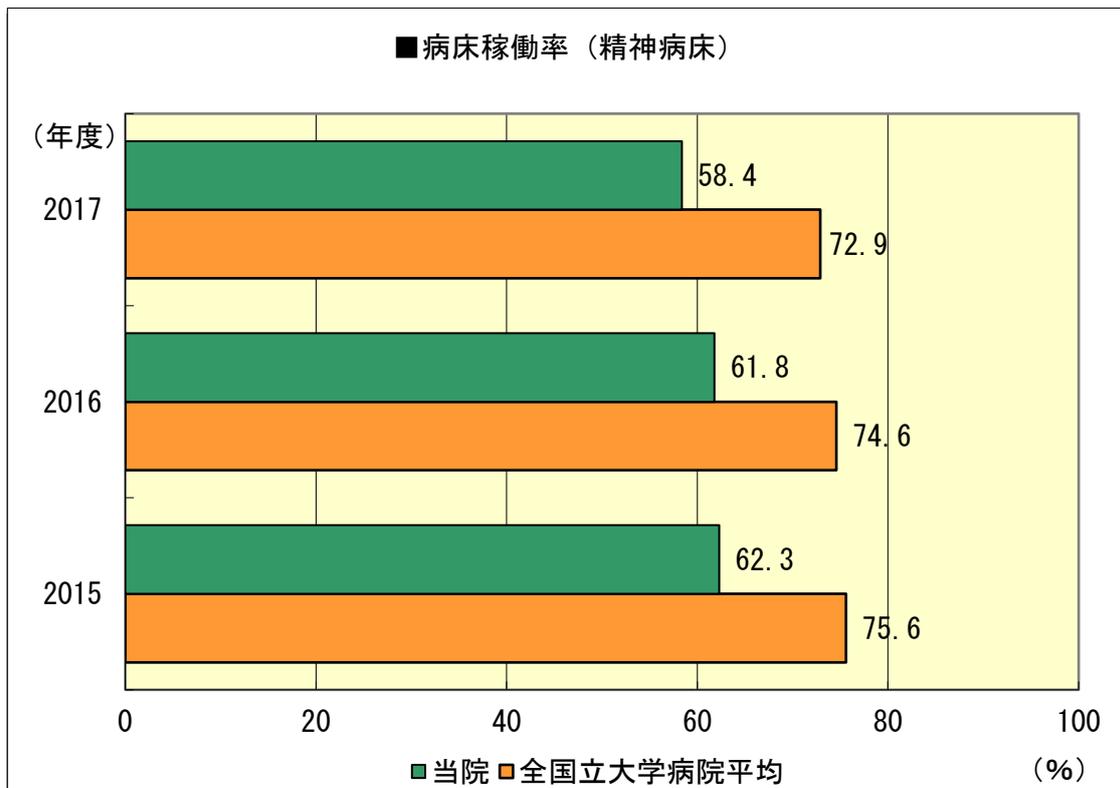
定 義

1年間の、一般病床における病床稼働率

以下の式で算出

病床稼働率 = (「入院患者延数」 ÷ 「延稼働病床数」) × 100

62 病床稼働率（精神病床）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
62.3%	61.8%	58.4%

解 説

精神病床の運用に関する効率性を表す指標である。ただし、急性期医療を担うために、救命救急センター機能における空床確保も含め、常に利用可能な病床を提供する必要もあるため、値の解釈には注意が必要である。なお、医学部附属病院のみが対象となる。

国立大学病院機能指標 64-2

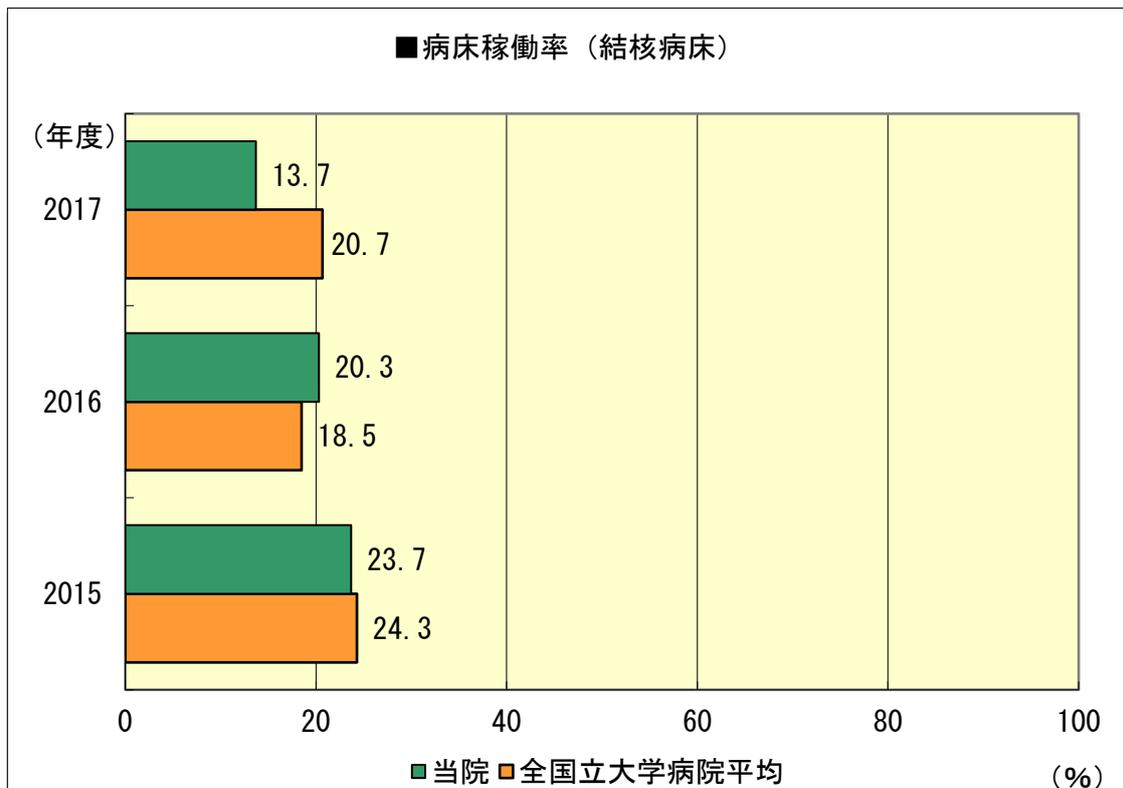
定 義

1年間の、精神病床における病床稼働率

以下の式で算出

病床稼働率 = (「入院患者延数」 ÷ 「延稼働病床数」) × 100

63 病床稼働率（結核病床）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
23.7%	20.3%	13.7%

解 説

結核病床の運用に関する効率性を表す指標である。ただし、急性期医療を担うために、救命救急センター機能における空床確保も含め、常に利用可能な病床を提供する必要もあるため、値の解釈には注意が必要である。

なお、結核病床を持つ医学部附属病院のみが対象となる。

国立大学病院機能指標 64-3

定 義

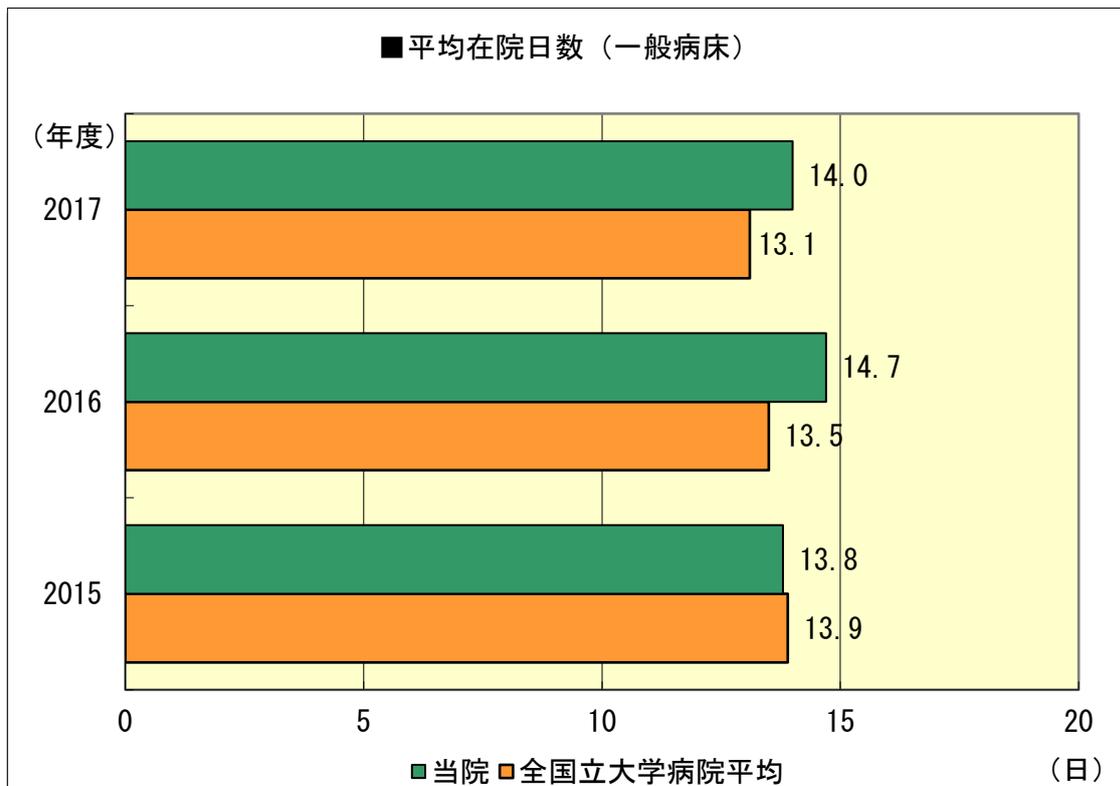
1年間の、結核病床における病床稼働率

以下の式で算出

病床稼働率 = (「入院患者延数」 ÷ 「延稼働病床数」) × 100

結核病棟を持たない大学については集計から除外

64 平均在院日数（一般病床）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
13.8日	14.7日	14.0日

解 説

患者が一般病床に平均何日間入院しているかを表す指標である。患者の重症度や疾病により違いがあるため単純に比較することはできないが、質の確保と医療の効率化が高いレベルで達成されるほど、平均在院日数は短縮するといわれている。また、病床稼働率（一般病床）と合わせて比較することにより、例えば病床稼働率が上昇し、在院日数が短縮している場合は、地域の医療機関などと連携しながら、急性期医療を効率的に行っていると考えられる。

国立大学病院機能指標 65-1

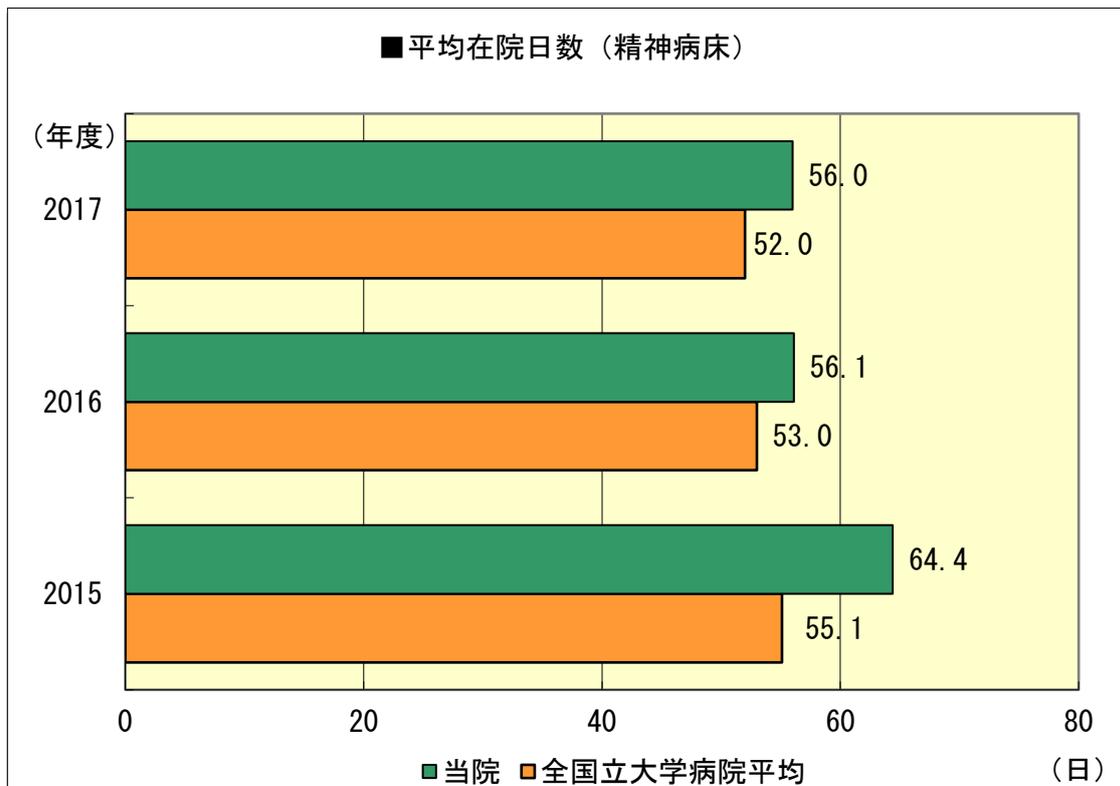
定 義

1年間の、一般病床における平均在院日数

以下の式で算出

平均在院日数＝「在院患者延数」÷（（「新入院患者数」＋「退院患者数」）÷2）

65 平均在院日数（精神病床）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
64.4日	56.1日	56.0日

解 説

患者が精神病床に平均何日間入院しているかを表す指標である。患者の重症度や疾病により違いがあるため単純に比較することはできないが、質の確保と医療の効率化・機能分化をしているかの目安となる。また、在院日数が短縮している場合は、地域の医療機関などと連携しながら、効率的に治療を行っていると考えられる。なお、医学部附属病院のみが対象となる。

国立大学病院機能指標 65-2

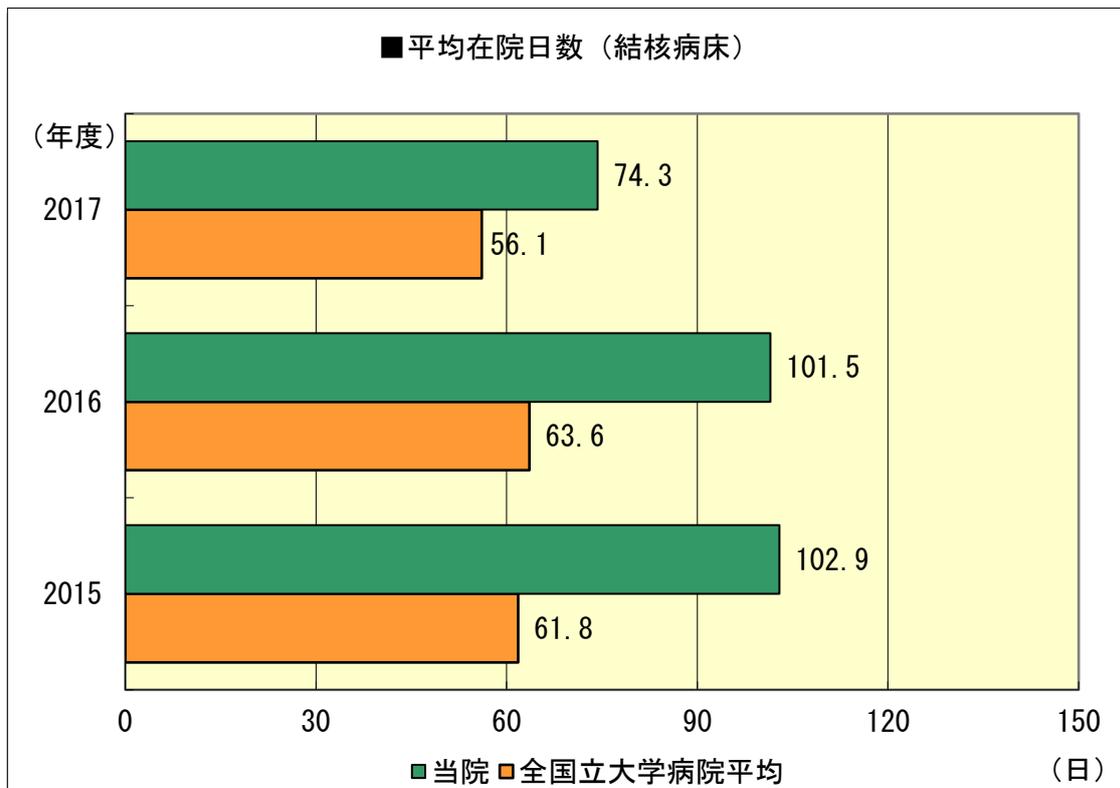
定 義

1年間の、精神病床における平均在院日数

以下の式で算出

平均在院日数＝「在院患者延数」÷（（「新入院患者数」＋「退院患者数」）÷2）

66 平均在院日数（結核病床）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
102.9日	101.5日	74.3日

解 説

患者が結核病床に平均何日間入院しているかを表す指標である。患者の重症度や疾病により違いがあるため単純に比較することはできないが、質の確保と医療の効率化・機能分化をしているかの目安となる。

なお、結核病床を持つ医学部附属病院のみが対象となる。

国立大学病院機能指標 65-3

定 義

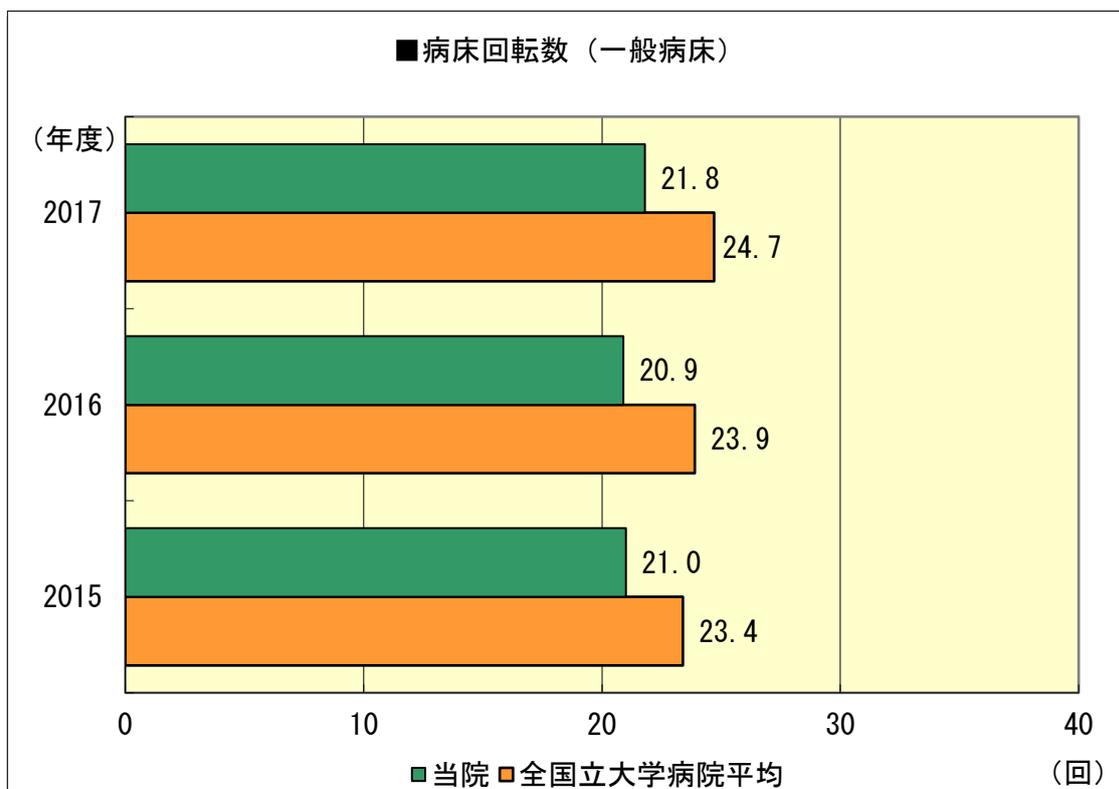
1年間の、結核病床における平均在院日数

以下の式で算出

平均在院日数 = 「在院患者延数」 ÷ ((「新入院患者数」 + 「退院患者数」) ÷ 2)

結核病棟を持たない大学については集計から除外

67 病床回転数（一般病床）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
21.0回	20.9回	21.8回

解 説

一般病床において、病床当たり、年間何人の患者が利用したかを表す指標である。

国立大学病院機能指標 66-1

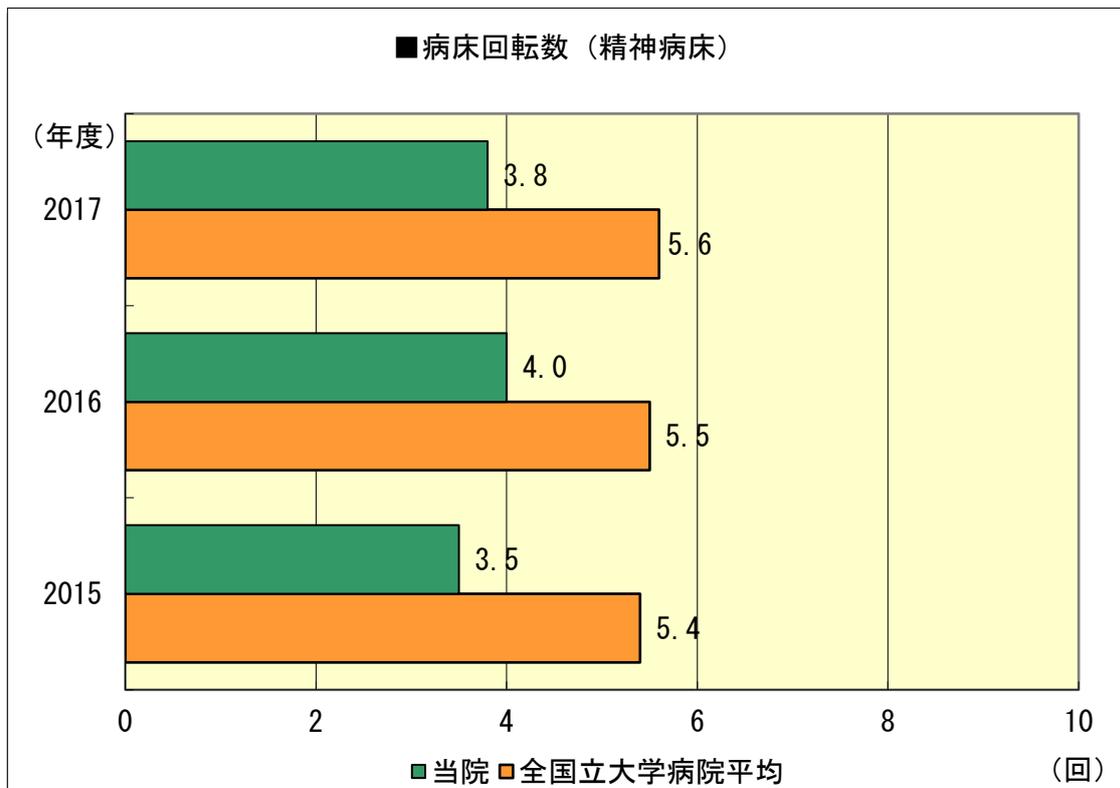
定 義

1年間の、一般病床における病床回転数

以下の式で算出

病床回転数 = (365 ÷ 平均在院日数) × (病床稼働率 (%) ÷ 100)

68 病床回転数（精神病床）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
3.5回	4.0回	3.8回

解 説

精神病床において、病床当たり、年間何人の患者が利用したかを表す指標である。
なお、医学部附属病院のみが対象となる。

国立大学病院機能指標 66-2

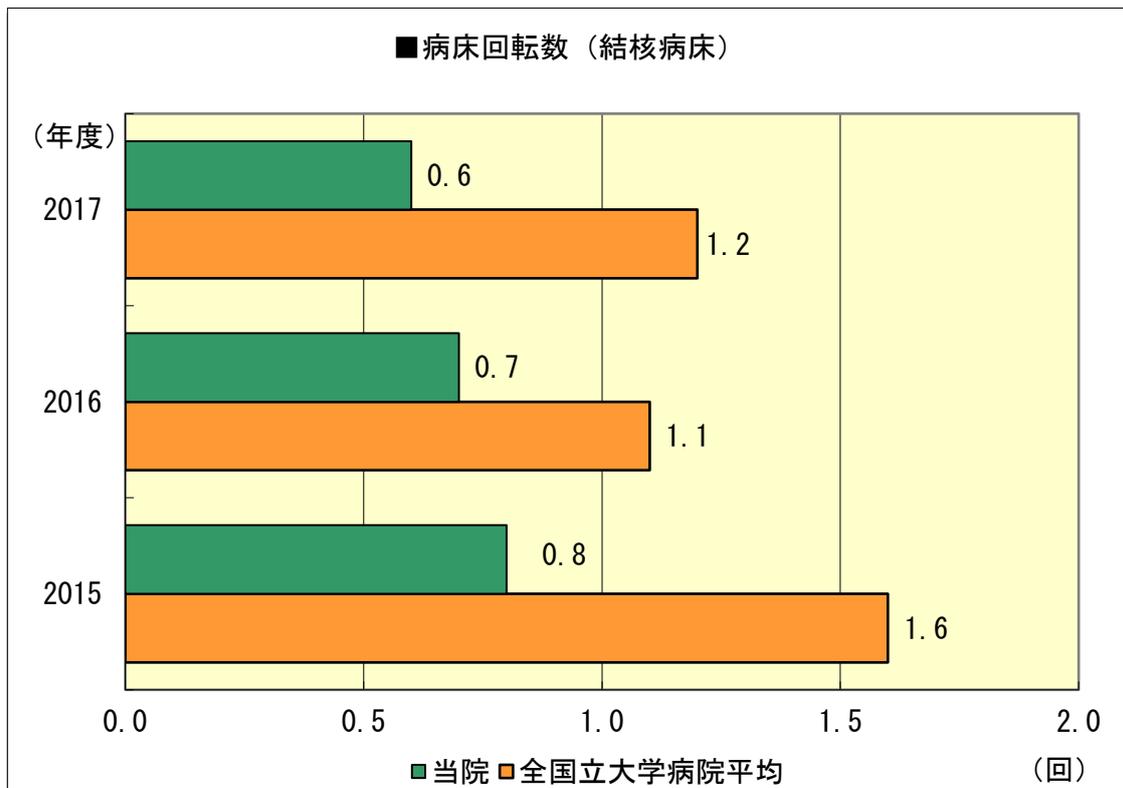
定 義

1年間の、精神病床における病床回転数

以下の式で算出

$$\text{病床回転数} = (365 \div \text{平均在院日数}) \times (\text{病床稼働率}(\%) \div 100)$$

69 病床回転数（結核病床）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
0.8回	0.7回	0.6回

解 説

結核病床において、病床当たり、年間何人の患者が利用したかを表す指標である。
 なお、結核病床を持つ医学部附属病院のみが対象となる。

国立大学病院機能指標 66-3

定 義

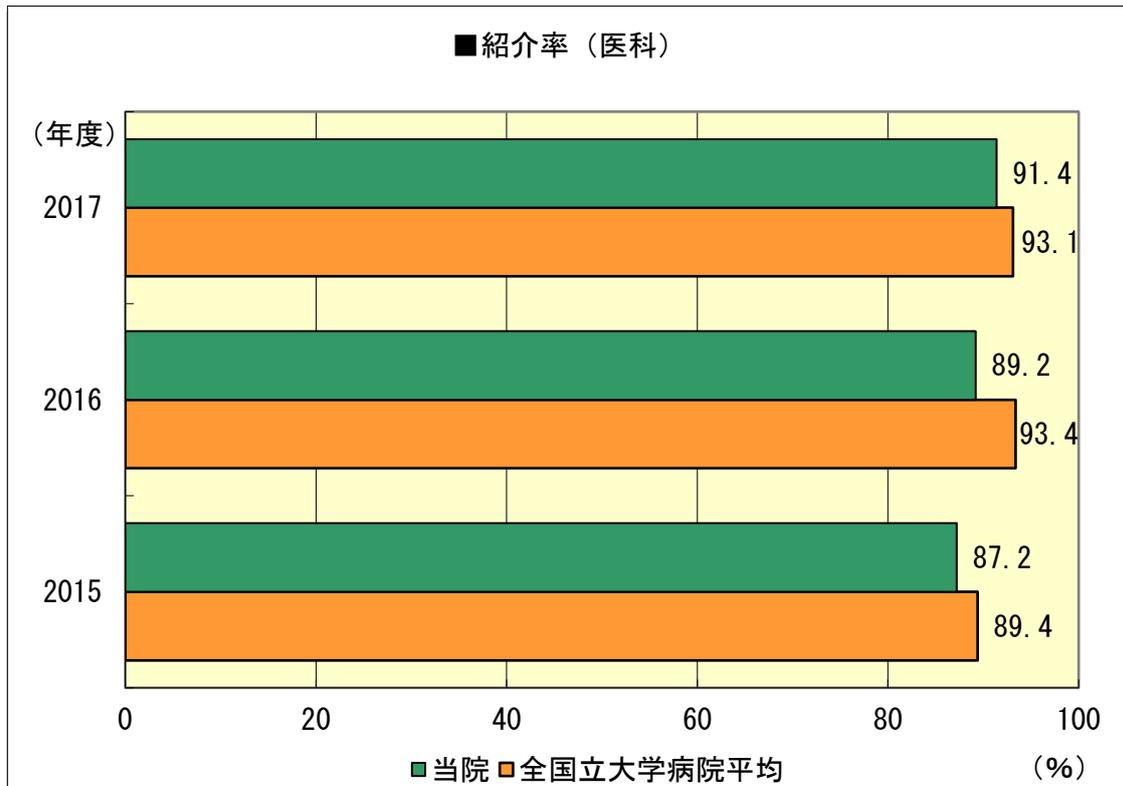
1年間の、結核病床における病床回転数

以下の式で算出

病床回転数 = (365 ÷ 平均在院日数) × (病床稼働率 (%) ÷ 100)

結核病棟を持たない大学については集計から除外

70 紹介率（医科）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
87.2%	89.2%	91.4%

解 説

外来初診患者のうち、他の医療機関から紹介状を持参した患者の割合を表す指標である。地域の医療機関との連携・機能分化の指標であり、これらの指標が高い医療機関は、各患者の病状に応じた医療の提供に貢献していると考えられる。

国立大学病院機能指標 67

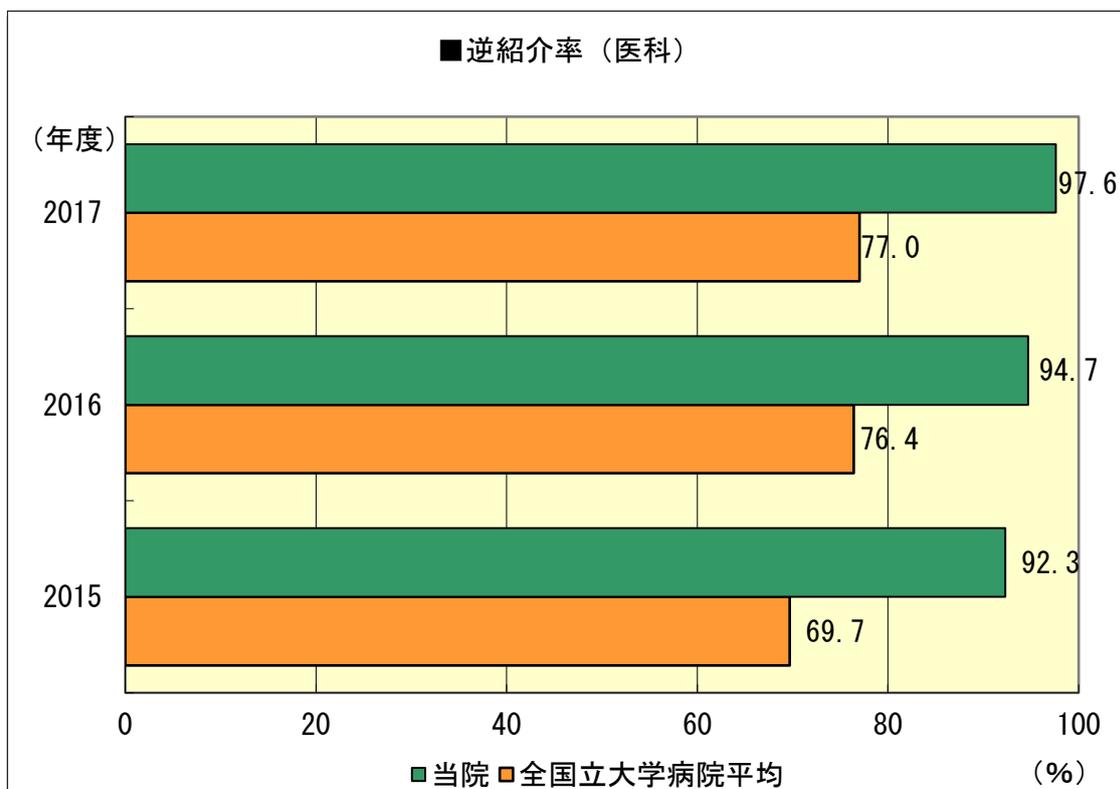
定 義

1年間の、医科診療科（歯科系および歯科口腔外科を除く診療科）の紹介率

以下の式で算出

紹介率 = (紹介患者数 + 救急車搬入患者数) ÷ 初診患者数 × 100

71 逆紹介率（医科）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
92.3%	94.7%	97.6%

解 説

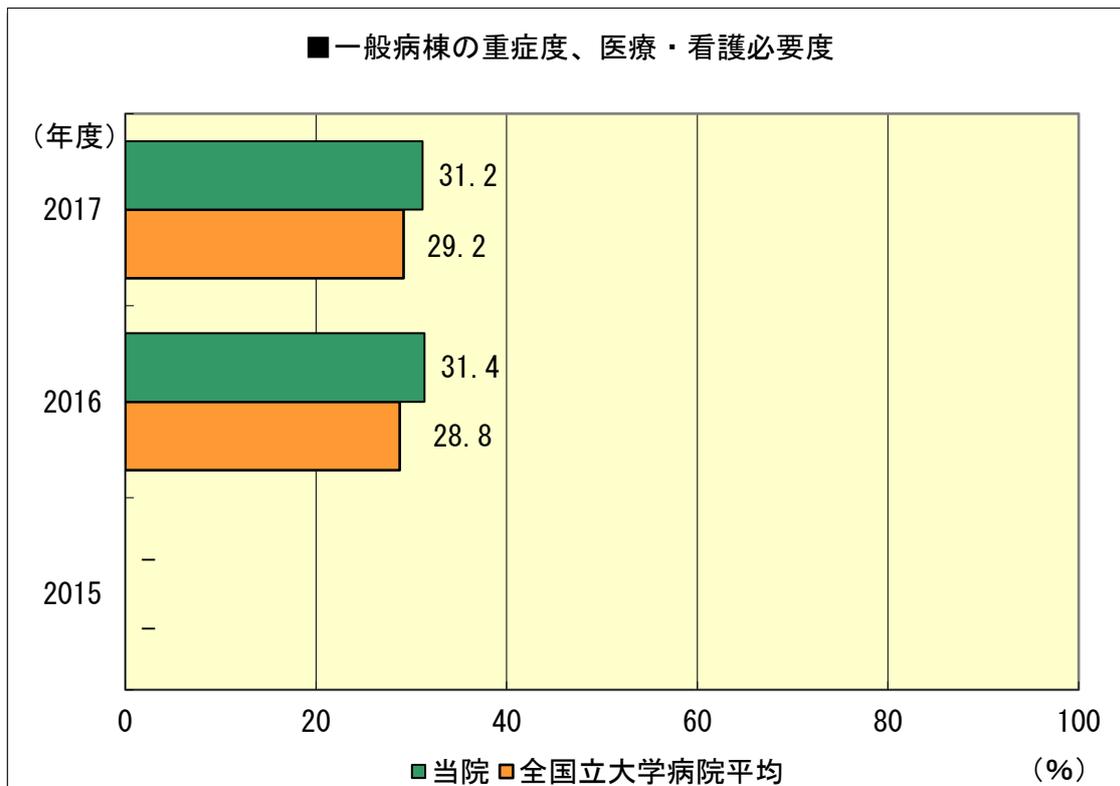
他の医療機関へ患者を紹介した割合を表す指標である。地域の医療機関との連携・機能分化の指標であり、これらの指標が高い医療機関は、各患者の病状に応じた医療の提供に貢献していると考えられる。

国立大学病院機能指標 68

定 義

1年間の、医科診療科（歯科系および歯科口腔外科を除く診療科）の逆紹介率
以下の式で算出
逆紹介率＝逆紹介患者数÷初診患者数×100

72 一般病棟の重症度、医療・看護必要度



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
-	31.4%	31.2%

解 説

一般病棟における重症度、医療・看護必要度に基づく、重症患者の基準を満たす割合を示す指標である。急性期の入院医療における患者の状態に応じた医療及び看護の提供量の必要性を反映する指標である。重症患者の割合が高いことは、急性期医療において、より医療ニーズ（手術、処置等）や手厚い看護（看護の提供量）の必要性が高い患者を多く受け入れていることを表す。つまり、この指標が高い医療機関は急性期医療に貢献していると考えられる。ただし、診療科の構成やICUの病床数等にも影響を受けやすいため、目安の一つとして捉える必要がある。

なお、診療報酬において、7:1入院基本料（看護師1名が入院患者7名を受け持つ体制）を算定するためには、各医療機関が対象となる病棟において「重症度、医療・看護必要度」を測定し、基準を満たす患者の割合を届け出る必要がある。

なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

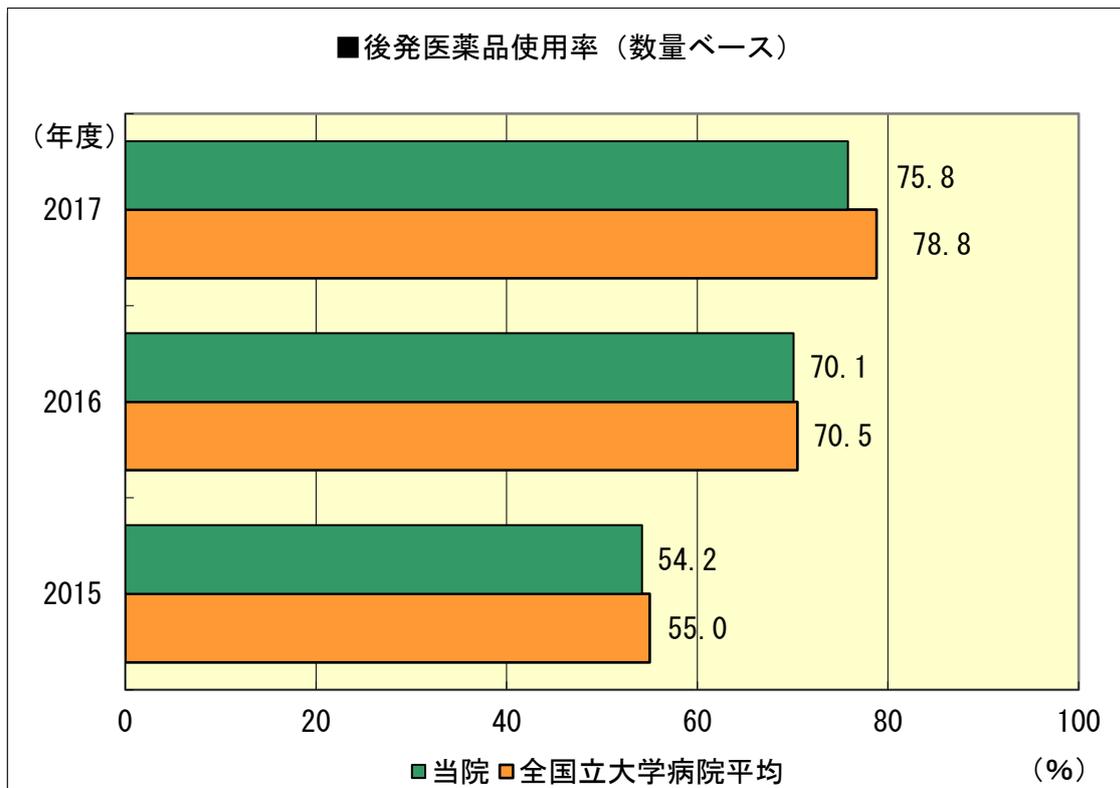
国立大学病院機能指標 69

定 義

一般病棟の重症度、医療・看護必要度
以下の式で算出

$(A \text{ 項目 } 2 \text{ 点以上かつ } B \text{ 項目 } 3 \text{ 点以上、} A \text{ 項目 } 3 \text{ 点以上または } C \text{ 項目 } 1 \text{ 点以上の該当患者延数}) \div \text{一般病棟在院患者延数}$

73 後発医薬品使用率（数量ベース）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
54.2%	70.1%	75.8%

解 説

後発医薬品切替可能薬品のうち、実際に消費した後発医薬品の数量に占める割合を表す指標である。後発医薬品の普及は、患者の自己負担の軽減や医療保険財政の改善に資するものとなる。この指標により、政府が定める数量シェア目標にどれだけ貢献しているかを示すことができる。

国立大学病院機能指標 70

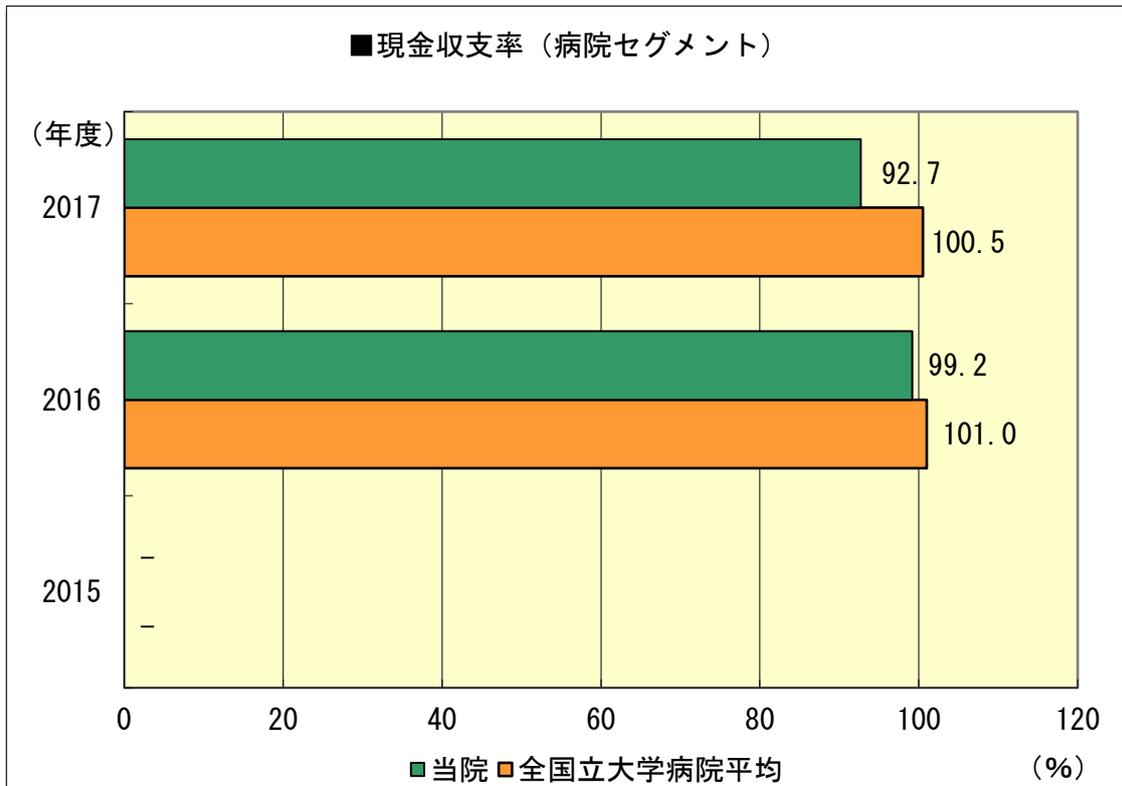
定 義

当該年の前年10月1日～当該年9月30日の1年間の入院における後発医薬品使用率以下の式で算出

後発医薬品使用率＝（後発医薬品使用数量÷後発医薬品切替可能数量（※））×100

※後発医薬品切替可能数量＝後発医薬品のある先発医薬品の使用数量＋後発医薬品の使用数量

74 現金収支率（病院セグメント）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
-	99.2%	92.7%

解 説

現金ベースでの経営状況を表す指標である。病院が収支面から見て安定的に活動を続けるためには少なくとも100%を超えていることが望ましい。
なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値を提示している。

定 義

1年間の現金収支率

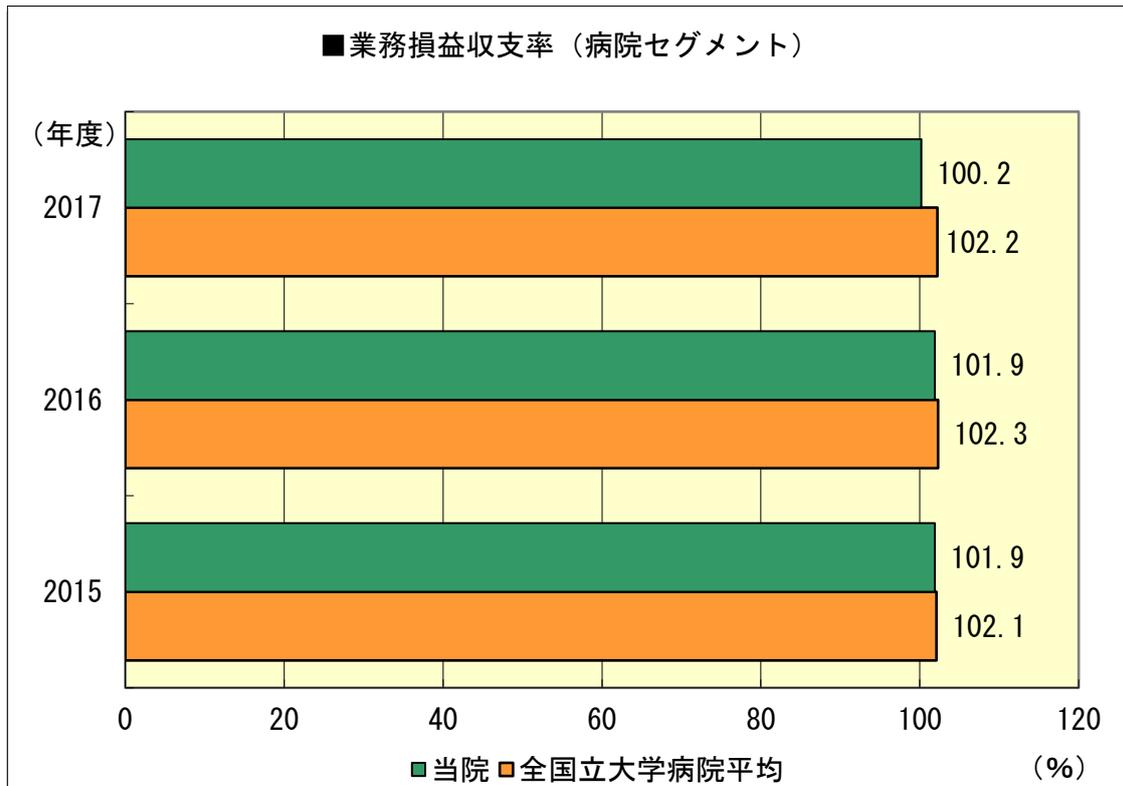
決算時に文部科学省へ提出する補足資料様式7「平成29年度収入・支出決算額調書」のうち「附属病院セグメント」に記載した値から算出

現金収支率（病院セグメント）＝（収入金額（※1）÷支出金額（※2））×100

（※1）収入金額＝前年度繰越計＋収入計－期末目的積立金等

（※2）支出金額＝支出計＋期末運営費交付金債務＋引当金増減額

75 業務損益収支率（病院セグメント）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
101.9%	101.9%	100.2%

解 説

毎期反復して行われる経常的な活動に伴う収益と費用の関係を表す指標である。この値が100%を下回ると経常損益で損失が生じていることを示す。

国立大学病院機能指標 72

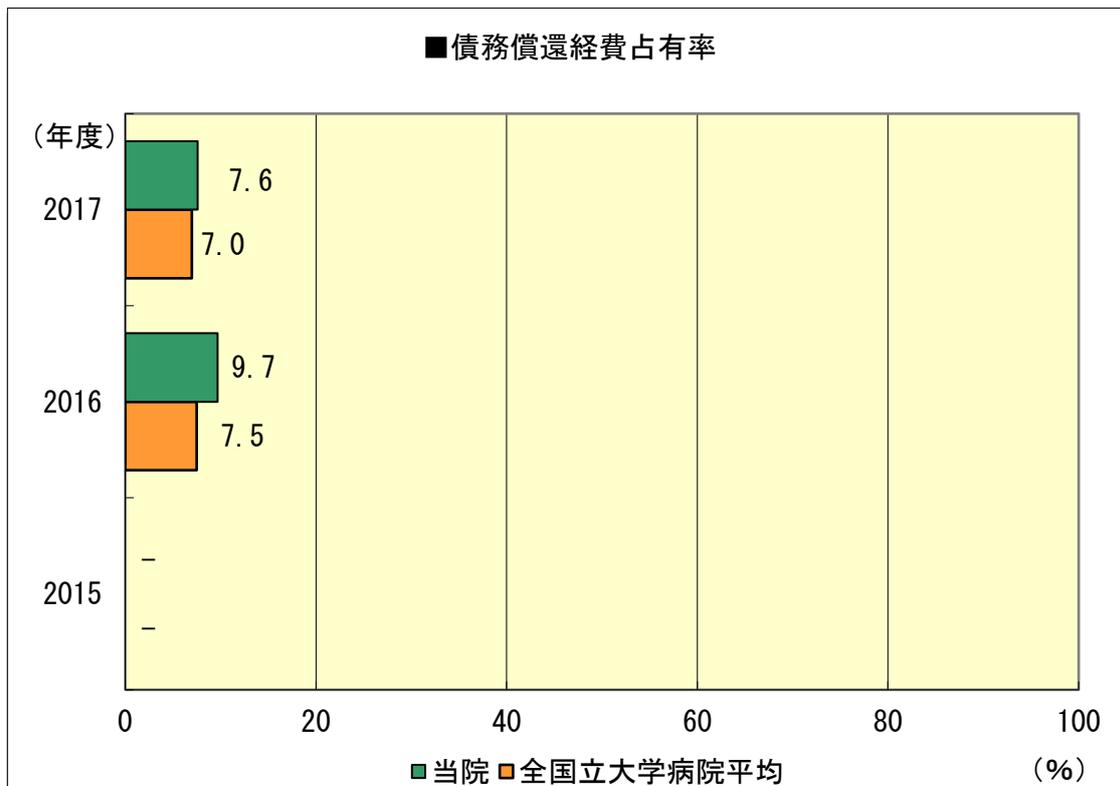
定 義

1年間の業務損益収支率

財務諸表（損益計算書）の経常収益、経常費用から算出（別院がある病院については、別院も含む）

業務損益収支率 = (経常収益 ÷ 経常費用) × 100

76 債務償還経費占有率



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
-	9.7%	7.6%

解 説

収益に占める（施設整備）債務償還経費の割合を表す指標である。苦しいと言われる国立大学病院の経営について、特に問題となっている点について具体的に数字を挙げて状況を示し対応や方策を促すための重要な指標となる。

なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値を提示している。

国立大学病院機能指標 73

定 義

1年間の債務償還経費占有率

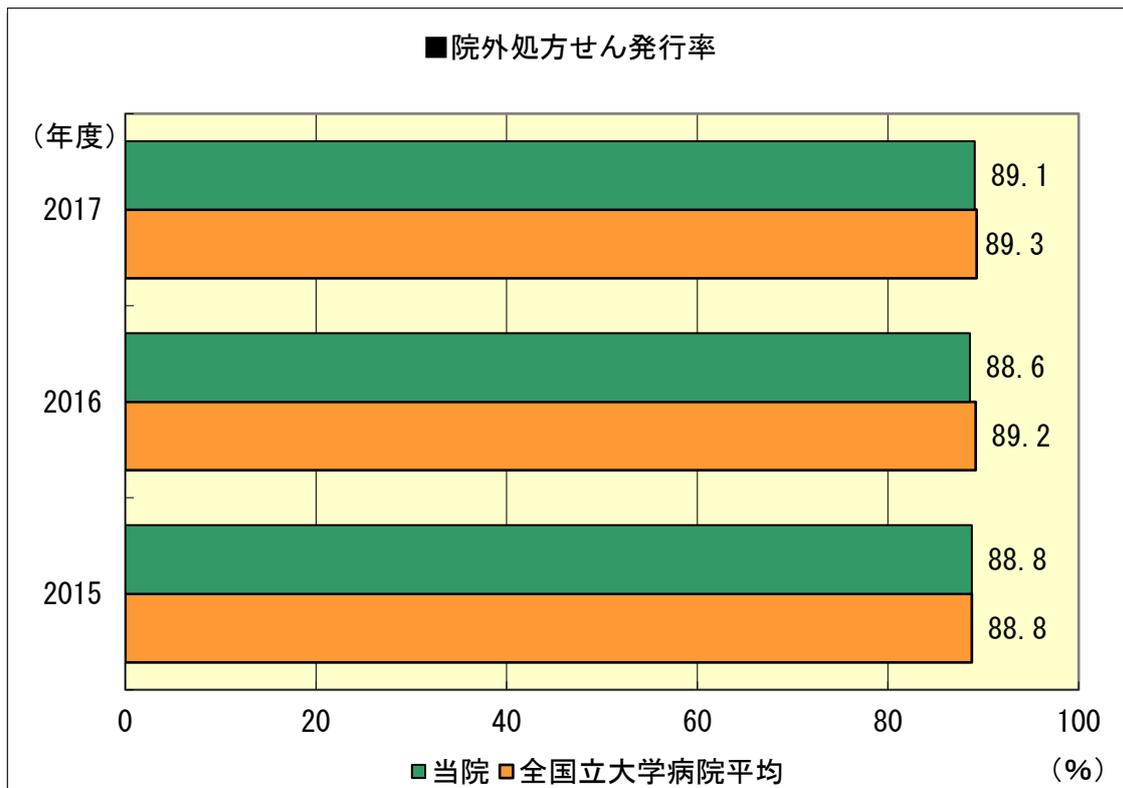
以下の式で算出

下記の a + b

a : (施設整備債務償還経費 (PFI活用も含む) ÷ 診療報酬請求金額) × 100

b : (設備整備債務償還経費 (PFI活用も含む) ÷ 診療報酬請求金額) × 100

77 院外処方せん発行率



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
88.8%	88.6%	89.1%

解 説

院外薬局へ処方せんを発行した割合を表す指標である。

国立大学病院機能指標 74

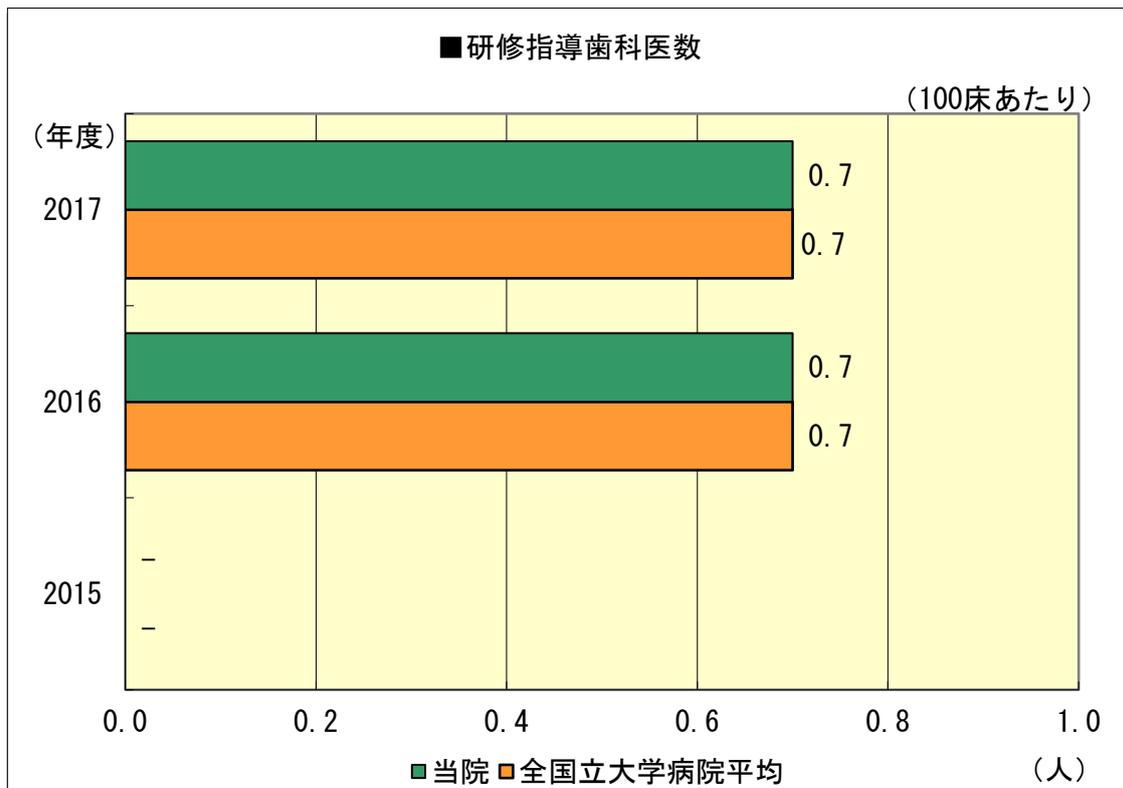
定 義

1年間の、院外処方せん発行率

以下の式で算出

院外処方せん発行率 = (外来処方せん枚数(院外)) ÷ (外来処方せん枚数(院外) + 外来処方せん枚数(院内)) × 100

78 研修指導歯科医数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	5人	5人

解 説

臨床研修指導歯科医とは、研修歯科医の教育・指導を担当できる臨床経験のある専門歯科医師のことである。国立大学附属病院の社会的責任のひとつに、診療を通じた研修歯科医の指導があり、本指標を公表することにより、優れた医療者の育成に取り組んでいること、専門歯科医の層の厚さを社会にアピールできると考える。

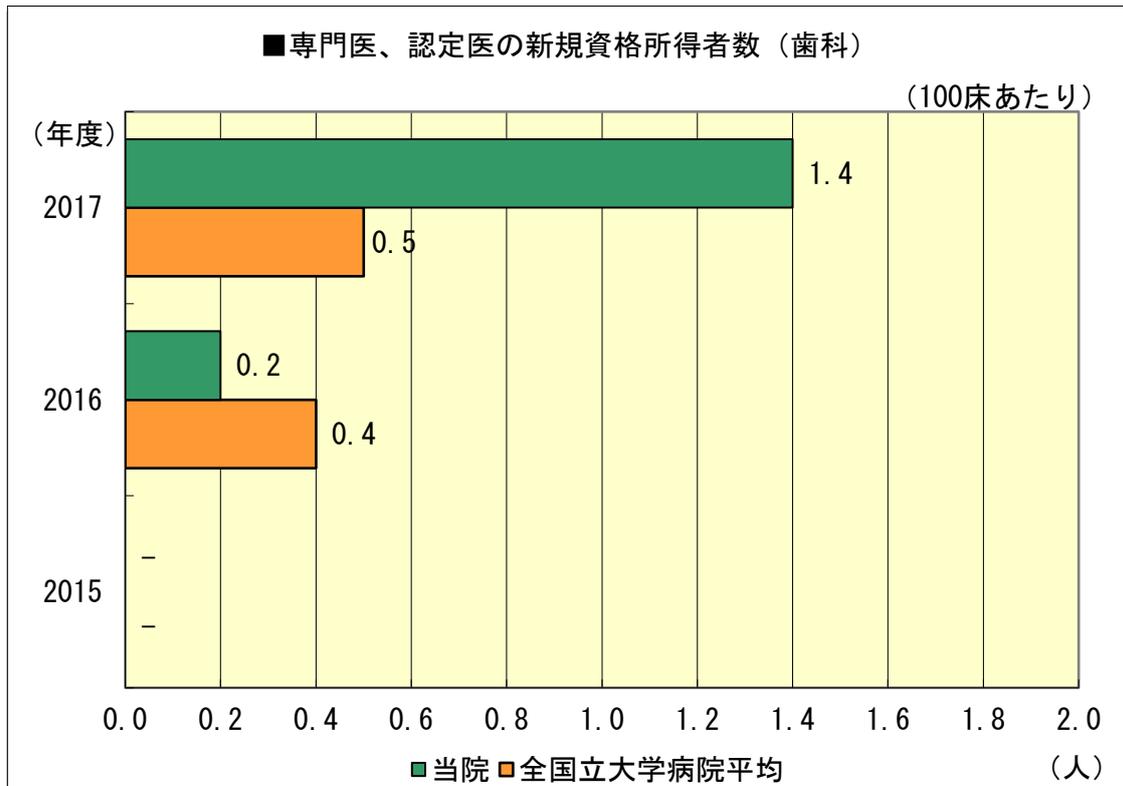
なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 75

定 義

1年間に在籍した歯科医師のうち、臨床経験7年以上で指導歯科医講習会を受講した臨床研修指導医、または臨床経験5年以上で日本歯科医学会・専門分科会の認定医・専門医の資格を有し、指導歯科医講習会を受講した臨床研修指導医の人数

79 専門医、認定医の新規資格取得者数（歯科）



当院の実績

（総数）

2015年度	2016年度	2017年度
—	2人	10人

解 説

国立大学附属病院の社会的責任のひとつに、専門性の高い歯科医師の養成・教育に力を入れることがあり、本指標を公表することにより、その教育機能、高い専門的診療力を社会に示すことができると考える。

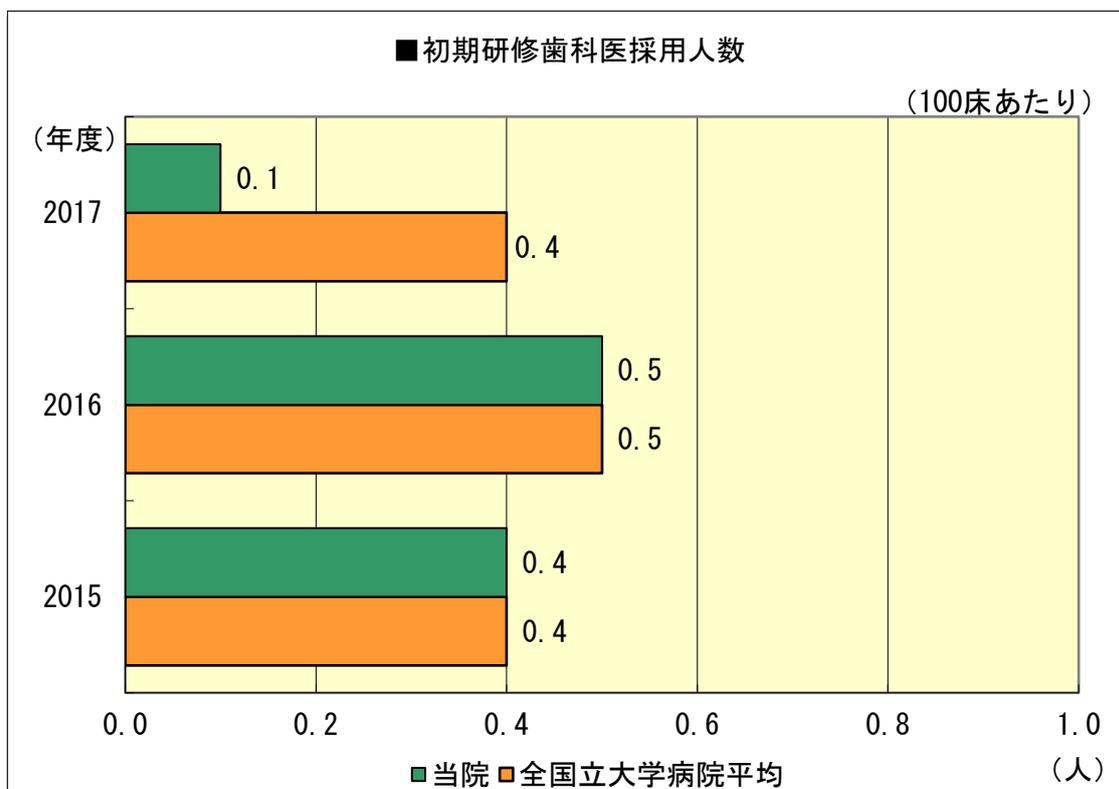
なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 76

定 義

1年間に、自院に在籍中に、専門医又は認定医の資格を取得した延べ人数
専門性をもった学術団体より与えられる専門医、認定医の新規取得者数の実数。
「34 専門医、認定医の新規資格取得者数」の内数

80 初期研修歯科医採用人数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
3人	4人	1人

解 説

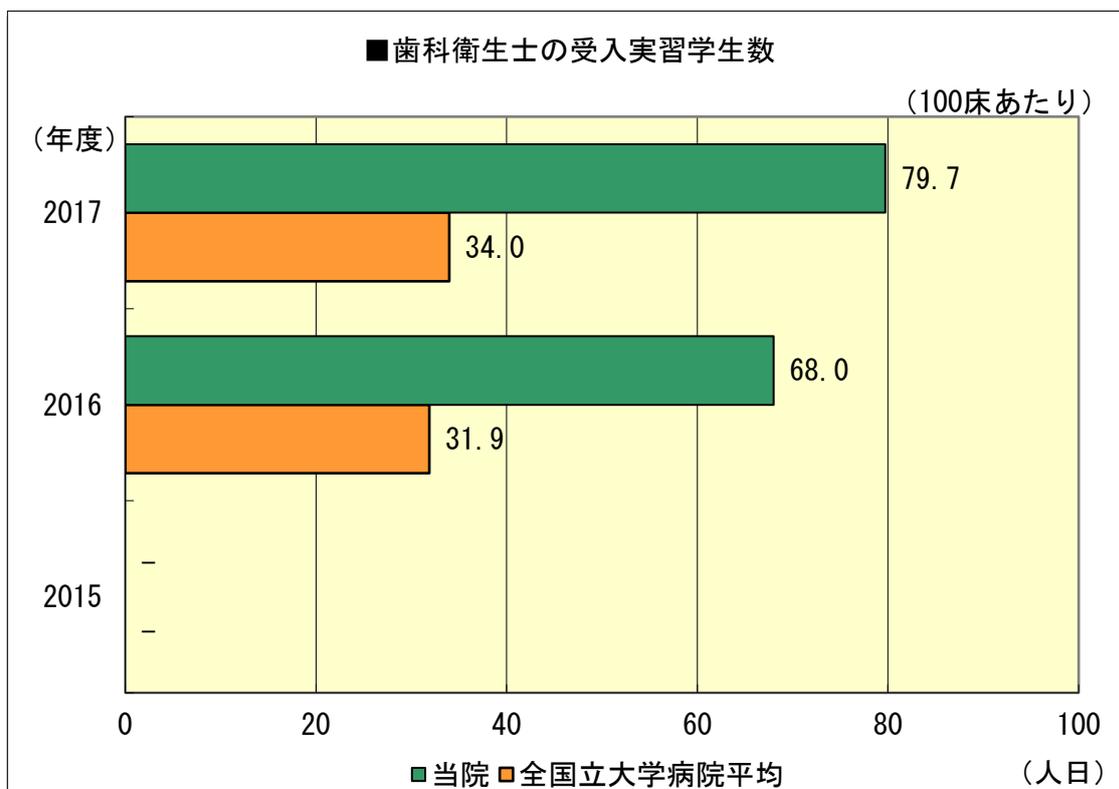
国立大学附属病院の社会的責任のひとつに、優れた歯科医療人の育成があり、本指標を公表することにより、魅力的な研修プログラムをいかに提供しているかを社会にアピールすることができると思う。

国立大学病院機能指標 77

定 義

各年6月1日時点での、初期研修歯科医採用人数

81 歯科衛生士の受入実習学生数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
—	463人日	542人日

解 説

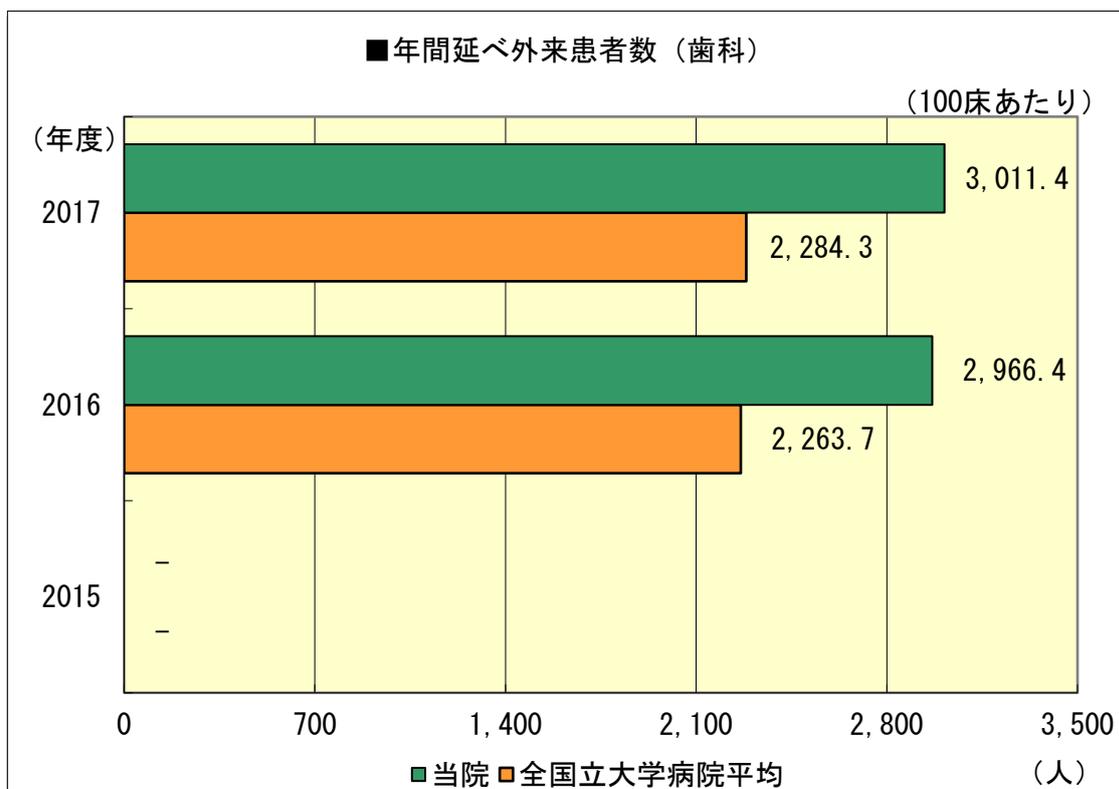
国立大学附属病院の社会的責任のひとつに、優れた歯科医療人の育成があり、本指標を公表することにより、歯科医師だけでなく歯科関連専門職の教育体制についてもアピールできると考える。歯科衛生士を目指す学生の受入れについて、単に受入人数ではなく、延べ人数（人数×日数）として、臨床実習に対する貢献の程度を評価する。なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 78

定 義

1年間の、実習受入学生の延べ人日（人数×日数）

82 年間延べ外来患者数（歯科）



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	20,172人	20,478人

解 説

国立大学附属病院における外来患者数における歯科外来患者数を独立して抽出することにより、医科系での入院外来患者数評価の適正化をはかるとともに歯科系での患者の動向を評価する。

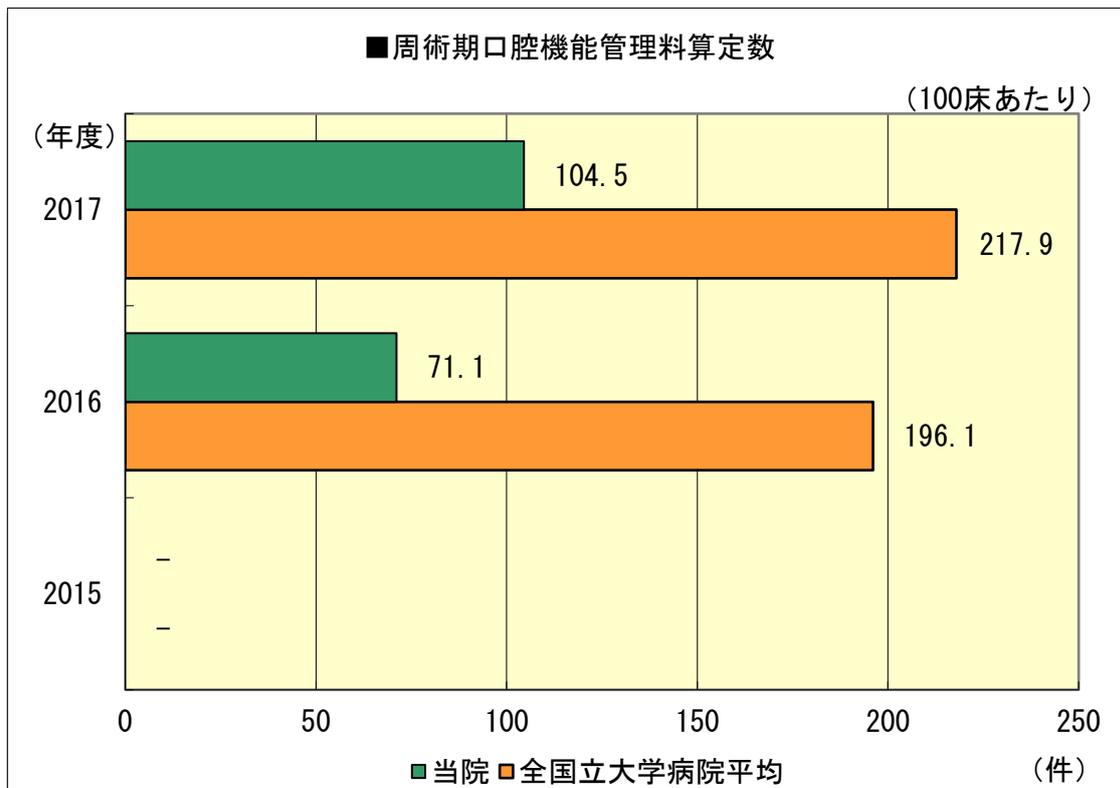
なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 79

定 義

1年間の、歯学部附属病院、統合された病院の歯科部門、歯学部のない大学病院の歯科口腔外科診療科の延べ外来受診患者数

83 周術期口腔機能管理料算定数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	484件	711件

解 説

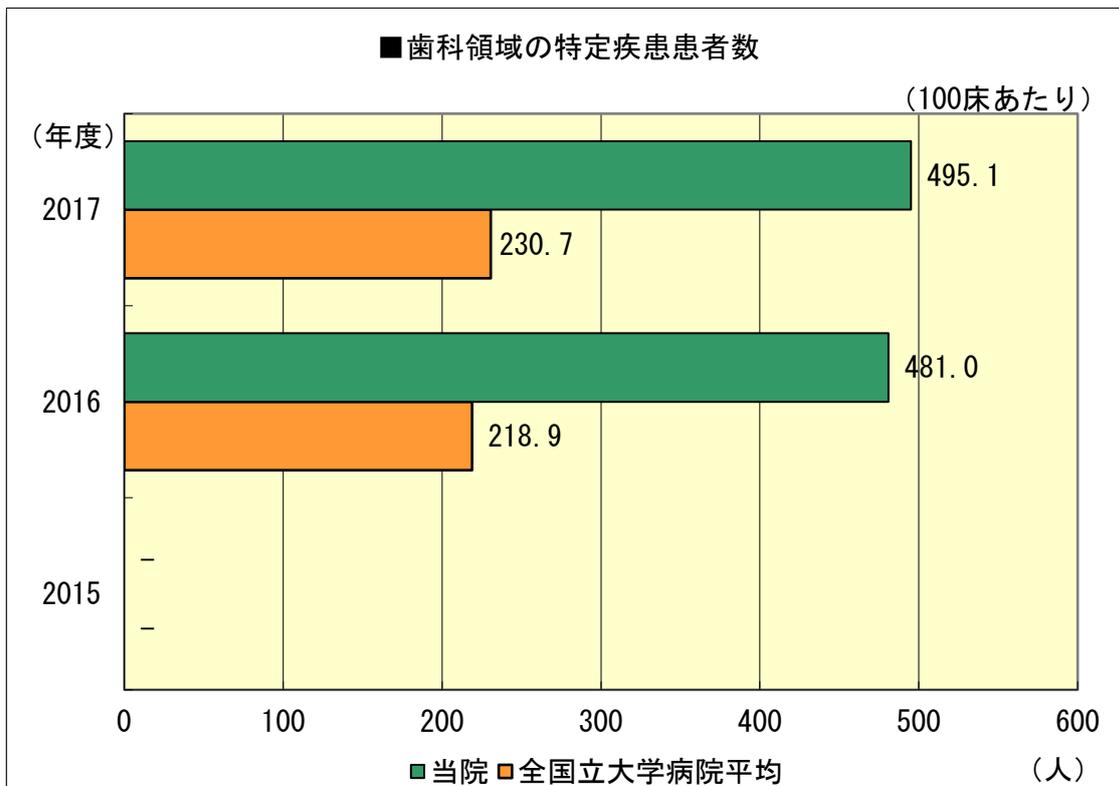
国立大学附属病院における医科歯科連携の比重を評価する。
 なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 80

定 義

1年間の、周術期口腔機能管理料算定件数（算定延べ数）

84 歯科領域の特定疾患患者数



当院の実績

(総数)

2015年度	2016年度	2017年度
-	3,271人	3,367人

解 説

歯科における難病治療への国立大学附属病院での貢献度を社会にアピールできると考えられる。

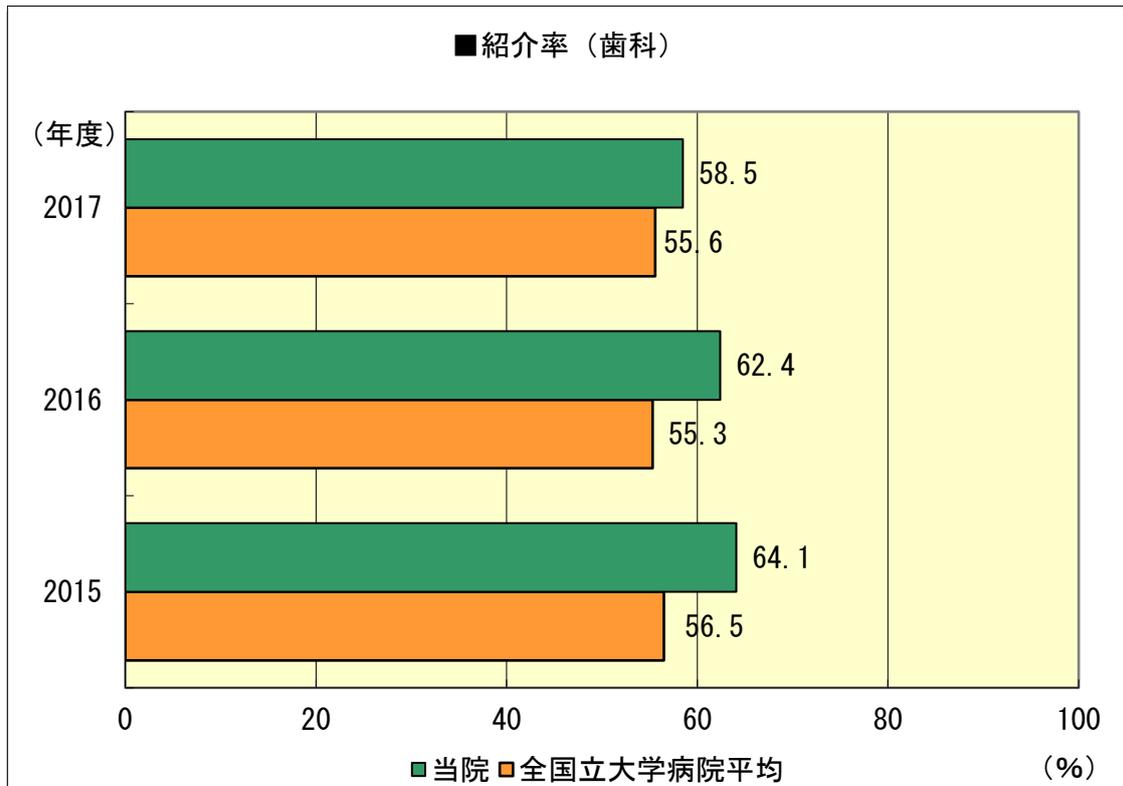
なお、2016年度より新規に調査を行ったため、それ以降の数値のみを提示している。

国立大学病院機能指標 81

定 義

1年間の、歯科特定疾患療養管理料を算定した患者数（算定延べ数）

85 紹介率（歯科）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
64.1%	62.4%	58.5%

解 説

地域の中核的な歯科病院として、地域の他の医療機関と相互理解の上で連携し、病状に応じた医療を提供していることを社会に示すことができる。特に、特定機能病院での歯科部門の特殊性を理解するために参考となり得る。

国立大学病院機能指標 82

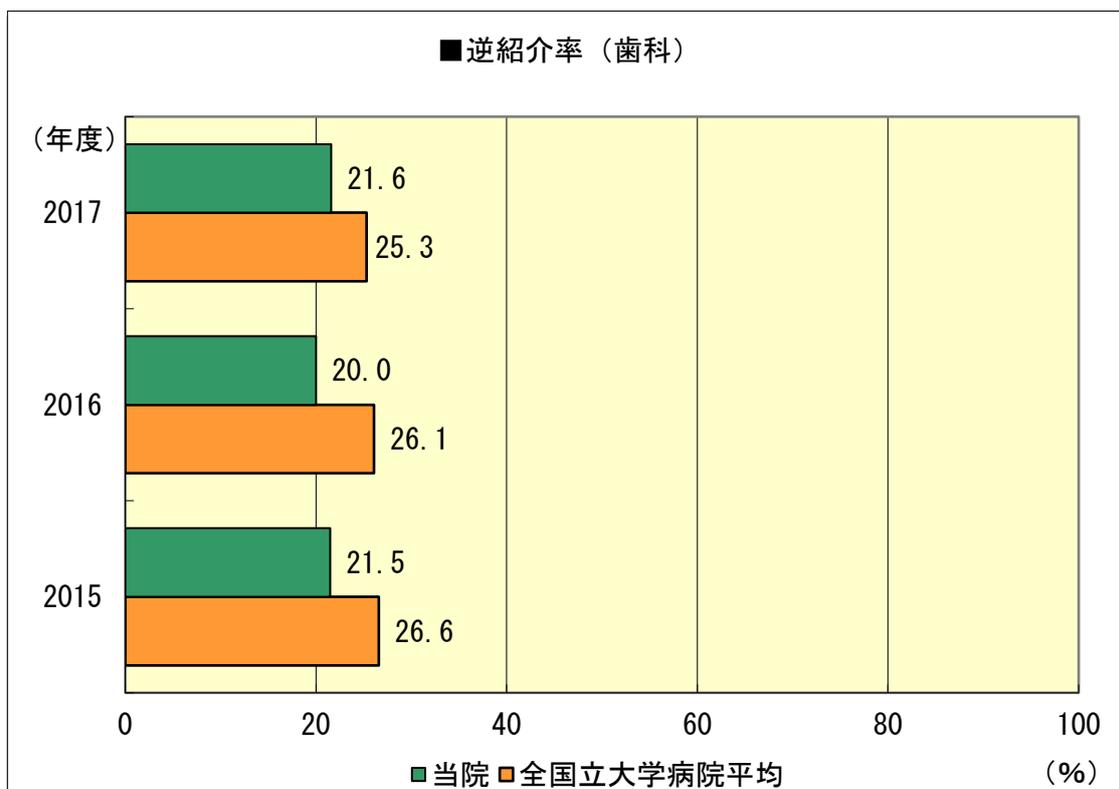
定 義

1年間の、歯科系および歯科口腔外科診療科の紹介率

以下の式で算出

紹介率（歯科）＝（紹介患者数＋救急車搬入患者数）÷初診患者数×100

86 逆紹介率（歯科）



当院の実績

2015年度	2016年度	2017年度
21.5%	20.0%	21.6%

解 説

地域の中核的な歯科病院として、地域の他の医療機関と相互理解の上で連携し、病状に応じた医療を提供していることを社会に示すことができる。特に、特定機能病院での歯科部門の特殊性を理解するために参考となり得る。

国立大学病院機能指標 83

定 義

1年間の、歯科系および歯科口腔外科診療科の逆紹介率
以下の式で算出
逆紹介率（歯科）＝逆紹介患者数÷初診患者数×100

医療統計 2018年度（平成30年度）

発行 2019年7月

編集 群馬大学医学部附属病院 診療情報管理部

編集責任者 齋藤 繁（副病院長・診療情報管理部長）



群馬大学医学部附属病院